

5875

教授要目

付 卒業論文執筆要領

昭和 62 年 度

小樽商科大学

小樽商科大学教授要目

目 次

昭和62年 4月14日(火)	入学式
4月15日(水)	2・3・4年次開講
4月15日(水)～4月16日(木)	新入生合宿研修
4月18日(土)	新入生合宿研修
4月20日(月)	1年次開講
4月21日(火)	履修開始
4月22日(水)	履修開始
4月23日(木)	履修開始
4月24日(金)	履修開始
4月25日(土)	履修開始
4月26日(日)	履修開始
4月27日(月)	履修開始
4月28日(火)	履修開始
4月29日(水)	履修開始
4月30日(木)	履修開始
5月1日(金)	履修開始
5月2日(土)	履修開始
5月3日(日)	履修開始
5月4日(月)	履修開始
5月5日(火)	履修開始
5月6日(水)	履修開始
5月7日(木)	履修開始
5月8日(金)	履修開始
5月9日(土)	履修開始
5月10日(日)	履修開始
5月11日(月)	履修開始
5月12日(火)	履修開始
5月13日(水)	履修開始
5月14日(木)	履修開始
5月15日(金)	履修開始
5月16日(土)	履修開始
5月17日(日)	履修開始
5月18日(月)	履修開始
5月19日(火)	履修開始
5月20日(水)	履修開始
5月21日(木)	履修開始
5月22日(金)	履修開始
5月23日(土)	履修開始
5月24日(日)	履修開始
5月25日(月)	履修開始
5月26日(火)	履修開始
5月27日(水)	履修開始
5月28日(木)	履修開始
5月29日(金)	履修開始
5月30日(土)	履修開始
5月31日(日)	履修開始
6月1日(月)	履修開始
6月2日(火)	履修開始
6月3日(水)	履修開始
6月4日(木)	履修開始
6月5日(金)	履修開始
6月6日(土)	履修開始
6月7日(日)	履修開始
6月8日(月)	履修開始
6月9日(火)	履修開始
6月10日(水)	履修開始
6月11日(木)	履修開始
6月12日(金)	履修開始
6月13日(土)	履修開始
6月14日(日)	履修開始
6月15日(月)	履修開始
6月16日(火)	履修開始
6月17日(水)	履修開始
6月18日(木)	履修開始
6月19日(金)	履修開始
6月20日(土)	履修開始
6月21日(日)	履修開始
6月22日(月)	履修開始
6月23日(火)	履修開始
6月24日(水)	履修開始
6月25日(木)	履修開始
6月26日(金)	履修開始
6月27日(土)	履修開始
6月28日(日)	履修開始
6月29日(月)	履修開始
6月30日(火)	履修開始
7月1日(水)	履修開始
7月2日(木)	履修開始
7月3日(金)	履修開始
7月4日(土)	履修開始
7月5日(日)	履修開始
7月6日(月)	履修開始
7月7日(火)	履修開始
7月8日(水)	履修開始
7月9日(木)	履修開始
7月10日(金)	履修開始
7月11日(土)	履修開始
7月12日(日)	履修開始
7月13日(月)	履修開始
7月14日(火)	履修開始
7月15日(水)	履修開始
7月16日(木)	履修開始
7月17日(金)	履修開始
7月18日(土)	履修開始
7月19日(日)	履修開始
7月20日(月)	履修開始
7月21日(火)	履修開始
7月22日(水)	履修開始
7月23日(木)	履修開始
7月24日(金)	履修開始
7月25日(土)	履修開始
7月26日(日)	履修開始
7月27日(月)	履修開始
7月28日(火)	履修開始
7月29日(水)	履修開始
7月30日(木)	履修開始
7月31日(金)	履修開始
8月1日(土)	履修開始
8月2日(日)	履修開始
8月3日(月)	履修開始
8月4日(火)	履修開始
8月5日(水)	履修開始
8月6日(木)	履修開始
8月7日(金)	履修開始
8月8日(土)	履修開始
8月9日(日)	履修開始
8月10日(月)	履修開始
8月11日(火)	履修開始
8月12日(水)	履修開始
8月13日(木)	履修開始
8月14日(金)	履修開始
8月15日(土)	履修開始
8月16日(日)	履修開始
8月17日(月)	履修開始
8月18日(火)	履修開始
8月19日(水)	履修開始
8月20日(木)	履修開始
8月21日(金)	履修開始
8月22日(土)	履修開始
8月23日(日)	履修開始
8月24日(月)	履修開始
8月25日(火)	履修開始
8月26日(水)	履修開始
8月27日(木)	履修開始
8月28日(金)	履修開始
8月29日(土)	履修開始
8月30日(日)	履修開始
8月31日(月)	履修開始
9月1日(火)	履修開始
9月2日(水)	履修開始
9月3日(木)	履修開始
9月4日(金)	履修開始
9月5日(土)	履修開始
9月6日(日)	履修開始
9月7日(月)	履修開始
9月8日(火)	履修開始
9月9日(水)	履修開始
9月10日(木)	履修開始
9月11日(金)	履修開始
9月12日(土)	履修開始
9月13日(日)	履修開始
9月14日(月)	履修開始
9月15日(火)	履修開始
9月16日(水)	履修開始
9月17日(木)	履修開始
9月18日(金)	履修開始
9月19日(土)	履修開始
9月20日(日)	履修開始
9月21日(月)	履修開始
9月22日(火)	履修開始
9月23日(水)	履修開始
9月24日(木)	履修開始
9月25日(金)	履修開始
9月26日(土)	履修開始
9月27日(日)	履修開始
9月28日(月)	履修開始
9月29日(火)	履修開始
9月30日(水)	履修開始
10月1日(木)	履修開始
10月2日(金)	履修開始
10月3日(土)	履修開始
10月4日(日)	履修開始
10月5日(月)	履修開始
10月6日(火)	履修開始
10月7日(水)	履修開始
10月8日(木)	履修開始
10月9日(金)	履修開始
10月10日(土)	履修開始
10月11日(日)	履修開始
10月12日(月)	履修開始
10月13日(火)	履修開始
10月14日(水)	履修開始
10月15日(木)	履修開始
10月16日(金)	履修開始
10月17日(土)	履修開始
10月18日(日)	履修開始
10月19日(月)	履修開始
10月20日(火)	履修開始
10月21日(水)	履修開始
10月22日(木)	履修開始
10月23日(金)	履修開始
10月24日(土)	履修開始
10月25日(日)	履修開始
10月26日(月)	履修開始
10月27日(火)	履修開始
10月28日(水)	履修開始
10月29日(木)	履修開始
10月30日(金)	履修開始
10月31日(土)	履修開始
11月1日(日)	履修開始
11月2日(月)	履修開始
11月3日(火)	履修開始
11月4日(水)	履修開始
11月5日(木)	履修開始
11月6日(金)	履修開始
11月7日(土)	履修開始
11月8日(日)	履修開始
11月9日(月)	履修開始
11月10日(火)	履修開始
11月11日(水)	履修開始
11月12日(木)	履修開始
11月13日(金)	履修開始
11月14日(土)	履修開始
11月15日(日)	履修開始
11月16日(月)	履修開始
11月17日(火)	履修開始
11月18日(水)	履修開始
11月19日(木)	履修開始
11月20日(金)	履修開始
11月21日(土)	履修開始
11月22日(日)	履修開始
11月23日(月)	履修開始
11月24日(火)	履修開始
11月25日(水)	履修開始
11月26日(木)	履修開始
11月27日(金)	履修開始
11月28日(土)	履修開始
11月29日(日)	履修開始
11月30日(月)	履修開始
12月1日(火)	履修開始
12月2日(水)	履修開始
12月3日(木)	履修開始
12月4日(金)	履修開始
12月5日(土)	履修開始
12月6日(日)	履修開始
12月7日(月)	履修開始
12月8日(火)	履修開始
12月9日(水)	履修開始
12月10日(木)	履修開始
12月11日(金)	履修開始
12月12日(土)	履修開始
12月13日(日)	履修開始
12月14日(月)	履修開始
12月15日(火)	履修開始
12月16日(水)	履修開始
12月17日(木)	履修開始
12月18日(金)	履修開始
12月19日(土)	履修開始
12月20日(日)	履修開始
12月21日(月)	履修開始
12月22日(火)	履修開始
12月23日(水)	履修開始
12月24日(木)	履修開始
12月25日(金)	履修開始
12月26日(土)	履修開始
12月27日(日)	履修開始
12月28日(月)	履修開始
12月29日(火)	履修開始
12月30日(水)	履修開始
12月31日(木)	履修開始

学年暦	
I 授業科目履修方法	1
1 昭和62年度開講科目	1
2 履修方法	7
3 科目試験の受験について	24
II 教授要目	25
1 一般教育科目	25
2 外国語科目	31
3 保健体育科目	58
4 基礎教育科目	63
5 専門教育科目	68
6 教職科目	109
III 研究指導要項	112
IV 一般教育ゼミ	136
V 卒業論文執筆要領	138

目要選修学大経商樹小

次目

1	志望選修科目案第 1	1
1	日科選修科目案第 1	1
7	志望選修 2	2
24	アロコシ録受の録修科目 8	8
25	目要選修 II	II
25	日科選修第 1	1
31	日科選修第 2	2
32	日科選修第 3	3
33	日科選修第 4	4
33	日科選修第 5	5
38	日科選修第 6	6
801	日科選修第 7	7
811	取費事務案第 III	III
821	日科選修第 8	8
831	取費事務案第 V	V

学年日曆 (昭和62年度)

1. 昭和62年度開講科目

区	科目	開講日	単位数	配当年次	担当教員	備考
一般教育科目	人文社会科学系	昭和62年 4月14日(火)	4	I	入学式	
		4月15日(水)	4	I	2・3・4年次開講	
		4月15日(水)~4月16日(木)	4	I	新入生合宿研修	
		4月17日(金)~4月18日(土)	4	I	新入生オリエンテーション	
		4月20日(月)	4	I	1年次開講	
		5月8日(金)	4	I	履修届締切日	A・B 2クラス
		6月1日(月)~6月13日(土)	4	I	履修確認期間	
		7月7日(火)	4	I	創立記念日	
		7月13日(月)~7月24日(金)	4	I	履修科目の取消期間	済大学教授
		7月22日(水)~7月28日(火)	4	I	夏季集中講義	北海道大学助教授
		7月22日(水)~8月31日(月)	4	I	夏季休業	A・B 2クラス
		9月17日(木)	4	I	臨時休業	北海道大学助教授
		9月18日(金)~9月30日(水)	4	I	前期定期試験	
		10月1日(木)	4	I	後期授業開始	
		11月7日(土)	4	I	研究指導所属オリエンテーション	
11月9日(月)~11月30日(月)	4	I	研究指導募集選考期間	名誉教授		
12月2日(水)	4	I	研究指導内定者発表	2クラス		
外国語	英語	昭和62年 12月1日(火)~12月16日(水)	4	I	履修科目取消期間	
		12月14日(月)~12月19日(土)	4	I	冬季集中講義	
		12月13日(日)~1月21日(木)	4	I	冬季休業	
		昭和63年 1月30日(土)	4	I	卒業論文提出締切日	
		2月1日(月)	4	I	学科課程所属オリエンテーション	
		2月1日(月)~2月6日(土)	4	I	学科課程所属募集期間	
		2月13日(土)	4	I	臨時休業	
		2月15日(月)~2月27日(土)	4	I	後期定期試験	
		3月16日(水)	4	I	卒業判定会議	
		3月19日(土)	4	I	卒業式	

I 授業科目履修方法

1. 昭和62年度開講科目

区分	授業科目	単位数	配当年次	担当教官	備考	
一般 教育 科目	人文科学系	哲学	4	I	渡辺(祐)教授	北海道大学助教 A・B 2クラス
	心理学	4	II	渡辺(祐)教授		
	心理	4	I	和田(完)教授		
	歴史	4	I	(前期)栗生沢講師 (後期)未定		
	日本文学	4	I	村山教授		
	外国文学	英文学	4	II	豊国教授	
	ドイツ文学	4	I	中川教授		
	社会科学系	社会科学概論	2	II	杉山講師	
	社会学	4	II	小林講師		
	社会思想史	4	I	倉田教授		
社会教育	4	II・III	上野助教			
政治学	4	II	田口講師			
自然科学系	物理学	4	I	原田教授	北海道大学名誉教授 A・B 2クラス	
	自然科学概論	4	II	(前期)原田教授 (後期)山田教授		
	化学	4	I	木村講師		
	生物学	4	I	山田(家)教授		
外国語	英語	I 4 II 4 III 2	I II III	備考参照	備考参照	
	ドイツ語	I 4 II 4	I II			
	フランス語	I 4 II 4	I II	備考参照		
	中国語	I 4 II 4	I II	木之内講師		

語	外国語	スペイン語 { I 4 I } { II 4 II }	山田(真)助教授			
		ロシア語 { I 4 I } { II 4 II }			松本(忠)教授	
保健体育科目	体育講義	2	II	{ A(前期) 大竹 B(後期) 講師		本学保健管理センター所長・教授
	体育実技	2	I・II	{ 杉山教授 藤江教授 田野助教授 中川講師	小樽商業高等学校教諭	
基礎	経済学概論	4	I	{ (前期) 鶴沢助教授 (後期) 船津助教授		
				{ (前期) 早見教授 (後期) 山本(賢)助教授		
教育科目	商学概論	4	I	{ 石原教授 篠崎教授 久野教授		
	法学概法	4	I	{ (前期) 結城助教授 (後期) 島田助教授		
科目	管理科学概論	4	I	{ (前期) 樋口教授 (後期) 沼田教授		
	数学	4	I	{ 白川教授 兼岩助教授		
専門教育科目	経済	統計学	4	II	久次教授	(後期)
		数理統計学	4	III	久次教授	
		経済統計学	4	III・IV	本間助教授	
		経済原論 I	4	II	鶴沢助教授	
		経済原論 II	4	II・III	山本(賢)助教授	
		経済学史	4	III	栗田助教授	
経済原論 III	4	II・III	花田講師	(前期) 本学短期大学部助教授		

専科	学	計量経済学	4	III	遠藤助教授	(前期)		
		経済史概論	4	II	井上教授			
		日本経済史	4	III	長谷川教授			
		日経経済政策	4	III	板谷講師			
		農業経済学	4	III・IV	崎浦講師		酪農総合研究所所長 本学名誉教授	
		社会政策学	4	III	吉武講師			
		社財国	4	III・IV	早見教授		(後期)	
		国際経済学	4	III	船津助教授			
		貿易政策論	4	III・IV	佐竹助教授			
		金融経済論	4	III・IV	今助教授			
		金融政策論	4	III・IV	坪沼講師			
		国際金融論	4	III・IV	松井講師			
商業学	科	流通組織論	4	II	片桐講師	本学短期大学部教授 (後期)		
		マーケティング論	4	III	高宮城講師			
		貿易論	4	III	高森田助教授	小樽女子短期大学長		
		商業英語	4	III	北村講師			
		証券市場論	4	III・IV	石原教授	A・B 2クラス 本学短期大学部助教授		
		証券金融論	4	III・IV	青山助教授			
		経営学原論	4	II	篠崎教授	本学短期大学部助教授 (前期)		
		経営学形態論	4	III	高橋講師			
		経営管理論	4	II	小田助教授	北海学園大学助教授 (後期)		
		労務管理論	4	III・IV	大月講師			
		国際企業論	4	III	東井村講師	本学短期大学部助教授 (前期)		
		簿記学	4	III	高田講師			
科目	目	簿記学	4	II	{ A 松本助教授 B 山本(真)助教授	北海道大学助教授		
		簿記演習学	4	III・IV	山本(真)助教授			
		監査論	4	III	久野教授	(夏季集中) 成蹊大学教授		
		原価計算論	4	III・IV	三沢講師			
		経営分析	4	III	福島助教授	中助教授		
		憲法	4	II	結城助教授			
		商業	目	行政法 I	4	III	秋山教授	(夏季集中) 立教大学教授 本学短期大学部助教授
				行政法 II	4	III・IV	{ (前期) 畠山講師 (後期) 猪股講師	

専 門	学 科 ・ 經 営 法 学 コ ー ス	財 産 法 I	4	II	神 田 教 授	本学短期大学部講師 弁護士業 本学短期大学部講師 (後期) (夏季集中) 山形大学講師 (冬季集中) 北海学園大学教授
		財 産 法 II	4	III	藤 原 講 師	
		民 事 訴 訟 法	4	III・IV	池 田 講 師	
		会 社 法	4	III	(前期)野田講師 (後期)浅木講師	
		商 取 引 法	4	III・IV	浅 木 講 師	
		有 価 証 券 法	4	III・IV	青 竹 教 授	
		經 済 刑 法	4	III	和 田(健) 助 授	
		勞 働 法	4	III	丸 山 助 授	
		社 会 保 障 法	2	III・IV	加 藤 講 師	
		環 境 法	2	III・IV	熊 本 講 師	
		国 際 法 I	4	II	中 村(恵) 助 授	
		国 際 法 II	4	III・IV	(前期)中村(恵)助教授 (後期)清水助教授	
		国 際 機 構 論	4	III	大 谷 教 授	
		国 際 經 済 法	4	III・IV	清 水 助 授	
		国 際 取 引 法	4	III・IV	桑 原 助 授	
教 育 科 目	管 理 科 学 科 目	管 理 科 学 通 論	6	II	浅 利 講 師	東海大学助教授 (前期) 元北海道大学教授 (前期)A杉本助教授 B中村(隆)助教授 (後期)若林助教授
		管 理 科 学 I	6	III	若 林 助 授	
		管 理 科 学 II	6	III	樋 口 教 授	
		管 理 科 学 III	6	III	(前期)沼田教授 (後期)戸島教授	
		經 営 情 報 論	6	II・III	山 田(一) 教 授	
		会 計 情 報 論	6	III・IV	山 田(一) 教 授	
		応 用 数 学 (代 数)	6	II	沼 田 教 授	
		応 用 数 学 (解 析)	6	II	中 村(隆) 助 授	
		応 用 数 学 (統 計 I)	6	III	清 水 川 助 授	
		応 用 数 学 特 講	3	III・IV	小 林 講 師	
		情 報 処 理 I	6	II	(前期)A杉本助教授 B中村(隆)助教授 (後期)若林助教授	
		情 報 処 理 II	6	III・IV	杉 本 助 授	
		情 報 処 理 III	6	III	戸 島 教 授	
		研 究 指 導	12	III・IV	備 考 参 照	

教 職 科 目	教 育 心 理 学	4	II・III	湯 浅 講 師	北海道薬科大学助教授 小樽女子短期大学教授 本学短期大学部助教授
	教 育 実 習	2	III・IV	久 次 教 授 小 田 助 授 福 島 助 授 島 田 助 授 戸 島 教 授 上 野 助 授 君 羅 助 授 上 野 助 授	
	教 育 史	4	II・III	上 野 助 授	
	職 業 指 導	4	III	松 田 講 師	
	英 文 学 史	4	I・II	永 原 教 授	
	英 文 学 演 習 I	4	II~IV	君 羅 助 授	
	言 語 学 概 論	4	II~IV	大 島 講 師	
	英 語 学 演 習 I	4	II~IV	下 村 助 授	

備 考

★英語 I・II・III担当教官名

永原教授, 豊国教授
君羅助教授, 下村助教授, 鶴見助教授
山本(久)講師
マイケル・エドワード・カー外国人教師

[非常勤講師]

宮町講師(小樽女子短期大学助教授), 高橋講師(北海道大学助教授),
大島講師(本学短期大学部助教授), 片山講師(北海道大学教授),
西村講師(小樽女子短期大学助教授), 下宮講師(武蔵女子短期大学
助教授), 浪田講師(北海道大学教授), 鈴木講師(小樽女子短期大
学教授), 菊地講師(本学短期大学部教授), 佐藤講師(小樽女子短
期大学助教授), 根本講師(札幌医科大学衛生短期大学部助教授)

マッシュ・M・ハンレイ外国人講師(北海道大学外国人教師), パメ
ラ・ガリアーニ外国人講師(北海道大学外国人教師)

★ドイツ語担当教官名

中川教授
大塚助教授
寺田講師

[非常勤講師]

加納講師（北海道大学助教授），筑和講師（北海道大学助教授），吉岡講師（北海道大学助教授），副島講師（北海道大学講師）
ローレンツ・イエーガー外国人講師（北海道大学外国人教師）

★フランス語担当教官名

江口助教授，高橋（純）助教授
〔非常勤講師〕

梶野講師（北海道大学教授），大友講師（北海道大学助教授），堀田講師（北海道大学非常勤講師）

ブリュノ・デュボア外国人講師（北海道大学非常勤講師）

★研究指導担当教官名

〔経済学科〕

井上教授，長谷川教授，早見教授，久次教授

鷯沢助教授，遠藤助教授，栗田助教授，今助教授，佐竹助教授

船津助教授，本間助教授，山本（賢）助教授

板谷講師，坪沼講師，松井講師

〔商業学科・商学コース〕

石原教授，久野教授，篠崎教授，和田（完）教授

青山助教授，小田助教授，中助教授，福島助教授，松本（康）助教授，

森田助教授，山本（真）助教授

高田講師

〔商業学科・経営法学コース〕

青竹教授，秋山教授，大谷教授，神田教授

桑原助教授，島田助教授，清水助教授，中村（恵）助教授

丸山助教授，結城助教授，和田（健）助教授

浅木講師

〔管理科学科〕

戸島教授，沼田教授，樋口教授，山田（一）教授

清水川助教授，杉本助教授，中村（隆）助教授，若林助教授

〔商業教員養成課程〕

永原教授

君羅助教授，下村助教授

山本（久）講師

2 履修方法

学生は4年間在学し，次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

- (1) 単位修得については，各入学年度および各自が所属している，または，所属しようとする学科・課程によって異なるので，十分注意すること。
- (2) 2-(I)は昭和60年度以降入学者，2-(II)は昭和54年度～昭和59年度入学者，2-(III)は昭和53年度入学者が適用される。また，商業教員養成課程以外の学生で，教員免許取得を希望する者は，2-(IV)を参照のこと。
- (3) 英語（I・II・III）は，1年次毎週4時間4単位，2年次毎週4時間4単位，3年次毎週2時間2単位，合計10単位が必修である。
- (4) 英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語）は，いずれか1か国語を選択必修とし，1年次，2年次とも毎週4時間4単位づつ計8単位を履修しなければならない。
- (5) 保健体育科目の実技2単位については，1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ ，2年次前期または後期に毎週2時間2単位 $\frac{1}{3}$ ，計2単位，講義については，2年次前期または後期に毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。
- (6) 英文学史，英文学概論，英文学演習I，英文学演習II，言語学概論，英語学概論，英語学演習I，英語学演習II，英会話・英作文（本年度開講していない科目も含まれている）は高等学校教諭英語2級普通免許状取得のための授業科目であるが，卒業所要単位に算入されていない科目とし履修できる。
- (7) 研究指導は，毎週3時間，3年次から2か年継続授業で12単位（卒業論文を含む）である。なお，履修方法は，入学年度によって，違いがあるので注意すること。

① 昭和53年度以前入学者にあつては，所属する学科・コース・課程の区分を問わず各自の志望する研究指導を自由に履修することができる。

② 昭和54年度以降入学者にあつては，原則として，所属する学科・コースの研究指導を履修するものとする。商業教員養成課程に所属する学生は，学科・コースの区分を問わず，各自の志望する研究指導を履修することができる。なお，昭和59年度実質3年次生からは，英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り，教科に関する専門科目（英語科）の研究指導

を履修することができる（詳細については第12表を参照のこと）。

研究指導を履修しない学生（いわゆるノンゼミと称する学生）は研究指導分の12単位をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。

また、商業教員養成課程に所属する学生にあつては、経済学科・商業学科（各コース）・管理科学科の専門教育科目によって充足しなければならない。

- (8) 商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で「高等学校2級普通免許状（商業・英語）」の取得を希望する者は、第15表（商業）、第16表(1)または(2)（英語）の単位をそれぞれ修得しなければならない。

また、「中学校教諭英語科1級」の免許状を希望する者は、第16表の(3)の単位を修得すること。ただし、管理科学科に所属する学生は「中学校教諭英語科1級」の免許状は取得できない。なお、これらの単位は卒業所要単位以外の単位である。

- (9) 2年次から、いずれかの学科または課程に所属するが、1年次の終わりまでに、卒業所要単位数に算入される1年次配当科目のうちから16単位以上を修得していない場合は、(ア)学科または課程に所属することができない。
 (イ)2年次配当科目の履修はできない。(ウ)卒業が1年以上延期される。また、この単位数を在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。
 なお、(9)については、昭和56年度入学生から適用される。
- (10) 2年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1・2年次配当科目のうちから55単位以上を修得していない場合は、(ア)3・4年次配当科目の履修は認められない。(イ)研究指導に所属できない。(ウ)卒業が1年以上延期される。また、この単位を在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる（昭和55年度以前入学者については、この単位を在学期間6年を経過しても修得できない場合は除籍になる）。

この55単位の算入については下記のとおりなので、履修上注意すること。

記

科目	年度	昭和59年度生以前	昭和60年度生以降
一般教育科目		28単位まで算入	24単位まで算入
外国語科目		16単位 "	16単位 "
体育（実技・講義）		4単位 "	4単位 "
基礎教育科目		8単位 "	12単位 "
専門教育科目		2年次配当科目	2年次配当科目

ただし、専門教育科目については所属学科以外の科目について、28単位まで算入、また商業教員養成課程については専門科目の外に教職科目も算入する。

(11) 単位の互換制について

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。この場合の身分は北大の特別聴講学生となる。

(ア) 聴講出願対象者

学則に関する細則 1. 科目履修細則第5条に規定する〔1, 2年次配当科目55単位以上〕単位数を修得した62年4月現在の4年次生。

(イ) 聴講科目

聴講科目	単位	担当教官	開講時期
世界経済論	4	佐々木	後期
経済学特殊講義Ⅶ	2	吉野	後期
経済学特殊講義Ⅷ	2	中兼	集中
産業技術論	4	吉田	後期

① 「世界経済論」, 「経済学特殊講義Ⅶ」, 「経済学特殊講義Ⅷ」は本学の経済学科の専門科目, 「産業技術論」は本学の商業学科商学コースの専門教育科目として扱い、卒業所要単位数に算入する。

② 1科目につき、20名が限度。

(ウ) 聴講期間

聴講科目の開講時期で後期とあるのは、昭和62年10月～昭和63年3月、集中とあるのは、昭和62年7月20日～7月24日である。

(エ) 聴講料 不要。

(12) 教職関係科目について

次のとおり開講するので、履修計画においては注意のこと。

科目名	昭和62年度	昭和63年度
教育原理	×	○
教育心理学	○	×
商業科教育法	×	○
英語科教育法	×	○
道德教育の研究	×	○
教育史	○	○
職業指導	○	○

○印=開講, ×印=非開講

2-(I) 昭和60年度以降入学者

イ 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第1表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	備考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	24 6科目以上
外国語科目	18	{ 英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	12	3科目以上
合計	58	

(注) 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち, 外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。
2. 基礎教育科目については, 経済学科にあっては経済学概論を, 商業学科(商学コース)にあっては商学概論を, 商業学科(経営法学コース)にあっては法学概論(日本国憲法2単位を含む)を, 管理科学科にあっては管理科学概論を, 商業教員養成課程にあっては法学概論(日本国憲法2単位を含む)を含め3科目以上履修するものとする。

第2表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに統計学, 経済原論Ⅰ, 経済原論Ⅱ, 財政学, 経済政策, 経済史概論, 国際経済論, 金融経済論のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目 経営法学コース科目 管理科学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに経営学原理, 会計学, 管理科学通論, 応用数学(代数), 情報処理Ⅰ, 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 商取引法のうちいずれか2科目を含める。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は, 原則として経済学科の研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。		

第3表 商業学科・商学コース

区分	単位数	内容
商業学科 商学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営史, 経営管理論, 簿記学, 会計学, 原価計算論のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 経営法学コース科目 経済学科科目 管理科学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学, 経済原論Ⅰ, 経済史概論, 経済政策, 国際経済論, 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 商取引法, 国際経済法, 管理科学通論, 会計情報論のうちいずれか2科目を含める。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は, 原則として商学コースの研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 商学コースの科目について, さらに12単位を履修しなければならない。		

第4表 商業学科・経営法学コース

区分	単位数	内容
商業学科 経営法学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに, 憲法, 財産法Ⅰ, 財産法Ⅱ, 会社法, 経済法, 経済刑法, 労働法, 国際法Ⅰのうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目 経済学科科目 管理科学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営管理論, 労務管理論, 会計学, 経済原論Ⅰ, 経済史概論, 経済政策, 国際経済論のうち, いずれか2科目を含める。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は, 原則として経営法学コースの研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 経営法学コースの科目についてさらに12単位を履修しなければならない。		

第5表 管理科学科

区分	単位数	内容
管理科学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに管理科学通論, 管理科学Ⅰ, 管理科学Ⅱ, 管理科学Ⅲ, 会計情報論, 応用数学(代数), 応用数学(解析), 情報処理Ⅰのうちいずれか4科目を含める。
経済学科科目 商業学科 商学コース科目 経営法学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学, 経済原論Ⅰ, 経営学原理, 会計学, 財産法Ⅰのうちいずれか1科目を含める。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は, 原則として管理科学科の研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について, さらに12単位を履修しなければならない。		

第6表 商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
専門教育科目 経済学科, 商業 学科 (商学コー ス, 経営法学コ ースを含む), 管理科学科の全 科目	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ, 統計学, 流通 組織論, 証券市場論, 経営学原理, 経営管理 論, 簿記学, 会計学, 情報処理Ⅰ, 経営情報 論, 財産法Ⅰ, 会社法のうちいずれか6科目 (24単位)以上を含める。
教 職 科 目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習, 職業指導を必修とする。
研 究 指 導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 商業教員養成課程に所属する学生は, 他の学科・コースの研究指導を履修することができる。 2. 商業教員養成課程に所属する学生で, 英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り, 教科に関する専門科目(英語科)の研究指導を履修することができる。 3. 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科の各科目から, さらに12単位を履修しなければならない。		

2-(II) 昭和54年度～昭和59年度入学者

※授業科目の履修にあたっては, 2-(V)昭和59年度以前入学者の履修上の注意事項も参照すること。

イ 一般教育科目, 外国語科目, 保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第7表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区 分	単位数	備 考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{ 英語 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 必修 英語以外の外国語 (5科目) のうちいずれか 1科目
保健体育科目	4	体育講義, 体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上 { 商業教員養成課程にあつては法学 概論 (日本国憲法2単位を含む)
合 計	58	
(注) 一般教育科目 (人文科学系) のうち, 外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。		

第8表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに統計学、経済原論Ⅰ、経済政策、経済史概論、国際経済論、金融経済論のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目 経営法学コース科目 管理科学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに経営学原理、会計学、管理科学通論、応用数学(代数)、財産法Ⅰ、財産法Ⅱ、会社法、商取引法のうちいずれか2科目を含める。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として経済学科の研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は、経済学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。		

第9表 商業学科・商学コース

区分	単位数	内容
商業学科 商学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに流通組織論、証券市場論、経営学原理、経営史、経営管理論、簿記学、会計学原価計算のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 経営法学コース科目 経済学科科目 管理科学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学、経済原論Ⅰ、経済史概論、経済政策、国際経済論、財産法Ⅰ、財産法Ⅱ、会社法、商取引法、国際経済法、管理科学通論、機械化会計のうちいずれか2科目を含める。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として商学コースの研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は、商学コースの科目について、さらに12単位を履修しなければならない。		

第10表 商業学科・経営法学コース

区分	単位数	内容
商業学科 経営法学コース科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに、憲法、財産法Ⅰ、財産法Ⅱ、会社法、経済法、経済刑法、労働法、国際法のうちいずれか4科目を含める。
商業学科 商学コース科目 経済学科科目 管理科学科科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに流通組織論、証券市場論、経営学原理、経営管理論、労務管理論、会計学、経済原論Ⅰ、経済史概論、経済政策、国際経済論のうち、いずれか2科目を含める。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として経営法学コースの研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は、経営法学コースの科目についてさらに12単位を履修しなければならない。		

※ 昭和55年4月1日の学則改正により、40単位のなかに「経済刑法」を追加したものである。

第11表 管理科学科

区分	単位数	内容
管理科学科科目	40	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 40単位のなかに管理科学通論、管理科学Ⅰ、管理科学Ⅱ、管理科学Ⅲ、機械化会計、応用数学(代数)、応用数学(解析)、計算機論Ⅰのうちいずれか4科目を含める。
経済学科科目 商業学科 商学コース科目 経営法学コース科目	24	1. 「研究指導」及び上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 24単位のなかに統計学、経済原論Ⅰ、経営学原理、会計学、財産法Ⅰのうちいずれか1科目を含める。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 研究指導を履修する者は、原則として管理科学科の研究指導を履修するものとする。 2. 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。		

第12表 商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
専門教育科目 経済学科、商業 学科（商学コー ス、経営法学コ ースを含む）、 管理科学科の全 科目	44	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ、統計学、流通 組織論、証券市場論、経営学原理、経営管理 論、簿記学、会計学、計算機論Ⅰ、事務機械 化、財産法Ⅰ、会社法のうちいずれか6科目 (24単位)以上含める。
教 職 科 目	20	教育原理、教育心理学、商業科教育法、教育史、 教育実習、職業指導を必修とする。
研 究 指 導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 1. 商業教員養成課程に所属する学生は、他の学科・コースの研究 指導を履修することができる。 2. 商業教員養成課程に所属する学生で、英語の教育職員免許状を 取得しようとする者に限り、教科に関する専門科目（英語科）の 研究指導を履修することができる。 3. 研究指導を履修しない者は、経済学科、商業学科、管理科学科 の各科目から、さらに12単位を履修しなければならない。		

2-(Ⅲ) 昭和53年度入学者

※ 授業科目の履修にあたっては、2-(Ⅴ)昭和59年度以前入学者の履修上
の注意事項も参照すること。

イ 一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目の履修
方法

第13表 経済学科

区 分	単位数	内 容	
一般 教育 科目	人文科学系	4以上	1科目以上
	社会科学系	4以上	1科目以上
	自然科学系	4以上	1科目以上
	計	28	7科目以上
外国語科目	18	{英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか 1科目	
保健体育科目	4		
基礎教育科目	8		
計	58		
(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち、外国文学の単位については、 そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。			

ロ 専門教育科目の履修方法

第14表 経済学科

区 分	単位数	内 容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学、経済原論Ⅰ、経済 政策、経済史概論、国際経済論、金融経済論 のうち、いずれか3科目を含める。
商業学科 商学コース科目 商業学科 経営 法学コース科目 管理科学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を 除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理、会計学、応用 数学(代数)、応用数学(解析)、財産法Ⅰ、 財産法Ⅱ、会社法、商取引法のうちいずれか 2科目を含める。
研 究 指 導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	
(注) 研究指導を履修しない者は、経済学科の科目について、さらに12 単位を履修しなければならない。		

2-(IV) 教員免許取得希望者の単位修得方法

第15表 商業教員免許取得希望者の単位修得方法

区分	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する専門科目	16	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育実習, 教育史	
	4	職業指導	
教科に関する専門科目	16	統計学, 経済原論 I, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 経営情報論, 情報処理 I, 財産法 I, 会社法 (4科目選択)	
合計	40		
備考	この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので、それぞれの学科の卒業所要単位のほかに上記の単位数を修得しなければならない。ただし、基礎教育科目の法学概論及び教科に関する専門科目の選択科目については、それぞれの学科の卒業所要単位と併用できる。		

第16表 英語科教員免許取得希望者の単位修得方法

(1) 高等学校教諭の場合 (昭和56年度以降入学生)

区分	単位数	必修科目	選択必修科目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する専門科目	17	教育史 4 教育心理学 4 教育原理 4 英語科教育法 3 教育実習 2	
教科に関する専門科目	32	英語学関係 8	☆英語学概論 4 ☆言語学概論 4 英語学演習 I 4 英語学演習 II 4
		英文学関係 8	☆英文学史 4 ☆英文学概論 4 英文学演習 I 4 英文学演習 II 4
		英会話・英作文 4	
			商業英語 4 研究指導 12
合計	53		
備考	<p>1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。</p> <p>2. 選択必修科目のうち☆印は各領域から一科目必修。</p> <p>3. 「商業英語」は「英会話・英作文」又は演習科目と読み替えることができる。</p> <p>4. 「研究指導」は商業教員養成課程に所属する学生のみ履修できる。修得単位は英語学又は英文学の単位として換算する。</p> <p>5. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、15表、16表両方の場合に併用できる。</p>		

(2) 高等学校教諭の場合 (昭和55年度以前入学生)

区分	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単位を含む)	
教科に関する専門科目	32	英文学史 4 英文学概論 4 言語学概論 4 英語学概論 4	商業英語 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4
教職に関する専門科目	17	教育原理, 教育心理学, 英語科教育法, 教育実習, 教育史	
合計	53		
備考	1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。 2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、15表、16表両方の場合に併用できる。		

(3) 中学校教諭の場合

上記の(1)(2)の「教職に関する専門科目」のほか、さらに「道德教育の研究」2単位を修得すれば、管理科学科所属の学生を除いて中学校教諭英語科一級普通免許状をも取得できる。

2-(V) 昭和59年度以前入学者の履修上の注意事項

1. 次表の適用入学年度生において、B欄に掲げている授業科目を履修し、単位を修得した場合は、A欄に掲げている授業科目の単位を修得したことになります。
2. 次表のA欄に掲げている授業科目の単位をすでに修得済の者は、B欄に掲げている授業科目を履修することはできません。

適用入学年度	A 欄	B 欄	
昭和52年度以前	法学	法学概論	
	マーケティング	流通組織論	
	販売管理	マーケティング	
	生産管理	経営管理論	
	民法Ⅰ	財産法Ⅰ	
	民法Ⅱ	財産法Ⅱ	
	商法Ⅰ	会社法	
	商法Ⅱ	商取引法	
	英文学Ⅰ	英文学史	
	英文学Ⅱ	英文学概論	
	英語(上級Ⅱ)	英文学演習Ⅰ	
	英語(上級Ⅳ)	英文学演習Ⅱ	
	英語学Ⅰ	言語学概論	
	英語学Ⅱ	英語学概論	
昭和53年度以前	英語(上級Ⅰ)	英語学演習Ⅰ	
	英語(上級Ⅲ)	英語学演習Ⅱ	
	行政法	行政法Ⅰ	
	国際法	国際法Ⅰ	
	国際資源論	国際法Ⅱ	
	銀行論	金融政策	
	管理会計	管理会計論	
	原価計算	原価計算論	
	経営分析	経営分析論	
	外国語特殊講義	外国人特殊講義	
昭和58年度以前	機械化会計	会計情報論	
	事務機械化	経営情報論	
	応用数学特講Ⅰ	応用数学特講	
	計算機論Ⅰ	情報処理Ⅰ	
	情報処理	情報処理Ⅱ	
	計算機論Ⅱ	情報処理Ⅲ	
	経済変動論	経済原論Ⅱ	
	経済原論Ⅱ	経済原論Ⅲ	
	昭和59年度以前		

3 科目試験の受験について

定期試験（前期，後期）およびこれに準ずる試験を受験する場合，次の注意事項を厳守して，不利益をうけることのないよう十分留意してください。

★受験に際しての注意事項

1. 指定された席に着席すること。（試験開始5分前には着席していること）
随時行う試験では席を指定しないこともある。
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。（座席の右前方におくこと）
3. 試験時刻に遅れた者は原則として受験できない。ただし，20分以内の遅刻者は，事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了前10分以後は退場できない。
6. 教科書，参考書，ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め，これらをむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
7. 教科書，参考書，ノートなどの参照を許された試験においては，それらの貸借をしてはならない。受験生の間で，貸借のあった場合は，それを不正行為とみなす。
8. 試験において，私語，その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう特に留意すること。
9. 試験中の不正行為については，学則に照し厳重に処分されるから厳正な態度で受験すること。さらに，不正行為を行った者に対しては，その学期に履修した科目の総ての単位は認定しない。従って，在学期間が1年以上延期することになる。
10. 配布された答案用紙は必ず提出し，これを持ち帰ってはならない。
11. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

II 教授要目

1 一般教育科目

哲 学 教授 渡 辺 祐 邦

過去の偉大な哲学者の著作を読みながら，存在の問題，真理の問題，実存の問題等の哲学の基本的問題を考えます。今年度は，昨年につづきヘーゲルの「小論理学」をテキストとしますが，教官が一方的に講義するのではなく，学生自身がテキストを自分で読み，教官の質問に答えるという方法で進めますので，最初に現代ドイツの大哲学者アドルノの『三つのヘーゲル研究』の中の「ヘーゲルをどう読むか」を集中的に読みます。なお，このほかに二年目以上でフランス語Ⅱ終了に相当する学力をもつ学生には，文献研究を主とするコースを設けるので，希望者は申し出ること。

テキスト：

Th・W・アドルノ『三つのヘーゲル研究』渡辺祐邦訳，河出書房新社。
ヘーゲル『小論理学』上・下，松村一人訳，岩波文庫。

倫 理 学 教授 渡 辺 祐 邦

共同存在としての人間の行動原理，とくにポリス的人間の存在構造を分析した最初の著作であるアリストテレスの『政治学』を読みながら，現代における人間の在り方とそこに日々提起される諸問題について考えます。アリストテレスのテキストはギリシア語なので，学期はじめに簡単なギリシア語文法を学び，翻訳と並用します。

テキスト：田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』，岩波全書

アリストテレス『政治学』山本光雄訳，岩波文庫。（アリストテレスの原文テキストは，ギリシア語の学習が十分と判断された人へのみ，のちほど差し上げます。）

心 理 学 教授 和 田 完

現代心理学の特質を，歴史的な成立の過程を通して検討する。行動主義的な方法の導入，力動的な考え方などが特に強調されよう。また，動機づけ，

学習実験、認知、ことに知覚の問題、パーソナリティ論等が話題とされる。

なお、精神病理学、文化人類学等の隣接領域について、しばしば触れるであろう。

教科書：和田完他著『人間行動の諸相』明玄書房

歴史学 (前期) 非常勤講師 栗生沢 猛 夫
(後期) 未 定

日本文学A・B 教授 村 山 出

詳細は最初の講義の時間に説明しますが、AとBとでは授業の性格が違いますので、よく考えて選択して下さい。なお、履修を決定した後は、選択の変更を認めませんので、注意して下さい。

A 各自の学習研究の報告を中心に展開する、ゼミナール形式のクラスで、今年度のテーマは、「万葉集あるいは古今和歌集の歌人研究」とします。

各自が任意に歌人を選び、関係の文献を検索して参考にしながら、自分の研究を進め、授業時間に中間報告をおこない、最終的には研究レポートをまとめていただきます。

なお、教科書等については、最初の時間に紹介する予定です。

B 講義形式のクラスです。今年度は、万葉集の作品や歌人の問題点を取り上げる予定です。

試験やレポートについては、その都度指示します。なお、教科書は受験の場合にも使いますから、必ず用意して下さい。

教科書：伊藤 博 校注『万葉集』上・下2冊 (角川文庫)

英 文 学 教授 豊 国 孝

英国の作家D. H. ロレンスをとりあげる。ロレンスの小説は、写実と象徴の見事な調和、とくに豊かな詩的イメージとシンボルで読者を魅了する。彼のテーマは広い意味での「人間関係」である。彼ほど現代社会にあって、人間が一人では生きられないこと、すなわち「人間関係」があってこそ、人間が人間たりうることを信じていたものはいない。

この講義では、ロレンスの主要な小説を中心に、D. H. ロレンス論を試みる。受講者はロレンスの小説を積極的に読むことを望む。

テキスト：西村孝次『ロレンスの世界』(中公新書)

D. H. Lawrence, *Sons and Lovers* (桐原書店)

ドイツ文学(後期) 教授 中 川 勇 治

最初に文学作品を理論的に考えてゆく手掛りとして、文芸学の基礎知識を説明します。次いで散文作品に重点を置いてドイツ文学の歴史的な展開を概観します。講義の主眼は、近代小説の成立とその変遷です。受講者はドイツ語の知識を必要としませんが、講義中に挙げられた作品は、翻訳でかまいませんから、自分でよく読んで下さい。参考文献は講義の中で紹介します。

社会科学概論(夏季集中) 非常勤講師 杉 山 忠 平
(東京経済大学教授)

幕末・明治初期における西欧思想の導入と受容の過程を経済思想を中心として概観する。西周、津田真道、森有礼等々がとりあげられるが、とくに福沢諭吉に重点がおかれるであろう。商業教育の揺籃期、翻訳文化の発端などもそれとの関連でふれられるはずである。また、時間が許せば、さらに時代をくぐって、高等教育機関での教科としての経済学の確立の経過にも関説する予定である。『明治啓蒙期の経済思想』(法政大学出版局、1986年刊)が主要な参考文献として利用されよう。

社 会 学 非常勤講師 小 林 甫
(北海道大学助教授)

この講義では、日本の現代社会を社会学がどのように分析しているか、その特徴はどこにあるか、について一緒に考えてみたいと思う。テキストとしては、私も執筆に加わった、アカデミア出版社『日本社会の社会学的分析』(1982年)を用いる。そのいくつかの章を選んで、新しいデータを補強しながら解説を加え、かつ討論ないし批判文作成を課す。どのテーマを取り上げるか(家族、都市、企業、マスコミ、教育などから)、第1回目の講義の時に、受講者のアンケートをとるが、「覚える」のではなく「考える」ことに力点を置くので、そのつもりで受講してほしい。

布施鉄治・鎌田とし子・岩城完之編著『日本社会の社会学的分析』

アカデミア出版社

社会思想史 教授 倉田 稔

A・B, 2クラスに分ける。一方の大人数クラスは、講義であり、他方の少人数クラスは、履修者の自主的な研究発表の場である。

少人数クラスは、年間数回の口頭発表と、それを論文に仕上げることを目的にしている。そのため、このクラスに参加を希望する者は、はっきりとした研究テーマ(自由)をもってきていただきたい。なお、初めの三回は、研究室で行う。それ以降は、教室で行う。

大人数クラスについて言えば、講義内容は、いままで、古代から近代まで行ってきたので、その続きを話すつもりである。全部終らないと思うが、本年度は、下記のようになるはずである。

序, 18c ロシア(ラヂーシチュフなど), 18c 日本(安藤), 19c イギリス(マルサス, リカード, ミル, ダーウィン), 19c 前半フランス, 19c 前半ドイツ(リスト, ロートベルトゥス, ワイトリング), マルクス, 19c 前半ロシア, 1848年, 19c 日本(福沢, 中江, など), 19c 後半ドイツ(社会民主主義, ベーベル), 19c オーストリア, 19c 後半ロシア(チェルヌイシェフスキー, ナロードニキ, プレハーノフ, 文学者たち, ケナン), 転換期の社会的文学, 20c 初ドイツ(社民, ウェーバーなど), 20c 初オーストリア(フロイト, ヒルファディング, ヒトラー), 20c 初ロシア(レーニン), 第一次大戦(中央, ロシアの諸革命を含む), ワイマール共和制とナチズム, 第二次大戦およびヒトラーとスターリンの戦い, 20c 日本(河上, 小林, 資本主義論争), 戦後ヨーロッパ・アメリカ(サルトル, フロム, 諸社会), 戦後のアジアとラテン・アメリカ(ガンジー, 毛など), 第2世界, 戦後日本, 結語。

講義では、教科書は使わない。参考のために記すと、小生が書物の形で出したものは、以下のとおり。

『金融資本論の成立』青木書店

『若きヒルファディング』丘書房

『日本人とヨーロッパ人』杉山書店

訳『第一次世界大戦』新評論

編訳『R・ヒルファディング 現代資本主義論』新評論

『社会経済思想史文献』1・2 杉山書店

訳『ハプスブルグ帝国』筑摩書房

これらは、商大生協と丸文書店においてある。ただし、『金融資本論の成立』は売り切れて、無いので、商大図書館にしかない。

教育学(前期) 助教授 上野 耕三郎

ここ10数年の間に教育学は現実に促され、そして他の学問分野からの刺激を受け、その基礎的範ちゅうの妥当性がゆらいでいます。

そこで、この講義では一見するときわめて理解し易そうにみえる<子ども><学校>という概念がいかに歴史的概念であり、いま現在それを取り巻く様々な文化現象によって変容を迫られているか話すつもりです。

教科書は使用しません。

政治学(後期) 非常勤講師 田口 晃 (北海道大学助教授)

昨年同様一般市民の立場から政治を検討して行くことを講義の課題とするが、具体的な講義の進め方と教科書については目下検討中である。決まり次第揭示する。

物理学 教授 原田 稔

現代物理学の大きな基礎の一つである量子論についての初等的な解説を行う予定。

自然科学概論 (前期) 教授 原田 稔

個別科学の発展史とか、“完成品”としての科学の紹介ではなしに、“発展・成長途上の物”としての科学について話をしたい。極言すると“答のない問題”について考えようとするわけである。話はどうしても抽象的になるので具体性を与える足場として物理学を用いる。教科書は使用しない。

自然科学概論 (後期) 教授 山田 家正

自然科学と社会的問題との接点について生物学の立場から考えてみたい。最近論義を呼んでいる社会生物学にも触れる予定である。教科書は使用しない。

化学(前期)

木村雅男
(北海道大学名誉教授)

化学という学問をできる限り系統的に理解し、身近な現象としてとらえて行くことを期待している。そのために、比較的理解し易い分野について、現代化学のトピックスを取り上げ、その基礎原理と現状について話す。

教科書「化学の基礎」増補版 須賀恭一・下田信男著 三共出版

生物学 A・B 教授 山田家正

A・Bの2クラスに分けて行うが内容が異なるので途中から変更できない。下記をよく読んでから履修届を出すこと。

生物学A：講義中心の大クラス。講義の主題は“生命の流れ”である。群集、個体、細胞、遺伝情報伝達機構、進化仮説などマイクロレベルからマクロレベルまで広範な問題を扱うことになるが、今まで生物学を学ぶ機会がなかった諸君にとっても充分理解できるように配慮する。教科書は使用しないが補助教材としてプリントを配布する。

生物学B：演習中心の小クラス。自主的に、積極的に学ぶ姿勢が要求される。具体的な内容については参加人数によって決めるので最初の講義時に相談する。

臨海実習：9月上旬、ウニの受精と発生の観察を北海道大学臨海実験所(小樽市忍路町)で行う予定。A、Bとも原則として全員参加。ガイダンスは夏休み前に行う。再履修者で既に実習を終了しレポートを提出した者は再度参加する必要はない。

2 外国語科目

英語

(A) 英語履修方法

- (1) 英語の授業は、教室内における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)
- (2) 英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。(学則第10条および第11条別表第1の(2)参照)
- (3) 昭和62年度の英語クラス配置および教科の種別は別表の通りである。
- (4) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1,2,3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。0は文学作品の講読、1は評論、伝記、語学書等の文学作品以外の講読で、2は会話作文等、3は文法である。1ケタ目の1,2,3…はクラス別を示す。
- (5) 基準年次に担当されているクラスの選択は自由である。しかし、英語Iは別表A群より2単位、B群より2単位、合計4単位を選択履修し、英語IIは講読2単位と他クラスの講読か会話、文等のうちいずれか2単位合計4単位、英語IIIは講読2単位を選択履修すること。
なお、同一年次担当の同一教官担当のクラスを2つ履修することは出来ない。
- (6) 履修する学生は教授要目をよく読み、最初の授業に出席した上で自主的にクラスを選択すること。
- (7) 履修登録の手続きは、希望するクラス名をカードに書き込み、学生課教務係の窓口へ提出すること。詳細について別途指示する(学生課の掲示に注意)。なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履修届」には、この登録の結果を記入すること。

(B) 別表 (昭和62年度英語クラス)

英語 I - A 群		英語 II	英語 III
講 読 及 び 文 法	文学 作品	文学 作品	文学 作品
	評論・伝記・語学書等	評論・伝記・語学書等	評論・伝記・語学書等
英語 I - B 群			
講 読	文学・評論等		
	会話・作文	会話・作文	
文法			

英語 I

〔英語共通試験実施要領〕

英語 I - A 群クラスの履修と単位認定について

- 英語 I は A 群から 1 クラス 2 単位, B 群から 1 クラス 2 単位, 合計 2 クラス 4 単位を選択履修すること。
- 英語 I - A 群クラスの履修者には課外テキストを指定し, 年 2 回共通試験を行う。
- 共通試験は前期及び後期の各定期試験期間中に行う。前期及び後期の共通試験は両方とも受験しなければならない。
- 英語 I - A 群の各クラスの単位は, クラスの成績と共通試験の成績とにより, クラス担当教官が認定する。
- 課外テキスト
吉川 美夫著『考える英文法』文建書房
- 昭和 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61 年度生のうち, 英語 I の単位未修得者の履修方法は昭和 62 年度生の履修方法に準ずる。昭和 61 年度以前の学生のうち, 英語 I の単位未修得者は, I - A 群のクラスにかえて E 131 を選択することができる。ただし, I - A 群のクラスを選択する場合は, 必ず共通試験を受験しなければならない。

A 群

○ E 101 教授 永原 和夫

西村満男編: *American Accent; Selected Short Stories*

(南雲堂 ¥ 1,500)

20世紀アメリカ短編小説の訳読と分析。どのような理由があっても2/3以上出席しない者は受験資格を失う。

○ E 102 教授 豊国 孝

Greene, G: *The End of the Party & Other Stories*

(南雲堂) ¥ 780

Bates, H. E. : *Death in Spring* (北星堂) ¥450
 イギリスの小説家グリーンとベイツの短編小説を読む。2/3以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

○ E 103 助教授 君 羅 久 則
 Muriel Spark, *The Portobello Road and Other Stories*
 (朝日出版 ¥760)

Muriel Spark, *Invitation to Muriel Spark* (南雲堂 ¥1,300)
 ○ E 104 } 助教授 鶴 見 精 二
 ○ E 105 }

Doris Lessing, et al., *Recollections : The Stories on Five Themes* (マクミラン・ランゲージ・ハウス)
 英米文学に習熟するための基礎的な読解力と表現力の修得を目標とする。

○ E 106 非常勤講師 宮 町 誠 一
 (小樽女子短期大学助教授)

L. G. Alexander 『For and Against』英潮社 860円
 石川 敏男 『Colloquial Expressions for Daily Life』
 NCI 1.100円

日常的な問題に焦点をあて、1つの刺激的な見識を述べているエッセイ集を味読したい。英文の読解と同時に、その議論の論理的展開にも十分配慮したい。

毎時間ヒアリングの練習を実施し、英語聴解力を養うと同時に、音を通して多くの日常的な英語表現を学びたい。

○ E 111 助教授 下 村 五 三 夫

Textbook: *Revolutions, Dictators, and Two World Wars*
 歴史学者Daniel Roselle 編による *Our Common Heritage: A World History* (1981) の中から、第一次大戦と第二次大戦を扱った部分を収録。出席を重視する。講義日数の2/3以上の欠席者はリストより除外する。
 (市内『紀伊国屋店』にて販売)

○ E 112 } 講師 山 本 久 雄
 ○ E 113 }

テキスト: *Myths About Language* by Jacob Osstein & Others
 本授業は、英文読解力の向上及び内容把握を目的とする。単位認定に際しては学生諸君の積極性を重視する。(英潮社新社 840円)

○ E 114 非常勤講師 大 島 稔
 (短期大学部助教授)

前期: J.V. Neustupny : *Foreigners and the Japanese - Some Problems of Communication.*
 (北星堂書店 ¥980円)

後期: John Hinds & Shozo Kurokawa : *Talking : An Analysis of Discourse.*
 (南雲堂 ¥1,100円)

前期テキストの著者、ネウストプニー氏はチェコ語とドイツ語の二重言語生活をした後に、日本に留学し、家庭では日本語を用い、オーストラリアを本拠地に英語圏での日本語教育をしている社会言語学者である。氏は、日本人と外国人との個人間の接触場面において生じるコミュニケーション上の諸問題を言語上の問題、コミュニケーション行動上の問題、社会文化的問題と関連づけて、具体的なエピソードを示しつつ洞察している。

後期テキストの著者、ハインズ氏は、英語圏で日本語教育をし、外国語としての英語教育を講義し、家庭においては日本語を使う社会言語学者である。氏は、話者と聞き手との間の「会話のやりとり」がどのような規則や制限を伴ってなされるかを明らかにする目的で、日英語における談話分析の比較を試みている。

教室では、テープを用いた内容大意の把握と、語法、文法に関する質疑応答という形式で授業を進めます。

The aim of this course is to encourage students to communicate English. Language will be practised in a variety of situations, using group activities, games and video material. Grades will be based on attendance (not more than 5 absences), class participation and the results of the mid-term and final

○E 115 (前期) 非常勤講師 高橋英光
(北海道大学助教授)

Text : D. Keene, *The Distinctiveness of the Japanese* (朝日出版)
3/5以上の出席のない者は、受験資格を失う。又遅刻は欠席扱いとする。

(後期) 未定

B 群

○E 107 } 非常勤講師 佐藤幸子
○E 108 } (小樽女子短期大学助教授)

① A.W.Reed, *New Zealand Legends* オセアニア出版 900円

② *The Drover's Wife and Seven Other Stories*

(オーストラリア短篇集) (江澤即心) 朝日出版社 760円

オーストラリア、ニュージーランド文学会が発足して10年になる。小樽とニュージーランドのダニーデンは姉妹都市であり、また、小樽商大とオタゴ大学商学部は、まもなく姉妹大学の提携が具体化する。従って今回はニュージーランドの神話を読むことにする。同時にオーストラリアの文学作品にもふれることによって、さらに知識を広めていきたい。出席を重視する。

○E 116 非常勤講師 根本慎
(札幌医科大学衛生短期大学部助教授)

R.Evanoff, *American Thinking* (成美堂)

○E 117 非常勤講師 根本慎
(札幌医科大学衛生短期大学部助教授)

L.Horner, *The Japanese and the Americans* (成美堂)

E 121 }
○E 122 } 外国人教師 Michael Carr
E 123 }
E 124 }

Abbs & Freebairn: *Building Strategies* Longman

This course will emphasize functional communication in English. Attendance and participation in the classroom and the language laboratory will be required. More than three unexcused absences will automatically result in failure.

E 125 } 非常勤講師 Mathew M. Hanley
○E 126 } (北海道大学外国人教師)
E 127 }

TEXTS : *American Streamline: Connections*

American Streamline: Connections - workbook A

(units 1 - 40)

In this course you will practice speaking English in a variety of situations presented in our text. The *WORKBOOK* exercises will reinforce and test your knowledge of each lesson. Our weekly screening of a new video series will improve your listening comprehension and skills in paraphrasing and retelling.

Requirements are class participation, completion of all homework assignments, satisfactory grades on the mid-term and final examinations, and attendance. Three unexcused absences will be allowed.

○E 128 } 非常勤講師 Pamela Gagliani
E 129 } (北海道大学外国人教師)

TEXTS : To be Provided by the Teacher

The aim of this course is to encourage students to *communicate* English. Language will be practised in a variety of situations, using group activities, games and video material. Grades will be based on attendance (not more than 5 absences), class participation and the results of the mid-term and final

examinations.

○E 131

講師 山本久雄

テキスト：G.M.Spankie 『現代口語英文法』 (金星堂)

本書は英語の基本項目をまとめたものである。出席を重視し、勉学意欲の見られない学生には単位を認めない。

英語 II

○E 201

教授 永原和夫

Carson McCullers: *A Tree, a Rock, a Cloud & Other Stories*
(南雲堂 ¥880円)

Carson McCullers: *The Ballad of the Sad Cafe*
(南雲堂 ¥980円)

精神の孤独を追求するCarson McCullers (1917 - 1967) の短編と中編小説を読む。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。

○E 202

教授 豊国孝

Lawrence, D.H.: *The Primrose Path & Three Other Stories*
(研究社) ¥780円

: *Second Best & Another Story*
(北星堂) ¥750円

イギリスの小説家D.H.ロレンスの短編小説を読む。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

○E 203

助教授 君羅久則

Muriel Spark, *The Prime of Miss Jean Brodie*.
(あぼろん社 ¥500円)

○E 204 }
○E 205 }

助教授 鶴見精二

The Penguin Book of American Short Stories (桐原書店洋書部)
アメリカ文学の代表的な短編を読みこなし、出来ればアメリカ文学の流れや特質を把握してもらいたい。

○E 206

非常勤講師 片山厚
(北海道大学教授)

テキスト：『今日のアメリカ短篇集』 (金星堂)

本書は現代アメリカの小説家、E.L.Doctorow, Thomas Pynchonらの短篇を集めたもの。今日のアメリカ語を学習しながら、同時に最近のアメリカ文化の情勢についても知るように努めたい。

○E 207 }
○E 208 }

非常勤講師 西村千稔
(小樽女子短期大学助教授)

テキスト：江草久司編注 『現代アメリカ名作選』 朝日出版社 1,200円
アメリカの現代作家数名の短編を読む。最初、ヘミングウェイの“Cat in the Rain”から始める。どのような理由があっても、 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は欠席扱いとするので注意すること。

○E 209

非常勤講師 宮町誠一
(小樽女子短期大学助教授)

西田ひろ子・日吉和子編 *An Introduction to Intercultural Communication* (芸林書房 1,000円)

日本人には日本文化に基づいた思考方法、行動様式があるということを客観的に理解することは、コミュニケーションの手段としての英語を修得する上で有益であると考えられる。その観点に立ち、主に日米間の言語様式、価値観、思考方法の違いについて論じたやや専門的な論文を味読してみたい。かなりの予習が要求される。

○ E 211 助教授 下村 五三夫

Textbook : *The Language of Clothes* (vo 1.2)

女流作家Alison Lurieの「衣服論」。出席を重視する。講義日数の1/3以上の欠席者はリストより除外する。

(市内『紀伊国屋書店』にて販売)

○ E 212 講師 山本 久雄

テキスト : Michael L. Geis : *Language and Communication*

内容把握と英文読解力向上を授業の目的とする。授業に対する積極性に欠ける学生には単位を認めない。英潮社新社。

○ E 213 非常勤講師 浪田 克之介
(北海道大学教授)

テキスト : G.H.Hardy, *A Mathematician's Apology* (鶴見書店)
基本的読解力の養成を目的として、下記のテキストの講読を中心とする。

○ E 214 } (前期) 非常勤講師 下宮 英治
E 215 } (北海道武蔵女子短期大学助教授)

Kenji Kitao, S. Kathleen Kitao : *American Reflections*

(英潮社新社 ¥ 1,200)

上記テキストを用いて、できるだけ多角的な、英語による“情報読み取り”の演習を行う。授業時間以外に、関連する課題が多くなるので、十分な努力を望みたい。学習の評価については授業開始時に説明する。

(後期) 未定

○ E 216 } 非常勤講師 鈴木 良克
E 217 } (小樽女子短期大学教授)

Eviatar Zerubavel : *Calendars in Social Life* (英宝社 ¥ 880 円)

Gavin Bantock : *Aspects of England* (成美堂 ¥ 880 円)

E 221 } 外国人教師 Michael Carr
○ E 222 }
E 223 }

Abbs & Freebairn : *Developing Strategies* Longman

This course will emphasize functional communication in English. Attendance and participation in the classroom and the language laboratory will be required. More than three unexcused absences will automatically result in failure.

○ E 224 非常勤講師 Pamela Gagliani
(北海道大学外国人教師)

Text : Patrick Hanks & Jim Corbett, *Business Listening Tasks*
(Cambridge Univ. Press)

This will be a “Communicative” Business English Course. The aims will be : to improve your comprehension of general and business English, to help you understand some of the fundamental concepts of the English-speaking business world and to teach you to use appropriate language in a wide variety of situations.

Only serious students please !

英語 III

○ E 301 教授 永原 和夫

John Wain : *Hurry on Down* (Eichosha - Penguin Books

¥ 1,900)

イギリス中産階級の俗物根性や偽善性、更に伝統的教育を痛烈に批判する、怒れる若者の代表作。どのような理由があっても1/3以上出席しない者は受験資格を失う。

○E 302 教授 豊 国 孝

Lawrence, D.H. : *England, My England* (Penguin Books)

イギリスの小説家D. H. ロレンスの小説を読む。2/3以上出席しない者は受験資格を失なう。遅刻は認めない。

○E 303 助教授 君 羅 久 則

Muriel Spark, *The Driver's Seat* (松柏社 ¥1,100円)

○E 304 助教授 鶴 見 精 二

George Orwell のディストピア小説の元型ともいえる *Nineteen Eighty-Four* (桐原書店洋書部) を読む。

○E 305 非常勤講師 片 山 厚
(北海道大学教授)

Clair Hughes : *English Portraits* (英宝社)

テキスト：本書はイギリスの肖像画の名作を解説したもの。英語の精読を行うとともに、英語圏文化への原語を通しての接近を試みたい。

○E 311 助教授 下 村 五三夫

Textbook : *Life Off Earth* (Ian Ridpath)

地球外生物のヴィジョンと探査活動を論じたもの。出席を重視する。講義日数の1/3以上の欠席者はリストより除外する。

(市内『紀伊国屋書店』にて販売)

○E 312 講師 山 本 久 雄

テキスト：Edward Sapir : *Selected Writings of Edward Sapir*

本書第3章“Language”を読む。幾分難解な英語ではあるが、内容把握力・英文解釈力の向上には適したテキストである。十分な準備と積極性とを要求する。南雲堂 ¥980

○E 313 非常勤講師 菊 池 昭
(短期大学部教授)

Erich Fromm, *Dream Interpretation* (英宝社 ¥960)
出席状況を重視する。7回以上欠席した者の成績評価はできない。

○E 314 非常勤講師 浪 田 克之介
(北海道大学教授)

読解力の習得を中心として、下記のテキストの講読をする。

テキスト：S.D. McLemore, *Japanese Americans* (英宝社)

○E 315 (前期) 非常勤講師 高 橋 英 光
(北海道大学助教授)

Text : R. Ouirk, *Words at Work : Lectures on Textual Structure* Longman

現代の言語学の成果を採り入れた文章論を読む。

2/3以上の出席のない者は受験資格を失う。遅刻は欠席扱いとする。

(後期) 未定

ドイツ語 I・II

1. クラス編成と授業担当者

	ドイツ語 I			ドイツ語 II		
火	IA	イエーガー		IIA	イエーガー	
	IB	中川		IIB	中川	
	IC	加納		IIC	加納	
	ID	寺田		IID	寺田	
	IE	大塚		IIIE	大塚	
木	IA	寺田		IIA	寺田	
	IB	吉岡		IIB	吉岡	
	IC	副島		IIC	副島	
	ID	筑和		IID	筑和	
	IE	大塚		IIIE	大塚	

2. クラス説明

(1) ドイツ語 I

(a) IAは、火曜日にはドイツ人講師による会話主導の授業を、木曜日には日本人教師による文法の授業（火曜日のドイツ人の講師による授業をある程度踏まえる）を行う。

(b) IB・C・D・Eは、火曜日には易しい講読（主として文法知識の応用的訓練）の授業を、木曜日には文法の授業を行う。いずれも、日本人教師が担当する。

(2) ドイツ語 II

(a) IIAは、火曜日にはドイツ人講師による会話主導の授業（内容は前年度の続き）を、木曜日には日本人教師による講読（火曜日のドイツ人講師による授業をある程度踏まえる）を行う。

(b) IIB・C・D・Eは、火曜、木曜とも講読を行う（ただし応用的訓練を主とすることもある）。いずれも日本人教師が担当する。

3. 履修方法

(1) 各履修者は、A・B・C・D・Eのうちいずれか一つのクラスに所属し、そのクラスの授業に週に2回出席しなければならない。（一人が二つのクラスに所属していた昨年までのやり方を止めたので、2年次生

以上は注意すること）

(2) ドイツ語 I・IIとも、Aクラスには希望者のみ所属でき、それ以外のクラスは所属指定制である。尚、クラスの所属は4による。

(3) IA・IIAとも履修者数を教室の都合上40名までとする。これを越えた場合には抽選によって履修者を決定する。

(4) IIAの履修は、原則としてすでにIAを履修済の者に限られる。ただし、ドイツ語 Iで優の成績を収めた者については、例外として履修を許可する。

(5) IA・IIAの同時履修は許されない。その他のクラスについてもI・IIの同時履修は出来るだけ避けること。それが止むを得ぬ場合にも、Iが不合格であればIIも不合格となるので厳に注意すること。

4. クラス所属

学生番号に従って下表のようなクラス配属となる。この要領は全学年共通である。

	ドイツ語 I	ドイツ語 II
Aクラス	希望者	希望者
Bクラス	1番～105番	1番～100番
Cクラス	106番～212番	101番～200番
Dクラス	213番～319番	201番～300番
Eクラス	320番～最終番	301番～最終番

5. 注意事項

(1) 授業出席を重視する。各学期1/3以上欠席したものには、原則として各定期試験の受験資格を与えない。

(2) ドイツ語 Iのオリエンテーションを4月21日（火）9時30分より210番教室において行うので、ドイツ語 I履修希望者は必ず出席すること。

(3) 辞書の紹介は、オリエンテーションで行う。

(4) 所属クラスの教科書は、最初の授業までに本学生協で必ず購入しておくこと。すぐに品切れになることが多いので早目に購入すること。

(5) ドイツ語およびドイツ語の授業に関する質問や要望があれば、遠慮なく本学専任のドイツ語教官の研究室を訪ねること。

ドイツ語 I

I A (火曜日) 非常勤講師 ローレンツ・イエーガー
(北海道大学外人教師)

教科書：(1) Lernziel Deutsch, Grundstufe I (Wolfgang Hieber 著 Max Hueber 社 1983年刊。)

(2) Glossar (上記教科書の用語解説)

上記教科書を用いて、初歩的なドイツ語の会話と文法を実践的に学ぶ。生きた言葉を話すことに力点が置かれる。真に学習意欲のあるものみの履修を期待する。それ以外の者の履修は極力避けられたい。毎回きちんと出席することが単位修得の前提となる。(欠席する場合には、欠席届を以てその正当な理由を明示すること。) 授業の進行上、英語の基礎的知識が動員されることも少なくない。

I A (木曜日) 講師 寺田 龍 男

教科書：『ワンポイント・ドイツ文法』(郁文堂)

火曜日にイエーガー先生の担当されるクラスの文法入門をこのクラスで行う。従って特に熱心な参加が必要で、このクラスをさぼる者は火曜日にもついて行けなくなるであろう。この教科書自体はやさしいので予習もしやすいと思われるが、それだけに不断の予習・復習が肝要である。そして会話の上達には例文の暗記がきわめて有効であるから、火曜日の教科書(これも毎回必ず持ってくること)も含めて、重要な文型がすぐに口について出るようにする訓練も行う。

I B (火曜日) 教授 中川 勇 治

教科書：『初級読本・ロマンチック街道』(ペーター・カピッツァ、中田美喜編著 同学社 1,200円)

I B (木曜日) 非常勤講師 吉岡 義彦
(北海道大学助教授)

教科書：『不定句中心 新しいドイツ文法』(吉岡義彦著 白水社円)
基本文法の修得をめざします。授業の方針など、詳細は第一回目の授業で説明しますので、極力欠席しないようにして下さい。

I C (火曜日) 非常勤講師 加納 邦 光

教科書：『ドイツ現代スナップ』(R.ホルツァー、水内透編著 白水社 1,300円)

ドイツやドイツの学生が現在当面するさまざまな問題を紹介したやさしいドイツ文を読みます。練習問題もあるので、予習して授業に参加して下さい。文法の説明は必要に応じてします。出席は毎回とります。試験は前期・後期・各一回試験期間内に行います。

I C (木曜日) 非常勤講師 副島 博彦
(北海道大学講師)

教科書：『不定句中心 新しいドイツ文法』(吉岡義彦著 白水社)
ドイツ語の理解・運用の基礎を習得し、言語意識を鋭くすることを目標に授業を進めます。カラー・マーカーが二色必要です。

I D (火曜日) 講師 寺田 龍 男

教科書：『学びましょう・読みましょう』(朝日出版社)

これを用いて文法事項の復習と共に基礎的な読解・作文力の養成を目指す。予習をしないで授業に参加しても意味がないので毎回必ず下調べをし、わからないところはわからないなりに自分ではっきりさせておくことが必要。頻りに小テストをおこなう。

ⅠD (木曜日) 非常勤講師 筑 和 正 格
(北海道大学助教授)

教科書:『不定句中心 新しいドイツ文法』(吉岡義彦 白水社)
基礎的文法事項を目指す。詳細は第一回目の授業で説明する。
毎回真面目に出席することが肝腎。

ⅠE (火曜日, 木曜日) 助教授 大 塚 譲

教科書:『不定句中心 新しいドイツ文法』(吉岡義彦著 白水社)
この文法書は、語彙で学習者を悩ませず、数多くの練習問題によって着実に生きた文法知識を習得させるところに特徴があります。夏休みまでに一通りの文法の学習を終え、後期にはやさしい読物に進みます。やや集中的な授業となるので、落後することなくついて来て下さい。落後者防止の意味で、出席は重視します。

ドイツ語Ⅱ

ⅡA (木曜日) 非常勤講師 ローレンツ・イエーガー
(北海道大学外国人教師)

教科書: (1) Lernziel Deutsch, Grundstufe I (Wolfgang Hieber 著 Max Hueber 社, 1983年刊)
(2) Glossar (上記教科書の用語解説)
昨年度に引き続き、この教科書を勉強してゆく。授業の主旨についてはドイツ語ⅠA (火曜日) の項を見よ。

ⅡA (木曜日) 講師 寺 田 龍 男

教科書:『現代民主主義の課題』(同学社)
前期はこの教科書を用いて初級文法と専門書のギャップを埋める努力の第一段階に入る。文章自体は比較的やさしく、また注もあるので読みずらくはないが、焦らずにゆっくり進み、文法事項の確認も行う。なお本書終了後は、ドイツのジャーナリズ

ムが日本および日本の諸現象を取り上げた記事(あるいはドイツ人による日本の印象記録)を扱い、彼我の考え方の共通点・相異点等について考える場を持ちたい。

ⅡB (火曜日) 教授 中 川 勇 治

教科書:『ドイツの言葉と歴史』(堀内明編 郁文堂)

ⅡB (木曜日) 非常勤講師 吉 岡 義 彦
(北海道大学助教授)

当分教科書は使わず、授業中にプリントを配布します。講読を中心に読解力の養成をめざしますが、読解力と切り離すことのできない音声の練習も並行して行います。また、特に初めの頃は文法・文の構造などについての復習をおりませながら進めます。詳しいことは最初の授業で説明しますので、極力欠席しないようにして下さい。

ⅡC (火曜日) 非常勤講師 加 納 光 邦
(北海道大学助教授)

教科書:『ルードヴィヒⅡ世-夢と狂気のはざままで-』(金井, 小林編 朝日出版社 1,400円)

札幌の姉妹都市ミュンヘンを首都としたバイエルン国の王様の悲劇的な生涯の伝記物語です。最初は少し難しく思うかもしれませんが、たくさん注がついているので、それらを参照して、予習して授業にできるようにして下さい。出席は毎回とります。試験は前期・後期・各一回試験期間内に行います。

ⅡC (木曜日) 非常勤講師 副 島 博 彦
(北海道大学講師)

教科書:当分のあいだプリント(教室で配布します)

既習のドイツ語の知識を確認しながら、読解力の養成を主眼に授業を進めます。まず、文構造をとらえるワーク・ショップからはじめます。カラー・マーカーが二色必要です。

IID (火曜日) 講師 寺田 龍 男

教科書：『現代独作文法』（郁文堂）

さしあたりこの教科書を用いて作文練習をしながら文法の定着をはかる。毎回2課は進むので、初回からきちんと予習をして授業に臨むことが肝要。ただドイツ語に訳すだけに終わっては意味がないので、正解をすべて暗記するとよい。そうすることで実力を伸すことができるし、また試験で満点を取ることもできる。なお本書の終了後は会話文を主体にした読本を用いる予定である。

IID (木曜日) 非常勤講師 筑和 正 格
(北海道大学助教授)

教科書：『さすらう人形』（ヘルトリング著 白水社）

短編を幾つか読み進むことによって、ドイツ語の読解力の養成を目指す。物語の提示する内容の考察もさることながら、ドイツ文の構造を的確に把握することに当初の主眼が置かれる。予・復習を欠かさないこと。

II E (火曜日, 木曜日) 助教授 大塚 譲

教科書：当分はこちらで用意したプリントを用います。授業は二つのパートに分かれます。ひとつは、平易でしかもオーソドックスな文（それなりに内容のあるもの）を文法的に性格に読む作業です。今ひとつは、現代ドイツの若者たちの日常を紹介したビデオ教材を用いて、そこで使われる生きた日常語の音を聞き、重要な語彙を記憶にとどめ、時には口頭で作文練習をしてみるといった作業です。後者のパートには、また日独（欧）の生活比較という作業が含まれることもあります。

フランス語 I・II

I 語スベテ

フランス語の授業は下記のクラス編成で行われる。

	フランス語 I	フランス語 II
火	IA 堀田 IB 高橋 IC { (前期) 梶野 (後期) 江口	IIA 堀田 (日野木) A I IIB { (前期) 梶野 (後期) 江口 IIC 高橋 (日野木) B I
木	IA 高橋 IB { (前期) 大友 (後期) 江口 IC デュボワ	IIA { (前期) 大友 (後期) 江口 IIB 高橋 (日野木) B I IIC デュボワ

注意

- (1) フランス語 II のクラス編成は前年度履修したフランス語 I に同じ。
- (2) C は会話を中心とした少人数編成（定員25名前後）のクラスで、自由選択制であるが、授業内容はハードであるから、よく考えて選ぶこと。希望者多数の場合には抽選等により決定する。
- (3) フランス語 I A・B は学生番号順にクラス分けを行う。所属クラスは追って指示する。
- (4) 再履修者は過去履修したものと同一のクラスに所属すること。ただし I C の再履修は認めない。
- (5) 1年次生は、後日指定する日時に行うオリエンテーションに必ず出席すること。

フランス語 I

I A (火曜日) 非常勤講師 堀田京子
(北海道大学非常勤講師)

用書:「フランス語を学びましょう」佐藤東洋磨著(朝日出版社)¥1,000

I A (木曜日) 助教授 高橋 純

用書:「フランス語 T.G.V.」筑紫文耀他著(駿河台出版社)¥1,200

I B (火曜日) 助教授 高橋 純

用書:「生きた初級フランス語読本」市川・並木著(駿河台出版社)

¥1,200

I B (木曜日) (前期) 非常勤講師 大友 浩
(北海道大学助教授)

用書:「田島フランス語文法」(新訂版)田島宏著(芸林書房)¥1,200

(後期) 助教授 江口 修

用書:未定

I C (火曜日) (前期) 非常勤講師 梶野吉郎
(北海道大学教授)

用書:「フランス語への旅立ち」福井芳男他著(芸林書房)¥1,200

(後期) 助教授 江口 修

用書:未定

I C (木曜日) 非常勤講師 ブリュノ・デュボワ
(北海道大学非常勤講師)

L.L.: 視聴覚教材を用い簡単な会話・発音練習。教材テキストは
《Sans frontières》です。言語表現は社会的行動様式と結びついたもので
あるから、学生諸君はフランス人の日常生活に関する著作を少なくとも1冊
は読むように。なお、クラスでは活動的学生の参加により、楽しい実用的小
会話、場面設定による会話構文訓練を行う。

宿題を出すので必ずやって来ること。

フランス語 II

II A (火曜日) 非常勤講師 堀田京子
(北海道大学非常勤講師)

用書:「ジュム」アルメル・マンジュノー著, 朝倉季雄校閲(白水社)
¥950

II A (木曜日) (前期) 非常勤講師 大友 浩
(北海道大学助教授)

用書:「プチ・ニコラの楽しい冒険」窪川英水編(芸林書房)¥950

(後期) 助教授 江口 修

用書:未定

II B (火曜日) (前期) 非常勤講師 梶野吉郎
(北海道大学教授)

用書:「バルブドール」M・トゥルニエ著, 秋山他編(白水社)¥1,000

(後期) 助教授 江口 修

用書:未定

II B (木曜日) 助教授 高橋 純

用書:「死をめぐる民話」伊藤晃編(駿河台出版社)¥1,200

II C (火曜日) 助教授 高橋 純

用書:「川村ふらんす語作文」川村克己著(駿河台出版社)¥1,200

II C (木曜日) 非常勤講師 ブリュノ・デュボワ
(北海道大学非常勤講師)

L.L.: 教材は《Sans frontières》。原語の問題意識の自覚と敏感な
感覚を養うために、学生諸君はフランス語の作用を理解し、生きた会話によ
る言語表現のよりよい展開に努力すること。家庭学習においてはカセットの
使用などで発音に慣れるように。宿題を出すので必ずやって来るように。

推せん辞書

- (1) 多田道太郎他編「クラウン仏和辞典」(三省堂)
- (2) 福井芳男他編「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)
- (3) 鈴木信太郎他編「スタンダード仏和辞典」(大修館)
- (4) 井上源次郎他編「新仏和中辞典」(白水社)

中国語 I 講師 木之内 誠

我らが巨大なる隣邦の人々の言葉。その修得への道の第一歩は、まず音としての中国語を、身体的現実として実感することから始まる。使える、生きた中国語をめざし、学習の一年目には、舌と耳のトレーニングを可能な限り繰り返し行いたい。

テキスト：簡明基礎中国語(東方書店)

辞書：岩波中国語辞典(岩波書店)、簡約現代中国語辞典(光生館)、簡明中日辞典(東方書店)などが、初・中級段階用としては推薦できる。詳しくは授業開始時に説明する。

中国語 II 講師 木之内 誠

外国語を学ぶことの楽しみの一つは、その民族の文化の懐深くへと入っていくまたとない切符を手にするにある。その意味で、中国語 II では、これまでに学んだ基本的な文法事項を整理復習しながら、中国文化への多方面からの接近、理解を進めていくことを狙いとして、この教科書を選んだ。

テキスト：中国語で学ぶ 中国文化基礎知識(東方書店)

後期からは、紀行、散文小品、新聞記事など現実の多様なテキストを随時取り上げる予定。

文学作品(詩、小説、戯曲、回想記)および言語学・社会科学関係論文の講読に大半の時間を当てることになるが、文法のより深い学習、作文練習も併せて行なうので、専用のノートを用意すること。テキストはプリント刷りの予定。参考までに記すと、昨年度のテキストの主要なものは、チャーホフの戯曲『三人姉妹』、ゴーリキイの回想記『ア・ペ・チャーホフ』、ゴルバネフスキイの言語学論文『名前と呼称の世界で』であった。

スペイン語 I 助教授 山田真史

スペイン語の文法、読解、会話の基本を学びます。
テキスト、辞書は未定ですが、「文法」と「読本」用をそれぞれ一冊ずつ
予定しています。
他の外国語で単位をとれなかった学生のこの授業への志望変更は受けつけ
ていません。
出席を重視しますし、授業への準備が必要です。
詳しいことは最初の授業で話します。

スペイン語 II 助教授 山田真史

テキストは未定ですが、スペインで出版された本を2冊予定しており、そ
れぞれ会話、読解のテキストとなるはずですが、
スペイン語 I の単位をとれなかった学生はこの授業に出席できません。
出席を重視しますし、必ず予習が必要です。

ロシア語 I 教授 松本忠司

発音、文法、訳読、作文の基礎的学習
教科書：ロシア語16課 16 УРОКОВ РУССКОГО ЯЗЫКА
新田実著 白水社
ほかに、学習の進度に応じ、プリント刷りのテキストを配付する予
定。
辞書：現在市販のものにはそれぞれ長短があるが、次のうち一点はぜひと
も用意すること。ただし、早急に購入する必要はない。初年度の前
半ぐらいは辞書に頼るよりも、単語帳を自分で丹念に作るほうが、
はるかに確実な学習効果を生むであろう。
八杉貞利編 岩波ロシア辞典
木村彰一編 博友社ロシア語辞典
井桁貞敏編 コンサイス露和辞典(改訂版) 三省堂
ロシア語の背景世界を知るために、東郷正延編「ロシア・ソビエト」ハンド
ブック(三省堂)をすすめる。歴史、文学、地誌、ことわざ、文法などの
簡略辞典としても役立つ。

ロシア語 II 教授 松本忠司

文学作品(詩、小説、戯曲、回想記)および言語学・社会科学関係論文の
講読に大半の時間を当てることになるが、文法のより深い学習、作文練習も
併せて行なうので、専用のノートを用意すること。テキストはプリント刷り
の予定。参考までに記すと、昨年度のテキストの主要なものは、チャーホク
の戯曲『三人姉妹』、ゴーリキイの回想記『ア・ペ・チャーホフ』、ゴルバ
ネフスキイの言語学論文『名前と呼称の世界で』であった。

② トレーニング

トレーニング法とその実践について知っておくことは、学生生活およ
び社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかる場合に極めて大切なこ
とである。ここでは体力づくりのための一般的なトレーニング法、器具選
材使用法、トレーニング処方等について実習し、授業時間外でも自分で
処方し、自発的に実践実施できるようにもってゆきたい。

3 保健体育科目

体育講義 非常勤講師 大竹 信三郎

(小樽商科大学保健管理センター所長・教授)

健康の保持増進を保健と定義し、その医学的理解と実際的対応を講義する。人の「病氣」は医学の問題であるが、人の「健康」は医学が関与する対象であると同時に、自然環境、公害問題、生活様式など社会生活にかかわる要因が絡んでいる。更に、健康の概念を、単に身体を精神的あるいは肉体的な疾病・異常から護るという立場からだけではなく、「健康」を人生観や人間形成と直結した問題として、社会的概念の視点にたって論じる。

講義の中心は、人体の生体反応のしくみ、人口動態の変化に伴う疾病構造の変化、なかでも低齢化する成人病、心身症、免疫やアレルギー、更に喫煙による健康障害、性行為感染症、一気飲みによる急性アルコール中毒の問題等も含める。

また、社会生活等の環境因子による影響たとえば、ストレスや栄養をはじめ、生活リズムの乱れ、運動不足に起因する異常等、教育環境や大学生活にかかわる事柄につき言及する。

従って、日常生活における健康管理すなわち、病氣予防に必要な医学常識に加えて、健康な人に対しては、よりよく健康を増進する方策について、保健の公共的観点ならびに個人としての健康管理のあり方につき述べる。

体育実技 I・II

教授 杉山 登

教授 藤江 正

助教授 田野 有一

非常勤講師 中川 平悟

(小樽商業高等学校教諭)

I 体育実技の履修について

体育実技は必修科目であり、各自所定の時間に出席しなければならない。本学では1年目で毎週2時間(60時間)、2年目は前期・後期各2時間(30時間)のうち、いずれかを選択履修することになっている。

体育実技実施種目は必須種目と選択種目とからなり、必須種目として1・2年目とも体力診断テスト、トレーニング法の実践、水泳、スキー等を行う。ただし、2年目では水泳かスキーのいずれか1種目をとらなければならない。

また、選択種目としては下記Ⅲにあげた種目中より、1・2年目とも1種目を選択履修し、1年目については後期で、2年目についてはこの種目を前・後期のいずれかで選択履修するものとする。

II 必修実技種目とその内容

(1) 体力測定

体力診断テスト……反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体
そらし、立位体前屈、踏み台昇降運動

以上の7種目で、測定実施時期は、第1回目は春季、第2回目が秋季である。体力の優劣判定は、文部省体育局のテスト判定基準により、総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが自己の体力の現状を把握しておくことが肝要である。

(2) トレーニング

トレーニング法とその実際について知っておくことは、学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかる場合に極めて大切なことである。ここでは体力づくりのための一般的トレーニング法、器具器材使用法、トレーニング処方等について実習し、授業時間外でも自分で処方し、自発的に継続実施できるようにもってゆきたい。

(3) 水泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは極めて大切なことである。指導段階の区分として都合上、4班に分け、各班ごとに下記の内容で実施する。技術修得の過程で班を移動する者もある。実施期間等については、おって掲示等により通知する。

<水泳実技内容>

区分	実技種目	テスト種目(泳法・距離泳)
初級グループ	・立ち方, 背浮き, 立ちとび込み, 伏し浮き, 簡易泳法, 体位変換	・背浮き, 伏し浮きからの立ち方…泳法 ・簡易泳法で10m以上…距離泳
中級A・Bグループ	・クロール, 平泳ぎ ・背泳ぎ, 横泳ぎ ・逆とび込み, 潜行, ターン	・泳法2種選択…泳法 ・1種目で25~50m…距離泳
上級グループ	・クロール, 平泳ぎ, 逆とび込み, 背泳ぎ, バタフライ, 潜行, 横泳ぎ, ターン	・泳法3種選択…泳法 ・1種目で50m以上…距離泳

(4) スキー

室内に閉じこもりがちな雪国の生活において、自然に親しみながらスキー技術を習得することは、冬季体育の一環として、また将来の社会生活をたのしく健康的なものとするためにも極めて有意義である。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、4班に分け、各班ごとに下記の内容で実施する。実施時期等については、おって掲示等により通知する。

<スキー実技内容>

区分	実技種目	テスト種目
初級グループ	・歩行, 滑走法, 方向変換 ・転倒法, 登行法, 直滑降 ・プルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン	・プループ ・ボーゲン ・シュテム ・ターン
中級A・Bグループ	・プルーク・ボーゲン・横すべり ・斜滑降, シュテム・ターン ・パラレル・ターン	・シュテム ・ターン ・パラレル ・ターン
上級グループ	・パラレル・ターン ・ウェーデルン, 発展技術	・パラレル・ターン ・ウェーデルン

III 選択実技種目とその内容

1年目後期…バスケットボール, 卓球, バドミントン

2年目前期…ソフトボール, 卓球, バドミントン

3年目後期…バスケットボール, 卓球, バドミントン

IV 必須実技種目理論

必須実技種目については、各々一講分をする予定であるが、その内容、日時に関してはおって通知する。

◆トレーニング基礎理論(1年目)

助教授 田野 有 一

・トレーニング

今日では“トレーニング”とか“練習”とかいった言葉は実に曖昧、無雑作に用いられ、逆にいえば、それだけ便利な言葉であるといえないこともない。本論では、これらの言葉の意味するものからくりを、体力づくりの必要性とその要素を分析することからはじめ、以下、スポーツと科学、トレーニングと科学、年齢とトレーニング、競技力と体力、筋力・持久力のトレーニング、スピード・パワーのトレーニング…等の基礎知識を得ることによって、「トレーニングの種類とその方法」を探ろうとするものである。

◆水泳基礎理論(1年目)

教授 杉山 登

- 1 現代と水泳
- 2 水泳の基礎的技術要因
- 3 競泳の技術的要因
- 4 基本泳法解説
- 5 水泳の安全管理

◆ スキー基礎理論 (1年目)

教授 藤江 正

- 1 スキー概説
- 2 スキーの技術的な要因
- 3 スキー技術の組み立て
- 4 スキーの操作と身体の使い方
- 5 スキーの安全管理

区分	実技科目	テスト科目
初級	山歩、杖の使い方、方向転換、転倒法、急行法、急降法	・ブループ・ボーゲン
グループ	・ブループ・ボーゲン ・シュテム・ターン	・シュテム・ボーゲン ・木目と升戻 1
中級	・ブループ・ボーゲン・積すべり	・シュテム・ボーゲン ・木目と升戻 2
A・B	・斜滑降、シュテム・ターン	・シュテム・ボーゲン ・木目と升戻 3
グループ	・パラレル・ターン	・パラレル・ボーゲン ・木目と升戻 4
上級	・パラレル・ターン	・パラレル・ボーゲン ・木目と升戻 5
グループ	・ウェーデルン、発展技術	・ウェーデルン ・木目と升戻 6

4 基礎教育科目

経済学概論 A

(前期) 助教授 鶴沢 秀樹

(後期) 助教授 船津 秀樹

(1) 受講資格

経済学概論 A は、

1 年次生：学生番号 87001 ~ 87210

および、2 年次生以上

で、選択を希望する学生に対して開講される。

(2) 講義の内容

経済学の基礎的知識や経済学的思考法に十分なじんでもらうために、テキストをよく読んで欲しい。グラフ表示や数値例を自分自身で操作することが必要である。

〔前期：鶴沢〕

マクロ経済学の基礎について講義する。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 経済学とは何か | 4. 国民所得水準の決定 |
| 2. 経済の基本問題 | 5. 国民所得と貨幣市場 |
| 3. 国民所得の諸概念 | |

〔後期：船津〕

ミクロ経済学の基礎について講義する。

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 経済循環 | 4. 需要・供給の法則 |
| 2. 家計の行動 | 5. 独占と寡占 |
| 3. 企業の行動 | |

(3) テキストおよび参考書

福岡正夫著『ゼミナール経済学入門』(日本経済新聞社, 1986年)

他の文献は、講義の時間中に紹介する。

経済学概論B

(前期) 教授 早見 基 弘
(後期) 助教授 山本 賢 司

Bクラスは学生番号87211から末尾までの1年次生と、2年次以上の学生で選択する者に限って履修を受付けます。

<前期>では下記をテキストとして、経済と経済学の序節とマクロ経済学の主要内容について述べる予定です。

- 概要：1. 経済学の歩み
2. 経済問題 (what, how and for whom) と経済体制による解
- 市場における需要と供給の働き -
3. 国民所得の諸概念 - GNP, GDP, NI など -
4. 財市場と貨幣市場の均衡 - IS - LM 曲線 -
5. 財政政策と金融政策の作用と効果 - 総需要管理政策 -
6. 雇用・賃金と生産およびインフレ
7. 総供給曲線と総需要曲線による物価と産出の決定
8. マネタリズムと合理的期待

<後期>では、ミクロ経済学の基本的な内容を紹介します。

- 概要：1. 家計の行動
2. 企業の行動
3. 需要・供給の法則
4. 市場制度と最適資源配分
5. 独占と寡占
6. 国際経済

教科書：福岡正夫著『ゼミナール・経済学入門』（日本経済新聞社、1986年）

試験：前・後期ともそれぞれ2回の試験を予定しています。

商 学 概 論 (前期) 教授 石 原 定 和
(中期) 教授 篠 崎 恒 夫
(後期) 教授 久 野 光 明

商業学科商学コースは大別して、商学・経営学・会計学の3部門より成り立っている。この3部門は歴史的・理論的に互いに、どのような関連性を有しているのだろうか。商学概論なる授業科目は、商学コースで準備されて

いる3部門のうち、いずれを選んで主要研究対象にするかを決定する際の子備知識を与える任務をも背負っている。商学概論の役割はそれだけではない。現代資本主義の生成・発展の過程で、商学、経営学および会計学の各部門の学問体系がどのような必然性をもって生まれきたり、発展せしめられて今日の姿なり体系を為すようになったかを解明するのが、むしろ本来の役割であろう。

時代の要請に応じて各部門はそれぞれが主となり従となって、お互いに影響しあいながら発展してきた事実を念頭におきながら部門別に以下の内容をもって概論を行うことにする。

- I 商業学部門 (4月～6月末) 担当 教授 石原 定和
1. 経済生活と商業
2. 資本主義以前の商業・信用
3. 資本主義の発達と商業・信用
(参考文献) 石坂昭雄他『商業史』(有斐閣双書)

- II 経営学部門 (7月～10月末) 担当 教授 篠崎 恒夫
1. 商の発展と資本の成立
2. 企業形態の展開
3. 株式会社
4. 管理の形成
(参考文献は随時指示する。)

- III 会計学部門 (11月～2月末) 担当 教授 久野 光朗
最初の授業でガイダンスを行い、参考書の紹介などもいたしますが、教養としての会計-会計学を講述したいと思います。講義内容は、おおむね次のようになります。

- I 会計情報の利用者と会計情報の分析
II 会計情報の提供者と会計情報の生産
III 会計情報の提供者と経済事象の認識

主要参考書：

高田正淳編著、『テキストブック会計学(1)会計学総論』(有斐閣、1982)

参考書：

青木茂男、『会計学総論』(中央経済社、1978)

染谷恭次郎、『会計学』(中央経済社、1978)

神戸大学会計学研究室編、『会計学基礎論』(同文館, 1985)
久野光朗編著、『簿記論講義』(同文館, 1986)
神戸大学会計学研究室編、『第4版会計学辞典』(同文館, 1984)
森田・宮本編著、『会計学辞典』(中央経済社, 1983)

法 学 概 論 (前期) 助 教 授 結 城 洋 一 郎
(後期) 助 教 授 島 田 陽 一

私たちは好むと好まざるとにかかわらず、日々、法の拘束を受け、同時に法によって自己の権利と安全とを保護されながら生活しています。そして、民主主義社会にあっては、その法を作るのは私たち自身ですし、又、そうでなければなりません。であるとすれば、現実の法がどのようなものであるかを知り、あるべき法がどのようなものであるかを考えることは、社会の一員である私たちにとって不可欠のことだと言えるでしょう。

本講では、法領域の全般を概観することによって法というものの考え方、法的なものの考え方を身につける手がかりを提供できればと考えています。

講義内容は下記のテキストを用いて、前期では主として総論的部分と公法領域について、後期では主として私法及び社会法領域について扱う予定です。

テキスト：五十嵐清他『法学講座』(有斐閣大学双書) 有斐閣

参考文献：講義の中で紹介する。

管 理 科 学 概 論 (前期) 教 授 樋 口 透
(後期) 教 授 沼 田 久

この講義の目的の一つは、学生諸君に管理科学についての正しいイメージを形成してもらうことである。

〔前期〕

1. OR (Operations Research) の歴史
2. OR の考え方
3. コンピュータとOR
4. 意思決定過程
5. システム・シミュレーション

6. 日程計画

レポートを5編提出してもらおう。レポートは成績評価のデータに最大30%使用いたします。

参考文献：沼田 久『マネジメント・サイエンス』(富士書院)

〔後期〕

スケジューリング問題、経済性分析、動的計画法、線形計画法、ゲームの理論、輸送問題、巡回セールスマン問題、最適停止問題、グラフ理論などの講義を通じて、管理科学の考え方を身につけてもらう。

教科書：沼田 久『マネジメント・サイエンス』(富士書院)

数 学 助 教 授 兼 岩 龍 二
教 授 白 川 寛

クラス編成：クラスはS1, S2が兼岩, S3, S4が白川です。どのクラスに所属するのは自由です。

S1, S2 (兼岩) :

テキスト：前期…微分積分学 水本久夫著 培風館 1,600円

後期…記号論理入門 前限昭二著 日本評論社 1,800円

前期は1変数の微積分と偏微分法をなるべく簡単に済ませ、前期定期試験を課します。後期は記号論理(形式論理)をあつかいます。一般科学の方法という見地に立てば、この方法-形式論理だけが方法という訳にはいかないが、この考え方は基本的であり、現代数学を支配していると言っても過言ではないでしょう。また近年、電算機の普及とともに多くの人口が否応無しにこの考え方に馴れざるを得なくなってきました。21世紀をになう学生諸君はこぞって来らんことを期待します。尚、後期は定期試験をせず、簡単なレポート提出・面接のみとします。

S3, S4 (白川)

テキスト：微分積分学 水本久夫著 培風館 1,600円

前期は1変数関数の微積分、後期は多変数関数の微分法(偏微分法)とします。「基礎解析」の学習済を前提として授業をします。演習は毎回課すので提出のこと。前・後期とも定期試験を課します。

5 専門教育科目

統計学 教授 久次智雄

講義内容：度数分布，関係の分析，時系列分析
確率分布，推定，検定，予測と決定

参考書：(1) 森田優三『新統計概論』日本評論社。
(2) 森田優三・久次智雄『演習統計概論』日本評論社。

上記の(1)は講義中に使用するので持参すること。

数理統計学(後期) 教授 久次智雄

2年次の「統計学」で扱った各種の手法の基礎となる数理を明らかにし，さらにその他の手法・考え方について講義する。

講義内容 確率変数(補論)，標本統計量の分布，線形代数(補論)，多変数正規分布，回帰分析・分散分析の基礎，推定・検定論の基礎，ベイズ的推論など。

参考書

岩田暁一『経済分析のための統計的方法』(第2版)東洋経済新報社。

その他

- (1) プリントを用いる予定。
- (2) 1年次の「数学」，2年次の「統計学」および「応用数学(代数)」は履修済みであるとして講義を進める。
- (3) 欠席・遅刻等をしていると単位修得が困難になるのでその点に留意してほしい。

経済統計学 助教授 本間正義

経済統計学の目的は経済理論と統計の双方を用いて現実の経済現象を分析することである。まず経済を統計数値でとらえるための各種統計データの一般的解説および利用上の注意点を述べ，さらにそれらの統計を用いてどのような経済分析が可能かを講義する。理論および方法論を理解した上で現実の日本経済の動きを各方面から統計を通じて探ってみる。

講義内容：

1. 経済変数を数値化するための統計データについて
2. 経済理論と経済統計分析
3. 日本経済の統計的把握
 - 1) 国民所得・GNP構成
 - 2) 就業構造と失業率
 - 3) 貿易構造・国際収支構造
 - 4) 消費構造と貯蓄率
 - 5) その他

参考書：

- (1) 中村・新家・美添・豊田『経済統計入門』東大出版会
- (2) 篠原三代平編著『日本経済講義』東洋経済新報社

上記(2)は特に後半の講義で多用するので購入し指示のある時は教室に持参のこと。

経済原論 I 助教授 鶴沢 秀

マクロ経済学を基礎から中級レベルで講義する。経済学の基礎的知識や経済学的思考法に十分なじんでもらうには，テキストをよく読むことは勿論，グラフ表示や式の展開，あるいは，数値例を自分自身で操作することが必要である。そうすることで，理解度がより深まるので，十分時間をかけて，勉強する必要がある。

講義の内容

1. マクロ経済学の課題と分析方法
2. 経済循環
3. 有効需要の原理
4. IS-LM分析
5. 物価水準と総供給
6. インフレと失業
7. 資本蓄積と経済成長

テキスト：早見・鶴沢・若林・今・佐竹共著『現代経済学講義』(中央経済社，1986年)。

荒憲治郎著『マクロ経済学講義』(創文社，1985年)。

他の文献は、講義の時間中に紹介する。

経済原論Ⅱ

助教授 山本賢司

この科目では、3年次以降の経済学諸科目に対する基礎を与えることを目的として、中級レベルでのミクロ経済学を解説します。ここでのアプローチは、各経済主体の行動に幾つかの仮定を設け、それによって経済現象に説明を与えようとする考え方です。

- 概要： 1. 単純な部分均衡分析
2. 消費者行動の理論
3. 不確実性下での消費者行動の理論
4. 企業行動の理論
5. 生産物市場における価格の決定
6. 生産要素市場における価格の決定
7. 一般均衡分析とその応用
8. 市場均衡と経済的厚生
9. 市場の失敗
10. 競争的均衡分析の限界——不完全競争の理論
11. 情報の経済分析——レモン・プリンシプル、マーケット・シグナリングなど

教科書：西村和雄著「ミクロ経済学入門」（東京：岩波書店 1986年）

参考文献：講義内容に近い教科書として、次の2冊を挙げておきます。

Nicholson, Walter; *Microeconomic Theory: Basic Principles and Extensions*, 3rd ed. (Chicago: The Dryden Press, 1985)

Quirk, James P.; *Intermediate Microeconomics*, 2nd ed. (Chicago: Science Research Associates, Inc., 1983)

試験：3回の試験を予定しています。

クイズ：随時、クイズを行ないます。

成績評価の基準：成績は、試験の結果（60%）とクイズの結果（40%）とで決まります。

経済学史(前期)

助教授 栗田啓子

経済学史の目的は、第一に、経済理論の発展を歴史的に跡づけることによって、現代理論のよりよい理解を可能にすることにある。また、過去の理論を生み出した問題意識を知り、その歴史的意味を学ぶことは、現代の経済を考える際の視点を確立するためにも有益だろう。このような観点から、講義では、それぞれの時代の経済学の理論的特質とその前提になっている経済のイメージとの関連に焦点をあてながら、次にあげる経済思想を検討する予定である。

- 講義内容 1 重商主義
2 重農主義
3 アダム・スミス
4 マルサスとリカードウ, J.S.ミル
5 リストとドイツ歴史学派
6 カール・マルクス
7 限界革命とレオン・ワルラス
8 A.マーシャルとJ.M.ケインズ

参考文献 1 (思想的背景と経済学者の人物像に関して) 水田・玉野井編『経済思想史読本』, 東洋経済新報社, 1978年。

2 (経済理論に関して) M.ブローグ, 久保・真実・杉原・宮崎訳『新版 経済理論の歴史』全4冊, 東洋経済新報社, 1982-86年。

経済原論Ⅲ

非常勤講師 花田功一
(小樽商科大学短期大学部助教授)

日本は今、財政危機と貿易摩擦(円高)のために文字どおり綱渡りの経済運営を迫られています。そして、これら二つの危機要因が私達の生活に様々な困難を生み出しています(景気停滞, 福祉切り捨て, 増税, 失業, 賃金切り下げ等等)。ところで、これら財政危機と貿易摩擦(円高)が生ずる根本には資本主義の本質から生ずる全般的過剰生産恐慌があります。資本主義に不可避なこの全般的過剰生産恐慌を資本主義経済をそのままにして人為的に無理になくそうとすることから財政危機や貿易摩擦(円高)が発生するので。だから、現在の日本経済を根底から理解するためにはこの全般的過剰生産恐慌が資本主義のもとではなぜ発生するのか、なぜそれは資本主義にとっ

て不可避的なのかを理解しなければなりません。そして、マルクス『資本論』の最終目標はまさにこの点の解明にこそあったのです。

以上の様な問題意識と『資本論』理解に立って、全般的過剰生産恐慌がいかに発生するのかの解明を軸としてマルクス『資本論』の基本論理を説明します。

序論

1 『資本論』の歴史観——史的唯物論

2 『資本論』の基本内容

第1部 価値・剰余価値の理論

第2部 資本蓄積・再生産・恐慌の理論

参考文献

松石・岡本編『経済原論講義』，有斐閣

井村喜代子『恐慌・産業循環の理論』，有斐閣

計量経済学(前期) 助教授 遠藤 薫

線形モデルにおける系列相関，多重共線性の問題を考慮しながら，エンゲル関数，需要関数，生産関数，需要供給モデルの推定について講義する。

参考書

佐和隆光『数量経済分析の基礎』筑摩書房

レッサー『初等計量経済学』東洋経済新報社

Johnston, J., *Econometric Methods*, third edition, McGraw-Hill, 1984.

経済史概論 教授 井上 巽

本年度の講義はイギリス資本主義発達史を中心テーマとします。このなかで，適宜，フランス，ドイツ，アメリカなどの史実にも関説しながら経済史の基礎理論を論述し，併せてまた最近のわが国における経済史学界の研究動向についても論及する予定です。講義内容の章別編成は以下のとおりですが，後に若干の変更があるかも知れません。

I 序論——現代イギリスの経済と社会——

II イギリス資本主義の成立

III イギリス市民革命と「固有の重商主義」

IV イギリス産業革命と「世界の工場」

V イギリス帝国主義と海外投資

テキストは使用せず，講義ノートを中心に論述しますので，講義に出席することが肝要です。参考文献は必要に応じてそのつど指示しますが，当面，松田智雄編『西洋経済史』（青林書院新社），大塚久雄編『西洋経済史』（筑摩書房）さらに大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編著『西洋経済史講座』II，III，IV（岩波書店）をあげておきます。

日本経済史 教授 長谷川 伸 三

日本資本主義発達史（今年度は幕藩体制の解体より国家独占資本主義の確立までを講義する予定）。

1. 幕藩体制の解体と開国
2. 本源的蓄積政策の展開
3. 産業革命と産業資本の確立
4. 国家資本と財閥の発展
5. 第一次世界大戦前後の経済構造の変化
6. 労働者・農民運動の発展
7. 昭和恐慌と国家独占資本主義の確立

前期ではレポート提出，後期ではテストを行うほか，適宜講義中にペーパーや中間レポートの提出をもとめる。それぞれの課題を期日までに提出し，合格した者のみを評価するので，出席と自主的な学習を心がけてほしい。

テキスト：後藤靖・佐々木隆爾・藤井松一著『日本資本主義発達史』有斐閣，1979年刊。

参考書：とりあえず講義全般にかかわるものをあげておく。

野呂栄太郎著『初版日本資本主義発達史』上・下，岩波文庫。山田盛太郎著『日本資本主義分析』岩波文庫。楫西光速編『日本資本主義の成立』全2冊・『日本資本主義の発展』全3冊，東京大学出版会。大江志乃夫著『日本の産業革命』岩波書店。石井寛治著『日本経済史』東京大学出版会。中村隆英著『日本経済—その成長と構造』東京大学出版会。山崎隆三編『現代日本経済史』有斐閣。安藤良雄編『近代日本経済史要覧』東京大学出版会。

経済政策

講師 板谷 淳 一

初歩的な経済学，特にミクロ経済学の知識を前提にして，応用ミクロ経済政策について講義します。より具体的に言えば，厚生経済学および公共経済学（時間が許せば，産業組織論）の分野より，市場の失敗や公的部門の資源配分に関する話題を中心にとりあげます。説明は平易であることを旨としますが，財政学および経済原論Ⅱ（ミクロ経済学）の履習は理解を助けるものと思います。

1. 市場交換とパレート最適
2. 社会的厚生関数とパレート最適
3. 最適所得分配
4. 最適課税理論（間接税および所得税）
5. 外部性と市場の失敗
6. 公共財とリンダール均衡
7. 只乗りとインセンティブ・メカニズム
8. 便益－費用分析
9. 補償原理
10. 社会保障制度の経済分析Ⅰ－公的扶助と負の所得税
11. 社会保障制度の経済分析Ⅱ－医療保険
12. 社会保障制度の経済分析Ⅲ－公的年金
13. 公債帰着論
14. 費用逓減産業と独占禁止政策
15. 公企業論と各種の料金設定

〔参考文献〕

レイヤード＝ウォルターズ共著『ミクロ経済学』（創文社），野口悠紀雄『公共政策』（岩波書店），バリアン『ミクロ経済学』村上雅子『社会保障の経済学』（東洋経済），岸本哲也『公共経済学』（有斐閣），根岸隆他編『公共経済学』（有斐閣）。

農業経済学

非常勤講師 崎浦 誠 治
(北海道大学名誉教授・酪農総合研究所長)

農業は純粋競争の条件を比較的つよく備えた産業とされており，それゆえ農業経済学はミクロ経済学の適用にもっともふさわしい応用経済学の1分野である。講義はテキストを用いて農業問題のミクロ経済分析に重点をおくが，他方制度，政策の介入が多くなっている事実にかんがみ，その解明にも留意して資料の補足を行なう。本年度は，内外の市場開放要求と農業の将来を考慮して，国際的視点や構造変革に特に着目して講義する。

1. 現代世界の農業問題
2. 食料問題の理論
3. 農業調整問題の理論
4. 農業成長と食料問題の克服
5. 経済発展と農業問題の転換
6. 農業保護の構造
7. 農業構造の変革
8. 日本農業の政策課題

テキスト 速水佑次郎『農業経済論』岩波書店モダン・エコノミックス17

社会政策

非常勤講師 吉武 清 彦
(小樽商科大学名誉教授)

第Ⅰ篇 社会政策史

第Ⅱ篇 社会政策と労働経済学

第Ⅲ篇 社会政策各論

文 献

大河内一男『社会政策』（総論・各論計2冊）有斐閣

隅谷三喜男『労働経済論』（筑摩書房）

白井泰四郎『企業別組合』（中央公論社）

今井登志喜『英国社会史』（上・下）東大出版会

G. D. H. コール『イギリス労働運動史』（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）岩波現代叢書

一般政府の予算制約は、以下の式で示される。

$$\text{財・サービスの購入} + \text{移転支出} = \text{租税収入} + \text{公債金}$$

財政学は以上の4項目にそって展開される。以下はこの式を前提として、予定している講義内容である。

1. 政府の経済的役割と財政規模の拡大
2. 市場の失敗、政府介入ならびに政府の失敗
3. 租税総論 — 租税原則、租税の分類、課税要件および租税体系 —
4. 租税各論 — 所得税、法人税、間接税 —
5. 国債と国債の「負担」論

参考文献：拙著『財政学』（同文館出版，1980年），ならびに講義中に配布するプリント。

国際経済論 助教授 船 津 秀 樹

本講では、国際経済学の理論と応用について解説し、国際経済をめぐる諸問題について理解を深めることを目的とします。

- I. 国際経済学の方法
- II. 国際貿易理論
 1. 絶対優位と比較優位
 2. リカーディアン・モデル
 3. ヘクシャー・オリーン・モデル
 4. プロダクト・サイクル論
 5. 規模の経済性
 6. その他の貿易モデル
- III. 保護貿易論
 1. 幼稚産業保護論
 2. 衰退産業保護論
 3. 国家安全保障論
- IV. 生産要素の国際間移動
- V. 貿易制限の手段
- VI. 国際収支の理論
- VII. スペシャル・トピックス
 1. 国際貿易と不完全雇用
 2. 国際貿易と不確実性
 3. 国際貿易と不完全競争
- VIII. 経済統合と南北問題

参考書：Wilfred Ethier, *Modern International Economics*
(W.W. Norton & Company, Inc. 1983)

貿易政策は、自由貿易政策と保護貿易政策に大きく分けることができる。前者は、自由主義的な経済思想を背後に持ち、経済学者の間では正統的な考え方とみなされている。それに対して、後者は実践的な色彩が強く、理論的には必ずしも体系化されていない。ある国、ある時代が、このどちらかの考え方に一方的に支配されているというのは誤りで、どちらかが相対的に大きな比重を占めているという方が正しい。この点でいえば、最近のアメリカやヨーロッパは以前に比べると、保護貿易主義的になっているが、反対に我が国は自由貿易主義的である。

講義では、近年の世界各国の貿易政策の傾向を念頭に置いて、(1)貿易政策の諸手段の経済的効果と(2)自由貿易主義と保護貿易主義の2点を論じてみたい。概要は以下の通りである。

1. 序論
 - (1) 経済政策と貿易政策
 - (2) 貿易政策の歴史と学説
 - (3) 貿易政策の手段
 - (4) 分析の方法：部分均衡と一般均衡、完全雇用と不完全雇用モデル
2. 関税
 - (1) 関税の経済的効果 — 理論分析
 - (2) 有効関税率
 - (3) 関税政策と関税水準
 - (4) 関税の経済的効果 — 実証研究
3. 非関税障壁
 - (1) 輸入割当
 - (2) 輸出自主規制
 - (3) 政府調達
4. 公正貿易
 - (1) 輸出補助金と相殺関税
 - (2) ダンピング
5. 保護貿易論：経済的理由
 - (1) 市場の歪み：独占、賃金格差、外部経済・不経済
 - (2) 幼稚産業保護論
 - (3) 調整過程
6. 保護貿易論：非経済的理由
7. 自由貿易と保護貿易 — 結論

金融経済論

助教授 今 喜 典

経済の金融的側面をとりあげ、この理解に必要な基礎概念や分析用具を、体系的に講義する。

応用経済学としての性格から、ミクロ経済学の考え方がしばしばあらわれる。ただし、必要な経済理論はそのつど説明する。

現在のわが国は、国債の累積、金融の自由化や国際化などのように、大きな金融構造変動の時期にある。講義では、これらにも触れながら、わが国金融制度や金融構造の検討をおこなう。

予定講義内容

1. 貨幣経済と金融
2. 金融構造
3. 家計の金融行動
4. 企業の金融行動
5. 銀行行動
6. 金融市場の均衡分析
7. 金融部門と実物部門の相互作用

参考文献

1. 岩田規久男・堀内昭義「金融」東洋経済、昭和58年
2. 日銀金融研究所「〈新版〉わが国の金融制度」日本信用調査、昭和61年

金融政策

講師 坪 沼 秀 昌

以下の項目について講義を行なう予定である。

- ・金融機関の機能と役割
- ・銀行行動とマネーサプライ
- ・マネーサプライと国民所得及び物価の関係
- ・金融政策運営のあり方
- ・国債管理政策

参考文献

- 館龍一郎『金融政策の理論』東京大学出版会、1982年。
岩田規久男・堀内昭義『金融』東洋経済新報社、1983年。
日本銀行金融研究所『わが国の金融制度』（新版）、日本信用調査株式

会社、1986年。

川口慎二・三木谷良一編『銀行論』有斐閣ブックス、1986年。

国際金融論

講師 松 井 均

第I部 総説

1. 国内決済及び国際決済の仕組み
2. 中央銀行の外国為替市場介入
3. 国際収支と対外債権・債務

第II部 市場経済的側面

4. 貿易金融
5. 先物為替取引
6. ユーロ預金市場
7. ユーロ・ボンドと金融スワップ取引

第III部 通貨外交的側面

8. IMF一般融資メカニズム及び特別融資制度
9. SDR問題
10. EC通貨同盟の運営メカニズム

参 考 文 献

『外国為替読本（第2版）』東京銀行調査部編、東洋経済新報社、1985年。

『新訂・国際金融機構』滝沢健三著、文雅堂銀行研究社、1985年。

その他の参考文献は講義中にその都度示す。

流通組織論

非常勤講師 片 桐 誠 士

（小樽商科大学短期大学部教授）

商品流通の歴史的な流れを体系的にあとづけたうえで、資本制商品流通の特質を明らかにし、とくに現代の商品流通組織について詳細な考察を行う。

1. 交換ないし商品流通の歴史的展開
2. 資本制商品流通組織
3. 現代の流通組織
4. 日本型流通システム

本年度はテキストを特定しないが、下記の参考文献を重要視されたい。

- 参考文献 1. 森下二次也著「現代商業経済論」(有斐閣)
 2. 糸園, 鈴木, 小谷, 加藤共著「現代商業の理論と政策」
 (同文館)
 3. 田村正紀著「日本型流通システム」(千倉書房)

マーケティング(後前) 講師 高宮城 朝 則

本講義では、マーケティング論の中心的領域であるマーケティング管理に焦点をあて、マーケティングの基本的概念、その意思決定の特質ならびに環境との相互関係について、具体的事例をまじえて講述する。

1. マーケティングの基礎概念
2. マーケティング管理の枠組
3. マーケティング戦略
4. マーケティング諸決定
5. マーケティング組織
6. マーケティングの環境——消費者行動とマーケティング・チャネル
7. マーケティング情報とマーケティング・リサーチ
8. 日本企業のマーケティング

テキストおよび参考文献については、追って指示する。

貿易論 助教授 森 田 憲

本年度の講義では東西貿易をめぐる諸問題について考えてみることにしたい。東西貿易は、その出発点から、国際政治の強い影響を受けてきた。しかしそれにもかかわらず、長期的にみると、貿易に伴う経済的利益を求めて様々な試行錯誤がくり返され、東西間の経済関係が緊密になってきていると考えることができる。そうした視点を中心に話をすすめてみることにしたい。

講義は次のような順序ですすめられる予定である。

1. 東西経済関係の回顧。
2. 東西貿易の現状。
3. 東側諸国の経済改革。
4. 東側諸国の貿易と投資。
5. 東西貿易の展望。

教科書は使用しない。参考文献は講義の中で適宜指示する。

商業英語 非常勤講師 北 村 正 司
 (小樽女子短期大学長)

外国貿易の流れを体系的に展開し、貿易実務と英語商業通信文を統一的に講述し、実務に関する基礎的な知識の修得と商業英語の読解力および表現力の養成をはかりたい。

1. 英語商業通信文の構成と形式
2. 取引関係の樹立
3. 売買契約の成立
4. 売買契約の履行
5. 電報とテレックス

なお文部省認定実用英語技能試験1級及び準1級に関する指導を加えたい。

テキスト：鳥谷剛三「国際貿易英語」(改訂版)成美堂

証券市場論 教授 石 原 定 和

第I章 証券制度の経済的意義

1. 証券と資金循環
2. 証券の種類

第II章 証券の流通

1. 証券の流通を容易にする制度的技術
 - (1) 有価証券化
 - (2) 取引所

第III章 証券価格の形成

1. 株式価格の形成
 - (1) 支配証券, 利潤証券, 財産証券, 投機証券
 - (2) 配当/利子率——業績相場, 金融相場, 需給相場
 - (3) 株数の変化を伴う場合——資本構成, 増資, 株式分割, 合併
 - (4) 創業者利得と株式プレミアム
2. 公社債の価格形成

第IV章 証券市場と金融市場

第V章 公債と証券市場

証券金融論

助教授 青山 和 司

証券金融は、証券市場において有価証券の流通、取引に必要な資金の貸借にかかわる概念である。しかし本講義においては、このような狭義の証券金融に限定せず、広く証券と金融とにかかわる領域を対象とする。

近年、この領域では「金融の自由化」や「金融の証券化」あるいは「対外証券投資の増大」と言われる現象が生じてきているが、こうした新しい問題を考える場合でも信用論、証券論に関する基本的な概念の理解が必要である。そこで本講義では、証券と金融とを体系的に理解することに重点を置き、以下の順序で講義を行なう予定である。

I. 利子生み資本

II. 信用制度

1. 商業信用
2. 銀行信用

III. 証券擬制資本

IV. 金融機関と証券投資

〔参考文献〕

川合一郎編『金融論を学ぶ』有斐閣。

その他の文献については、必要に応じて紹介します。

経営学原理 A

教授 篠崎 恒 夫

(2, 3年次生)

上手く企業を経営する術は、経営技術であって、経営学それ自体ではない。我々は、かかる術をも含んだ日常の経営事象を対象として捉えて、それを理論的客観的に解明しようとする。このようにして把握される理論体系が経営学である。いかに経営するか、管理するかは、状況に応じ、人により種々様々であり、諸君らが自ら実践書や経済新聞などを通じて学ぶべきことである。我々がなすべきことは、まず、何故経営学なのかと経営学の社会的必然性をたずね、ついでその歴史的発展を究明し、今日何が中心問題なのかを批判的に考えることである。

1. 経営学の認識課題
2. 経営学の基礎概念——労働、管理、組織、官僚制、市場経済と体制
3. 経営学の生成と発展

4. 経営管理の展開

5. 企業形態の発展

6. 経営者論

7. 人間関係論

8. 経営組織論

参考書——拙著『管理・組織批判』同文館（近刊予定）

内田義彦『資本論の世界』岩波新書、清水正徳『働くことの意味』

岩波新書、ライト著『晴れた日にはGMが見える』講談社文庫、

鎌田慧著『自動車絶望工場』新潮文庫

関連科目——以下の諸科目を既に履習しているか、又は同時履修することが望ましい。

心理学、哲学、歴史学、社会科学概論、社会学、社会思想史、商学概論、経済原論Ⅲ、経済史概論、経営管理論、流通組織論

成績評価——1. ペーパーテストコース、レポートコースの二つのコースのいずれかを選択すること。

2. 例年のノート提出に代って質問、批判、論評などのコメントの任意提出を試みる。

経営学原理 B

教授 篠崎 恒 夫

(4年次生)

ほぼ原理Aの体系に沿いながら、本学の卒業生としての経営学的素養を短期形成するべくトレーニングを課する。具体的には、年度頭初に本講義が手がけるべきテーマリストを発表し、順次それを消化して行く。時に社会経済的な話題をテーマとして取上げることもある。毎時間2名以上のテーマに関する報告を受け、討議を行う。終了後直ちに小試験を行うか、あるいは次週提出のレポートなどによって評価を行う。年間総得点300点をもって合格とする。テーマリスト、評価方法の詳細は、初回講義に資料を配布し説明する。

経営学説史

非常勤講師 高橋 正 泰

(小樽商科大学短期大学部助教授)

アメリカで特に発展した経営学の展開に焦点をあてる。今世紀初頭の科学的管理法から人間関係論、行動科学、システムズ・アプローチそしてコンテ

インジェンシー・アプローチにいたるまでの系譜を講義する予定である。

テキスト：権 泰吉著『アメリカ経営学の展開』白桃書房 1984年
参考文献：大月博司・高橋正泰共著『経営学—理論と体系—』同文館
1986年

企業形態論(前期) 助教授 小 田 福 男

各企業形態の「所有(出資)―支配―経営」の構造を解明する。

講義内容

序. 企業形態論の概観

1. 個人企業, 合名会社, 合資会社
2. 株式会社
3. 株式会社の支配構造に関する最近の論争
4. 社会主義企業

基本参考文献：大島国雄『企業形態論』, 同文館, 1976年。

拙著『ソビエト独立採算制理論の展開』千倉書房, 1982年。

これ以外の文献はその都度指示する。

経営管理論 非常勤講師 大 月 博 司 (北海道学園大学助教授)

経営管理論は、産業社会の発展とともに生じた組織の管理問題全般を扱う研究領域として発展してきている。また、近年盛んに指摘される脱産業社会とか情報化社会の進展がより現実化すると、経営管理論はその歴史性からいって新たな展開を迫られるとともに、ますます重要な研究領域となることが予想される。

本講義では、かかる状況にある経営管理論について、組織上の基本的な管理問題を中心にその理論的解明をはかっていくことにする。なお、できるだけ実例を紹介しながら講義する予定である。

テキスト：高柳 暁編著『現代経営管理論』同文館 1983年。

野中郁次郎著『経営管理』日本経済新聞社 1980年。

参考文献：適時紹介する。

労務管理論(後期) 講師 東 條 由 紀 彦

〈労務管理〉という問題構成の出現自体を、歴史的・批判的な目で考えてみたいと思う。詳しい講義要目は現在鋭意考慮中だが、大枠は以下のような話になると思う。

1. 〈資本家的経営〉とその存立条件

*ギリシアのオイコス, 日本の院内銀山, イギリスの紡績工場

2. 「近代」的〈労働管理システム〉と、その国民的特質

*イギリス「労働貴族」と、日本の「家」

3. 「現代」的〈労働管理システム〉と、その国民的特質

*テーラーシステムと、大正デモクラシー

*時代の「境界領域」とラディカリズム, 産業民主制

4. 「現在」的〈労働管理システム〉と、その国民的特質

*セニョリティと、「終身」雇用

*「境界領域」の再現, 「コーポラティズム」

5. 〈労務管理〉の未来

尚、「日本的経営」とか、「根まわし」とか、「ME化」とかいった事も、その中で一通りの事は検討するつもりである。

又、以下の講義をあらかじめ聞いておく事を希望する。

*経済原論Ⅲ *経営学原理A

財務管理論 非常勤講師 井 村 進 哉 (小樽商科大学短期大学部助教授)

現代の企業経営活動には、生産・販売過程に直接関連する活動ばかりではなく、これらの過程に密接に結びついた独自の活動として、財務活動が含まれている。財務活動とは、当面、企業経営に必要な資本の調達と運用にかかわる活動と言うことができるが、資本主義的企業は、一方で利潤の極大化を追求すると同時に、他方で支払不能に陥らないように資本の調達と運用の両面を適合させることが求められている(収益性と流動性の均衡維持要請)。企業財務論とは、こうした収益性と流動性の均衡維持原則のうえに展開される財務活動の特質を解明するための理論であり、また財務管理論は、それに関連する管理技法・理論ないしは意思決定技法・理論に他ならない。

講義では、①資本調達論、②資本予算論、③運転資本論などの基本領域の

検討を進めつつ、国債の累積、金融の自由化・国際化・証券化のもとで展開されている企業の「財テク」活動や「産業の空洞化」現象がはらむ問題点についても検討を加えることにする。

また特定のテキストは指定せず、その都度参考文献や資料を紹介しつつ論述するが、高橋昭三編『経営財務の基礎理論』（同文館）が有益である。

なお経営財務論は、言うまでもなく経営学の一領域であるが、企業会計に関する基礎的な認識を前提とするとともに、最近の理論的な展開傾向は、金融・資本市場論などとも密接な関連をもっている。従って履習者は、経営学関連科目はもろろん、簿記論・会計学関連科目および証券市場論関連科目をもあわせて履習することが望ましい。さらに本年度は出席を重視する。

国際企業論 講師 高田 聡

企業活動が国際的に展開する過程とその背景、また企業活動の国際化が各国の経済・経営に与える影響について考察してゆきたい。とくに、多国籍企業の形成史およびその経営活動の現況には格別詳細な検討を行いたい。

なお、参考文献など講義の詳細は最初の講義の際述べる。

経営史(前期) 非常勤講師 加来 祥 男 (北海道大学助教授)

講義の進め方や重点のおき方は、受講者の数や希望をも考慮に入れて決定したい。現在のところ、担当者が予定している講義内容は、以下のとおりである。

序章 アメリカ経営史学の生成と展開

第1章 資本家的企業の発生

第2章 資本家的企業の確立と展開

第3章 独占的企業の成立

第4章 現代巨大企業の経営様式

参考文献などは、講義のなかでその都度指示する。

簿記学 A 助教授 松本 康一郎

(1) 講義は、簿記の原理(単なる入門ではない)を習得し、あわせて、会計関係諸科目の基礎を得ることを目的として進めます。講義内容は、概略次のとおりです。

1. 複式簿記機構の基本原則
2. 企業複式簿記の記帳手続(個人商業企業に限定して)
3. 帳簿組織の基本的諸類型
4. 株式会社企業簿記の特徴

(2) 受講者は、学生番号XX001よりXX200までの者とする。

(3) テキスト：久野光朗編著『簿記論講義』（同文館）をノート代わりに使用する。

サブテキスト：同編著『簿記論演習』（同文館）を講義中の演習として使用する。

(4) 参考書

沼田嘉穂『完全簿記教程（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）』（中央経済社）

安平昭二『簿記要論 改訂版』（同文館）

(5) 注意

会計諸科目の履修には、その前提として「簿記」の知識を有していることが必要です。なお、本講義の履修上の注意については、最初の授業で詳しく述べますので、必ず出席すること。

簿記学 B 助教授 山本 真樹夫

(1) クラス編成

各学年とも学生番号201以降は簿記学Bに属する。

(2) 講義内容

簿記とは単なる記帳技術であるとか、コンピュータの利用により無用な学問になりつつあるかという誤解があるかもしれない。しかし簿記は当初から企業の複雑な営業活動、投資活動、財務活動に関する情報を組織化し、意思決定に有用な情報に加工するという、最も基本的な情報システムであった。システムの思考あるいは情動的思考の基本的姿は簿記に見いだされるといっても過言ではないと思う。

かかる簿記を学ぶためには、その基本原理を十分に理解しなくてはならない。同時に基本原理にしたがった技術の修得も要請される。受講者は簿記および会計が個人にとって、企業にとって、さらに社会にとっていかなる役割を果たしているのか、について十分な問題意識をもって受講して欲しい。

(3) テキスト

久野光朗編著『簿記論講義』（同文館）。なお、左記テキストに準拠した演習書、久野光朗編著『簿記論演習』（同文館）を用意することが望まれる。

簿記演習

助教授 山本真樹夫

(1) 講義内容

本講義では簿記の問題演習を通じ、簿記学の講義で十分に触れることのできなかつた点、また理論的、制度的に重要な点を探り上げて解説を行う。問題演習であるから基本的問題解決能力を身につけてもらうことはもちろんのことであるが、問題はあくまでも素材であり、目的はむしろ会計測定理論の展開にある。したがって受講者は、本講義が資格試験等のための問題演習講座ではない、ということに留意して欲しい。

(2) テキスト

久野光朗編著『簿記論演習』（同文館）および簿記学で利用した久野光朗編著『簿記論講義』（同文館）。なお中央経済社編『会計法規集（最新増補版）』（中央経済社）ないしそれに類する会計規定集も用意すること。

(3) その他

講義には電卓ないし算盤および定規を用意すること。

会計学

教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行い、参考書の紹介などもいたしますが、授業内容を大別すれば次のとおりです。

§ 1 総論

§ 2 測定論

収益、費用、資産、負債、資本

§ 3 伝達論

§ 4 各論

テキスト：

太田・飯野、『会計学』（千倉書房、1983）

参考書—現在入手可能な標準的参考書：

黒沢 清、『近代会計学』（春秋社）

山下勝治、『会計学一般理論』（千倉書房）

飯野利夫、『財務会計論』（同文館）

武田隆二、『会計学一般教程』（中央経済社）

青柳文司、『会計学の原理』（中央経済社）

黒沢 清(主編)、『体系近代会計学』（中央経済社）

神戸大学会計学研究室編、『第4版会計学辞典』（同文館）

森田・宮本編著、『会計学辞典』（中央経済社）

監査論(夏季集中) 非常勤講師 三澤 一

(成蹊大学教授)

本講では主として公認会計士(または監査法人)によって実施される財務諸表監査の基礎的諸問題のうち、特に次に掲げる事項について検討を加える予定である。

1. 法定監査制度と財務諸表監査の概要

2. 監査基準の構成内容

3. 監査主体(職業会計士制度、会計事務所、監査チーム)

4. 監査計画の設定要件

5. 財務諸表監査と内部統制の調査

6. 監査技術、監査手続および監査証拠

7. 監査報告書の記載事項

テキスト 三澤 一著「会計監査の理論」(改訂版)(中央経済社)

原価計算論

助教授 福島吉春

1. テキスト

溝口一雄『最新原価計算講義』（中央経済社、1979）。同書は資格試験のための自習書として版を重ねてきた同一著者の著書『例解原価計算』の教科書版であり、簡明な叙述に特徴がある。

2. 講義内容

(1) 総説(原価計算の基礎概念)

- (2) 実際原価計算
- (3) 標準原価計算
- (4) 直接原価計算

授業では計算技法だけでなく、その基盤となる管理思考や歴史的背景をも理解してもらおう。なお最初の授業で講義内容および下記参考文献の解説をおこなう予定である。テキストと『教授要目』を持参されたい。

3. 参考書

- (1) テキストを理解するための基礎文献——①岡本清編著『管理会計の基礎知識』, ②津曲・宮本編著『原価計算の基礎知識』(以上, 中央経済社), ③原価研究会編『原価計算テキスト』(同文館)。
- (2) 理解を深めるための文献——①岡本清『原価計算(三訂版)』(国元書房), ②津曲直躬『原価計算論講義』(中央経済社), ③原価研究会編『ステップ式・原価計算演習』(同文館)。

経営分析論

助教授 中 善 宏

財務諸表分析を講義する。簿記学, 会計学および原価計算では, 主として会計情報の作成者として必要な知識を学習する。これに対して財務諸表分析は, 情報の利用者の立場から, 提供される財務諸表を利用する方法に注目する。企業会計制度の生産物である損益計算書, 貸借対照表などは, われわれがある特定の企業あるいは業種の企業活動に関心をもつ場合に依拠する重要な情報源の一つである。さらには内部的に経営管理上の意思決定にも利用される。本年度の講義は, まず財務諸表分析の基礎的な方法を講義する。すなわち, 百分率表や比率を用いた流動性および収益性分析の方法を, 企業間比較や同一企業の時系列比較にどのように適用するかを解説する。ついで, 最近の情報処理技術の進展に伴って急速な普及を見せている, 主成分分析や判別分析などの多変量解析による分析方法をとり上げる予定である。講義内容に関連する文献は, 講義中に適宜指摘するが, テキストとしては次の文献を利用する。

青木茂男著 日経文庫「経営分析の手引」 日本経済新聞社 昭和45年

テキスト:

(念頭集の資料用) 資料 (1)

憲 法

助教授 結 城 洋 一 郎

「憲法」という法形式が成立する歴史的な過程と意義を学び, わが国の憲法については, 基本的人権を中心に具体的裁判例を参照しながら講義を行う。

講義内容

I 総論

- (1) 憲法とは何か
- (2) 自然権思想と国民主権原理

II 日本の憲法

- (1) 明治憲法から日本国憲法へ
 - (i) 明治憲法の特徴
 - (ii) 憲法の変動
- (2) 日本国憲法
 - (i) 基本的人権の保障
 - (ii) 平和主義

テキスト: 清水 睦他『憲法講義 I』有斐閣

大須賀明他『憲法講義 II』有斐閣

参考書: 講義の中で紹介する。

行 政 法 I

教授 秋 山 義 昭

具体的な事例を素材にしながら, 行政法の全体を体系的に講義する。行政法は, 憲法・民法等の知識を不可欠とするので, 受講者はこれらの科目についてすでに相当の成績で履習済みであることを要する。

テキスト: 遠藤・熊本・秋山・畠山「教材行政法判例」(北大図書刊行会)

参 考 書: 今村成和「行政法入門(新版)」(有斐閣)

田中二郎「新版行政法上(全訂第二版)」(弘文堂)

室井ほか「行政法を学ぶ1・2」(有斐閣)

原田尚彦「行政法要論(全訂版)」(学陽書房)

行政法Ⅱ (夏季集中) 非常勤講師 畠山 武 道
(立教大学教授)

租税法総論, 所得税法, 法人税法の一部を講義する。租税法は, 税制や企業会計, 税務会計そのものを取扱う学問ではなく, 法律としての税法がどのような原理に基づいて組立てられ, それを適用するに際してどのような法律上の制約原理が働くのかを究明する学問である。講義に際しては, 法律学としての租税法の特色を理解してもらうように心がけるつもりである。同時に, 今年は『シャープ勧告』以来という大規模な税制改正がなされたので, その内容についても十分な紹介をする。講義は, 基本的概念の説明はテキストに委ね, 判例・事例に対するディスカッションを中心に進めるので, 予習して参加すること。

テキスト: 畠山武道「租税法(改訂版)」(青林書院)

参考書: 金子宏「租税法(補正版)」(弘文堂)

ジュリスト別冊「租税判例百選(第2版)」(有斐閣)

ジュリスト総合特集「日本の税金」(有斐閣)

金子・清永・宮谷・畠山「税法入門」(有斐閣新書)

行政法Ⅱ (後期) 非常勤講師 猪股 弘 貴
(小樽商科大学短期大学部助教授)

行政組織法総論と地方自治法を中心に話しをする。行政法Ⅰ(特に行政訴訟法)や憲法(特に内閣と地方自治)との関連部分の理解を前提にしているので, よく勉強しておくことを希望する。授業中にしばしば条文を参照するので, 六法(できるだけ, 小六法, 基本六法, 模範六法の中から一つ)を必ず持参して出席して欲しい。テキストとしては, 田中二郎(著)『行政法中巻(全訂第二版)』(弘文堂)を使用する。

財産法Ⅰ 教授 神田 孝 夫

民法典は5編から成り, そのうち第1編総則, 第2編物権, 第3編債権を財産法とよび第4編, 第5編を家族法とよぶのが通例である。本講義では, 財産法の前半の第1編と第2編が主要な対象となる。民法典は, 私法の基礎法であり, 講学上も, 法律学一般に妥当する数多くの基本的な概念が登場す

る。その意味で, 他の法分野を勉強する前提としても, これを十分に勉強することが必要である。

テキスト, 検討中, 後日指示する。

参考書は開講時に紹介する。

六法全書は必携(どの出版社のものでもよい。ただし, 試験の際には, 判例や解説の付いている六法の持ち込みは許されない)

なお, 前期試験の成績が極度に悪い者に対しては後期試験の受験を認めない場合もありうるので, 留意されたい。

財産法Ⅱ 非常勤講師 藤原 正 則
(小樽商科大学短期大学部講師)

財産法Ⅰに続きⅡでは, 債権法を取扱う。但し不法行為法は除く(環境法の一環として講じられる予定である)。債権法の前半である債権総論は, 特に体系的でもあり民法典の中でも最も難解な部分と言われている。なるべく具体的な問題に即して平易に語りたい。教科書は昨年度と同じく, 遠藤浩, 打田峻一編「新版民法(債権)講義」青林書院とする。参考文献は追って開講時に指示する。

民事訴訟法 非常勤講師 池田 雄 亮

講師の25年に及ぶ弁護士としての実務経験を基礎に, 現実に起きた具体的な事件の解決策を六法片手に探りながら, 民事訴訟法のみならず民事執行法, 場合によっては破産法その他の倒産処理法にも触れ, 観念的な民商法上の実体的な権利が具体化される過程を通して, 手続法(関連法を含む)の独自性, 特殊性と民商法との関連性を考える事にする。

その場合, 学生諸君が, 下記参考書等により本講座から一步進んだ学習をするときに必要な最低限の知識の習得と, 社会人になったときに一般的な紛争解決の場において必要とされる, 物事の捕らえ方・処理の仕方という基本的な物の考え方の会得に留意しながら, もって本学の伝統である実学的研究に資するところがある講義を目指したいと考えている。

[参考書]

①小島武司著「ブレップ民事訴訟法」弘文堂

②中野貞一郎・松浦馨・鈴木正裕編「民事訴訟法講義(補訂版)」有斐閣

③新堂幸司著〔民事訴訟法（第二版）〕筑摩書房
特に、教科書の指定はしないが、①の書物は学生諸君に必ず役立つところがあると思うので、是非読んで戴きたいと思う。

会 社 法（前期）非常勤講師 野 田 博
（小樽商科大学短期大学部講師）
（後期）講 師 浅 木 慎 一

株式会社法を中心に、以下の順序で講義を進める。

前期において、1) 会社総論を概説した後、株式会社の2) 設立3) 株式の流通4) 企業金融につき、野田が担当する。

引続き、後期においては、5) 機関6) 計算7) 企業結合を中心に、浅木が担当する。

現在進められている会社法改正作業についても、可能な限り言及するつもりである。

テキストとして、河本一郎「現代会社法〈新訂第三版〉」（商事法務研究会）を用いる。なお、ジュリスト別冊「会社判例百選〈第四版〉」（有斐閣）を携帯のこと。

参考書として以下のものを挙げる。

北澤正啓「会社法〈新版〉」（青林書院）

堀口亘「会社法」（国元書房）

商 取 引 法 講 師 浅 木 慎 一

商法典中、第一編総則および第三編商行為法の諸規定を中心に、企業取引法を概観する。商法典の規定のみならず、新しい取引形態やそこから発生する法律問題等にも触れてみたいと考える。

時間があれば金融法などにも言及したいと思う。

参考書として、以下のものを挙げておく。他に講義でも紹介する。

大隅健一郎「商法総則（新版）」（有斐閣）

平山慶道「商行為法」（青林書院）

有価証券法（後期） 教授 青 竹 正 一

教科書：上柳ほか編『手形・小切手法講義（有斐閣双書）』有斐閣

参考書：『手形・小切手判例百選（第三版）』有斐閣

経 済 法 助教授 和 田 健 夫

市場機構に対する国家の介入のための法について概説します。

講義内容

1. 市場機構と法のかかわり

1・1 近代市民法の理念

1・2 市場機構の自律性と近代市民法

2. 経済法の性格

2・1 市場機構の自律性の喪失と国家の介入

2・2 経済秩序法と経済規制法

3. 経済秩序法

3・1 独占禁止法

3・2 消費者保護法

3・3 中小企業保護法

4. 経済規制法

4・1 経済規制の目的と方法

4・2 公益事業法

4・3 個別産業保護法

4・4 経済統制法

4・5 カルテル許容法

テキスト

1. 実方・厚谷・向田・和田編「教材独占禁止法（第二版）」

（青林堂）

2. 「商経六法（昭62版）」（三省堂）、できる限りこれが望ましいが、他の出版社のでもよい。

3. なお、今年度から講義用テキストを配付する。

参考書・教科書

1. 松下満雄「経済法概説」（東京大学出版部）、および

2. 実方謙二「独占禁止法」(有斐閣)。いずれも少し高いが、最近の動向にも触れた現在ではもっともすぐれた体系書・概説書である。

経済刑法 助教授 丸山雅夫

主として財産犯を取り扱い、現代型の犯罪のいくつかにも言及する。なお、刑法の基本的な考え方を理解していることが前提となるので、必要な限度で総論の諸問題についても説明を加える。

- 教科書 内田文昭著『改訂刑法I(総論)』(青林書院)
平野龍一・松尾浩也編『別冊ジュリスト82刑法判例百選I総論(第二版)』, 同『別冊ジュリスト83刑法判例百選II各論(第二版)』(有斐閣)

労働法 助教授 島田陽一

近年のサービス経済化、情報化といわれる産業構造の変化にともなって、労働法をめぐる状況は急速な変容をとげてきている。たとえば、就業構造の変容により、労働者のなかでも正規従業員は減少し、パートタイマー、派遣労働者等の非正規従業員が増加してきており、その結果、「企業別組合」が主流であるわが国では組合組織率が年々低下してきているのである。また、男女雇用機会均等法、労働者派遣法の制定等に見られるように、労働法それ自体も変容期にあるといえる。そこで、このような状況をふまえ、労働法の動的な認識が得られるように留意して講義をすすめていきたい。

なお、教科書として下記の文献を指定するが、講義の順序は教科書の目次どおりではないので留意して欲しい。

- 教科書 外尾健一著『新版労働法入門』(有斐閣)

社会保障法(夏季集中) 非常勤講師 加藤智章 (山形大学講師)

I 総論

社会保障の概念

社会保障制度の歴史

わが国における社会保障制度の枠組

II 各論

医療保険、年金保険、雇用保険、労災保険、生活保護がどのような形で国民の生活に関わってくるかを、実態や判例に触れながら検討する。

<参考書>

- ①西原道雄編「社会保障法(新版)」(有斐閣双書)
②健保連編「社会保障年鑑 1986年版」(東洋経済)
③ジュリスト別冊「社会保障判例百選」(有斐閣)

①は、講義前にできるだけ読んでくること。②③については、講義にもってくること。

なお、受講に際しては、少なくとも小六法クラスの六法を必ずもってくること。

環境法(冬季集中) 非常勤講師 熊本信夫 (北海学園大学教授)

テキストとしては、原田尚彦、環境法(弘文堂)をあげる。環境法の問題は公害のほか、公園、緑の問題など広く我々を取り巻く生活環境一般までを含む。また今日の環境法の問題は、世界各国の環境問題と無関係には論じられないと考える。その意味で本講義ではアジア、アメリカ合衆国その他の問題も取りあげたい。

国際法 I 助教授 中村 恵

1 講義内容

国際社会における法秩序全般について、概ね以下の順序で検討します。

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 国際社会と法 | (2) 国際法の源泉 |
| (3) 国際法の主体 | (4) 国際法と個人 |
| (5) 条約法 | (6) 外交関係法 |
| (7) 領域法 | (8) 国際責任 |
| (9) 国際紛争の解決 | (10) 国際社会における平和維持 |

2 テキスト及び参考文献

特定のテキストは使用しません。参考文献については、その都度指示し

ます。なお、条約集については、以下を推薦します。

小田滋・石本泰雄編『解説条約集』（三省堂）

国際法Ⅱ（前期）助教授 中村 恵

1 講義内容

前期は、“International Air and Space Law”というテーマで、概ね以下の内容について検討します。

(1) 国際航空公法

(2) 国際航空私法

(3) 宇宙開発の国際法

以上の様に本講義は、国際法Ⅰ程度の知識を前提として、国際法の各論的分野を取り扱いますので、履習登録の際は注意して下さい。

2 テキスト及び参考文献

特定のテキストは、使用しません。参考文献は、その都度指示します。

国際法Ⅱ（後期）助教授 清水 章 雄

1 講義内容：国際紛争の平和的解決

(1) 外交交渉

(2) 仲介

(3) 審査

(4) 調停

(5) 仲裁

(6) 司法裁判

(7) 国連

(8) 地域的機関

2 テキスト

(1) メリルス『国際紛争の平和的解決』（敬文堂）

(2) 横田喜三郎・高野雄一編『国際条約集 1987年版』（有斐閣）

3 冬休みの課題図書

松井康浩『原爆裁判』（新日本出版社）

国際機構論

教授 大谷 良 雄

本年度の国際機構論は、前期を国際連合を中心とした普遍的国際機構に当て、後期をヨーロッパ共同体（EC）を中心とした地域的国際機構に当てる。通常の国際機構論では、国際裁判制度論は除外されるが、本年度の国際機構論においては、国際司法裁判所とEC裁判所の制度についても言及する予定である。

テキスト：（前期）筒井若水著「国際法Ⅱ」（青林書院新社，昭和57年）

（後期）大谷良雄著「概説EC法」（有斐閣，昭和57年）

参考書：高野雄一著「国際組織法（新版）」（有斐閣，昭和50年）

香西・安藤編「国際機構条約・資料集」（東信堂，昭和61年）

国際経済法

助教授 清水 章 雄

国際法のなかで国際経済の調整・発展を目的とする部分およびそれに関連する国内法について、次の範囲で講義を行います。

1 国際通商法

(1) 輸出入規制の法的枠組 (2) セーフガード措置 (3) ダumping防止税

(4) 補助金・相殺関税 (5) 関税分類・評価 (6) スタンドアード及び政府調達

(7) GATTの紛争処理手続 (8) 開発途上国と貿易

2 国際競争制限法

(1) 独禁法の域外適用 (2) 貿易と競争制限

3 国際知的所有権法

(1) 知的所有権の属地性 (2) 技術援助契約 (3) 技術移転と南北問題

4 国際投資法

(1) 投資規制 (2) 国有化 (3) 投資紛争処理手続 (4) 投資保険

(5) 投資保護条約

5 国際金融法

(1) IMFの法的枠組 (2) 国家債務累積問題 (3) 国際開発金融

6 国際租税法

(1) 租税条約 (2) 国際取引に伴う課税 (3) 国際的租税遁脱防止

なお、テキストとして松下満雄『日米通商摩擦の法的争点』（有斐閣），その他に高野雄一・小原喜雄編『国際経済条約集』（有斐閣）を使用します。

国際取引法(前期) 助教授 桑原康行

1. 講義内容

次の順序で講義を行う。

一、序論

二、国際的売買

三、国際的支払

四、紛争の解決

2. 教科書

『現代法学全集52 現代の経済構造と法(筑摩書房)』

3. 参考書

参考書については、第1回目の講義の時に指示する。

管理科学通論 非常勤講師 浅利英吉
(東海大学助教授)

近代の組織体の管理・運営とその社会への対応は、既に人智を結集した科学の対象となっており、管理科学の名はこれを由来する。管理科学通論ではまずこの学問と技術の連峰を広く展望し、ついでその脊梁山脈を形成している確率論・数理統計学へ入門する。ついでいくつかの数理手法—たとえばシミュレーション、予測、線形計画法—をえらび、それらの理論と実際を論ずることを通じて、管理科学を学ぶ基礎をやしなわしめるものとする。

管理科学 I 助教授 若林信夫

本年度は、「マイクロコンピュータを利用したオペレーションズ・リサーチ」を基礎的かつ実務的に考究する。

I. AHP(階層的プロセスの解析)の基礎と応用。4月-5月。

参考文献: 刀根 薫「ゲーム感覚意思決定法」日科技連, 1,400円。

II. 数理計画法(グラフ・ネットワーク, 積み換え問題)6月-9月。

参考文献: 伊理正夫「線形計画法」共立出版, 2,200円。

III. 在庫管理, 待ち行列, シミュレーション。10月-12月。

IV. データベース, 情報システム, 暗号学。1月-2月。

試験: 2回 9月(定期試験の前週)と2月(定期試験内)。

レポート: 2回 夏休みと冬休み明けに提出。

出席調査: 年10回程度。

計算センターのアカウント: 各自とっておくこと。

管理科学 II 教授 樋口 透

ORは、企業の科学的管理を指向したものであるが、本論では、もう少し広く、社会システムに焦点をあてる。つまり、社会に存在する矛盾や不合理性が何であり、またそれらをどのように解決し、調和のあるシステムとして存続させるか。このような観点からORおよびシステム論を考える。

比較的新しい分野であり、市販の文献にない理論や手法も解説するので講義に出席し、その場で理解することが肝要である。なお、演習問題を課するのでコンピュータのプログラミングに習熟しておく必要もある。

教科書(前期): 鈴木光男・中村健二郎「社会システム」共立出版

後期は教科書を用いない。

管理科学 III (前期) 教授 沼田 久

後期では、ORに必要な、ものの見方、考え方、コンピュータの世の中における使われ方、その他種々の題材をとり上げる予定。

後期の講義内容とは直接的関連はないので、そのつもりで受講すること。

管理科学 III (後期) 教授 戸島 熙

数式処理とそのシステムを解説する。具体的には数式処理システムREDUCEの外部仕様を問題にする。そのため、数式処理とREDUCEについて概観したあと英文マニュアル

A. C. Hearn (ed. by), "REDUCE USER'S MANUAL Version 3.2", The Rand Corporation, 1985.

の全文を逐次読んでいくことにする。その過程でREDUCEのシステム構成を明らかにしたい。同時に、英文マニュアルの読み方を指導する。なお、数式処理のアルゴリズムにもふれる。参考文献は非常に少ないが

佐々木建昭他、「数式処理システム」, 昭晃堂, 1986.

佐々木建昭, 「数式処理」(情報処理叢書 7), 情報処理学会, 1981. の二著をあげておく。REDUCEは本学の計算センターで利用することができるほかマイクロコンピュータでも利用できる。それらで演習を行うことを課題とする。

現代社会の多様化と環境適応への必然性は、本格的ハイテクノロジー時代に突入した昨今、新しい企業概念を求めるほどに急進的である。とりわけ、現代社会での組織変革への要請は、生き残り戦略の展開面できわめて顕著であり、いわゆる組織・管理に関する諸問題へのサイバネティック・アプローチを急務とする。本講義は、組織体が社会・経済環境の激変に適応していくためには、組織サイバネティックスの展開が必須であり、広く組織論や意思決定論など経営学的研究をも包含すべきであるとの観点から、MIS（管理情報システム）からDSS（意思決定支援システム）までの発展的考察を意図して理論面からのアプローチを試みる。同時に、OA（オフィス・オートメーション）時代の実践的理論の構築について言及する。

ここで、経営情報論の生成過程について、MIS研究の立場からの体系的検討を試みるとすれば、まずMIS前史としての事務管理論（事務の機械化レベル）から、経営事務管理論（管理の機械化レベル）、経営情報管理論（経営の機械化レベル）へと発展段階的にとらえるのであり、さらにはより人間中心的なアプローチである経営組織管理論（組織システムのレベル）へと展望されるであろう。本講座では、これらの詳細についても考察する予定である。

テキスト：山田壹生著『経営情報論～講義ノート～』（1987年版）
主要参考文献ならびに参考文献については、きわめて多数のものを挙げる結果となり、標準的なテキスト・ブックを指定することは、とうてい困難である。したがって、講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

会計情報論

教授 山田 一生

情報化社会から情報社会へとも言われている現代、情報伝達のスピードが飛躍的に高まり、従来別世界にあったような情報が、今ではなくてはならない貴重な情報として活用されるという例は、今後ますます発展するものと思われる。また、情報のとらえ方もその限定された枠の中でとらえるだけでなく、より広汎な視野からとらえることが必要となってくるであろう。会計システムの場合でも、単に会計分野だけの情報にとどまらず、経営という立場からみた企業全般を対象とする情報、経済状況、社会、環境とその枠は拡大

される。現代の会計学が経営学、経済学さらには社会学や環境学をも取り入れようとしている流れも、この枠の広がりによって無関係ではなからう。

会社情報システムは、企業の経営活動の全般にわたって、(1)事後計算（報告的会計）、(2)現在計算（管理的会計）、(3)事前計算（予測的会計）のそれぞれの情報を提供し、経営意思決定に役立つ情報システムとなるものである。しかるに、1966年のASOBAT（a Statement of Basic Accounting Theory）の公表以来、いまだにその実践的展開による検証を経た、真の会計情報システムの一般モデルが登場していない。さらに、企業の情報システムに対して、一般に要求されると考えられる情報の種類は、(1)歴史的情報（オペレーショナル・マネジメント層）、(2)執行的情報（スタッフ・マネジメント層）、(3)決定情報（エグゼクティブ・マネジメント層）であり、現在の会計システムは、そのうちの歴史的情報の大部分を提供しているのにすぎないのが実状である。

その原因として考えられることは、まず第一に会計システムが、主として外部指向のプロセスとして、財務会計を中心として展開されてきたということがあげられる。意思決定に有効な情報をもたらすためには、内部指向のプロセスへの展開を図らなければならないが、そこで問題となるのが、意思決定者自身が各自の持つ情報ニーズをシステムに十分反映させることができないということであろう。さらに、意思決定支援のためには、意思決定者のもつ経験的な情報ニーズやその処理ロジックを柔軟にコンピュータ・システムに反映させることが必要であるが、そのためには、従来からの大型コンピュータでのEDPを中心とする集中処理型のシステムで対応することは難しく、その役割は、多種・多量のファイルハンドリングが可能となってきたこと、ネットワーク構築が容易であることなどの理由により、パーソナル・コンピュータが担うことも期待されているのである。

このような会計研究に関する進化論的アプローチの結果、伝統的企業会計制度としての会計システムは、(1)EDPシステム→(2)IDPシステム→(3)エキスパート・システム→(4)意思決定支援システム、さらには(5)人工知能システムとして捉えられるのであり、最近における(a)構造的アプローチ（ファームウェア）、(b)技術的アプローチ（ハードウェア）、(c)人間的アプローチ（ヒューマンウェア）、(d)機能的アプローチ（ソフトウェア）という4つの側面からの統合プロセスと捉えることにより、会計情報システムの新展開

がはかれることになろう。本講座における具体的講義内容としては、(I)会計情報システムの新展開、(II)意思決定支援システムへの実践的アプローチ、(III)意思決定支援システムの具体的展開、(IV)意思決定支援システム・ドキュメンテーションであるが、講義と演習とを同時併行させる方式を実現できるよう配慮することにする。

すなわち、(i)仕訳プログラム、(ii)勘定記入プログラム、(iii)試算表プログラム、(iv)精算表プログラム、(v)修正財務諸表プログラム、(vi)経営分析プログラム、(vii)デジジョン・パッケージ・プログラムなどについて、DB/DC(Data Base/Data Communication)アプローチを展開する予定である。これらの同時併行作業を通じて、会計情報システムの原理的ならびに実証的研究をはかり、会計情報システムの基本的設計を究明するとともに、さらに、会計情報論の諸問題について論述する。

テキスト：山田壹生著『会計情報論～講義ノート～』（1987年版）
主要参照文献ならびに参考文献については、きわめて多数のものを列挙する結果となり、標準的なテキスト・ブックを指定することは、とうてい困難である。したがって、講義の中で必要に応じて、その都度紹介する。

応用数学(代数) 教授 沼田 久

管理科学、経済学、統計学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形計画問題の解法の初歩に触れること、線形代数学が経済学などにどのように応用されているかを知ること、などである。情報処理I、応用数学(解析)とともに、管理科学科の学生は必ず履修することが望ましい。

高等学校的な数学の得手・不得手と直結するものではないが、論理的能力またはある程度の根気が必要である。例年の傾向では、管理科学科以外の学生の合格率は非常に低いので、履修届を出すにあたっては十分な考慮が必要である。

なお、二度目、三度目等になる履修者には、採点を厳しくするので、安易な態度で履修届を出すとは後悔するかも知れない。

教科書：沼田 久『線形数学序説』（学術図書出版社）

応用数学(解析) 助教授 中村 隆 志

管理科学、経済学などを学ぶために必要である微分方程式、差分方程式を中心に、それらの基本解法、数値計算法、応用例などについて講義する。

教科書

(前期)石原 繁：微分方程式、共立出版

(後期)未定

「数学」は履修済みであるとして講義を進める。

また、後期にはコンピュータによる数値計算の演習を行うので、「情報処理I」を併せて受講し、基本的なプログラミング技法を習得しておくことが望ましい。

応用数学(統計I) 助教授 清水川 緋紗子

テキスト：A.M. ムード 他著

大石泰彦 訳 「統計学入門」 マグロウヒル好学社

数表 : 日本規格協会 「統計数値表」コンサイス版

応用数学特講(前期) 非常勤講師 小林 正 忠 (元北海道大学教授)

線形差分方程式と線形微分方程式の演算子による解法を述べるのが本講の目的である。

(内容)

第1章 線形差分方程式

§1-1 演算子 Δ , Δ^{-1} について

多項式 $P_n(x)$ と階乗関数 $\sum_{k=0}^n b_k x^{(k)}$ の関係

(i) $\Delta x^{(k)}$, $\Delta^{-1} x^{(k)}$

(ii) $\Delta^{-1} \frac{1}{x}$

§1-2 演算子 E と 定係数線形差分方程式の解法

第2章 線形微分方程式

§2-1 演算子 D , D^{-1} について

§ 2-2 定係数線形微分方程式の解法

(i) 一般的な解法 (ii) 演算子Dによる解法

第3章 演算子E と Dの関係について

(予備) 第3章 ラプラス変換と微分方程式

情報処理 I (前期) A 助教授 杉 本 英 二
B 助教授 中 村 隆 志

クラス編成：前期は実習の都合上、2つのクラスに分けますが、後期は計算機に慣れますので1つのクラスです。

61年度入学の学生は、学生番号下3桁が0から199まではAクラス、200番以降はBクラスです。その他の学生のクラスは後日決め、掲示します(実習には、管理科学科の助手の行方常幸、中山明先生の援助を予定している)。

情報処理 I の目標は、コンピュータを使って情報を処理する技術の入門です。特に前期に入門の入門であるから、触れてみる、やってみることを重点にしている。そういう意味では、本学のコンピュータ利用に慣れてもらうための入門コースであると言ってもよい。コンピュータを利用するには、どのようにコンピュータを動かすのか指令を伝えなくてはならない。この指令をどのように書けば、人間の意図どおりにコンピュータに伝わるかを定めた言葉やルールを、コンピュータ言語と言う。これらの言語のうち、古くはなつたがやさしいFORTRAN言語を使って、プログラミングの基本定石を修得してもらいます。これらの基本定石を使えば、ある程度のプログラムを自分で作れるようになります。これが前期の目標です。

さて、コンピュータにやってもらうべきプログラムができて、それだけではコンピュータは動いてくれません。プログラムをコンピュータに与える手続が必要です。お役所に書類を出す時のように、正確に手順を踏まなくてはなりません。これがうまくいってないと、エラーだと怒られます。どのようにエラーなのかを、コンピュータがあまり教えてくれないのが、コワイ所です。このためにも、講義が必要でしょう。最近のパソコンのあるものでは、かゆいところに手が届くように教えてくれるものも出現してきていますが、大型コンピュータでは、大き過ぎて手が回りかねているようです。

前期後期ともに講義以外にコンピュータを使った演習が必要ですから、講義とは別に、各自週当たり2時間程度、演習の為の時間を用意して下さい。

計算センターの利用者は諸君だけではありません。互いにルールを守り、整理整頓を心掛けるのも学生たる努めであります。

Aクラステキスト：森口繁一「JIS FORTRAN入門(上)」第三版

Bクラステキスト：菊地光昭編「文科系のためのFORTRANプログラミング入門」、近代科学社

情報処理 I (後期) 助教授 若 林 信 夫

この科目は「6単位」であり、そのうち、4単位分を講義に、あとの2単位分は演習に充てる。講義では、高級プログラム言語のPascalを主体に、情報処理の基礎である「算法(アルゴリズム)」を学ぶほか、記号処理用のLisp、事務処理用のCobolの基本を学ぶ。

受講者はこれら3つの言語の基本部分について簡単なプログラムを書けるようになるはずである。さらにどれかひとつの言語についてはエキスパートになっていただく。9月中旬に指定する自習テキスト1冊を、選択・購入し、講義時間外に計算センターで実習し、自習ノートにまとめ、2回提出することを義務づける。自習テキストの疑問点は、中山明助手か若林に聞いて解決し、疑問点を自習ノートには書かないこと。

試験： 1回(定期試験内)

クイズ： 3回(各言語)

出席調査： 3回(クイズのとき)

情報処理 II 助教授 杉 本 英 二

情報処理技術の根幹は、プログラム作成能力です。この能力さえあれば、その他の情報処理に必要な様々の知識は、プログラムを作るというプロセス(プログラミング)において、結果として得られるものですから。

本年度は、パソコンのTurbo Pascal を使って次の2つのことを学ぶ。

(1) プログラミング

(2) パソコンの仕組みとMS-DOS

1年間の授業と実習をこなせば、情報処理技術者2種程度のレベルになると思います。なお、情報処理 I の単位を履習ずみのこと。さらに、実習に必要なフロッピーディスク(2dd、もしくは2hd)を10枚程度用意して下さい。

情報科学の原論として「計算可能性理論」を論じるが、そのさい抽象的に
なり過ぎないように“純LISP”処理系を具体例として解説する。項目的
には、関数、帰納的記述法、手続き、アルゴリズム、チューリング機械、ラ
ムダ算法、帰納関数、S式、万能関数、純Lispインタプリタ、環境問題、
Funarg問題などが扱われる。これらの概要は

戸島一瀬, 「Lispの理論的背景」archive, No. 2,

CQ出版, 1986.

に述べられており、講義もこれにそって行う予定である。なお、Lisp その
他のプログラム言語を用いて演習を行うことは課題とする。参考文献につい
ては上記論文の最後を見よ。受講にあたっては論理的かつ抽象的思考力以外
とくに必要なものはない。

6 教職科目

教育心理学

非常勤講師 湯浅誠哉
(北海道薬科大学助教授)

「教育心理学」は学校教育に携わる者には勿論必須の学問である。この学
問はそれにとどまらず、広く家庭、職場等あらゆる社会における教育、学習、
訓練、自己啓発、人間関係の改善にきわめて有益な理論と方法を提供する。

本講では、上のような事柄を考慮しながら、発達、学習、知能、人格(性
格)、適応、さらには、今日の青少年の社会病理現象、精神衛生の問題を取り
扱う。

この講義受講前に「心理学」を修習していることが望ましい。

教育史

助教授 上野耕三郎

教育は基本的には保守的な営みであろう。それゆえ、いつの時代にも「新
しい教育」が主張される。いま、われわれの周辺には「新しい教育」があふ
れ、あたかもそれが現代の教育病の万能薬であるかのように宣伝されている。
病の源が一体何であるかもわからずに。

もちろん、教育史がその源をつきとめることができる、と明言することは
できないかもしれない。ルソーやデューイはこう言った、だから現代の教育
は彼らが語った教育を移植すべきだ、と主張するのは余りに雑であろう。そ
れよりも、彼らが語った教育の中に、「近代」教育の特質をみることの方が
大事であろう。それはモデルとしての「近代」教育ではなく、批判の対象と
しての「近代」教育である。現代が近代の延長線上にあるとすれば、いくら
かなりとも病のありかを照射できる、と私は考えている。

中野光・志村鏡一郎編『教育思想史』有斐閣新書を用いるので、各自用意
しておくこと。

職業指導

非常勤講師 松田光一
(小樽女子短期大学教授)

- (1) 職業指導の問題所在
- (2) 職業指導の歴史

- (3) 職業指導の理論
- (4) 技術と人間形成
- (5) 労働の心理
- (6) 職業教育（企業内教育を含む）
- (7) 中・高校の進路指導
- (8) 職業指導の現代と問題点

テキスト：市川・柴山「職業指導」，学術図書出版

英文学史 教授 永原和夫

イギリス文学を歴史的に概説するが，受講者には，定期試験のほかに，戯曲及び散文による作品を最低4編読み，レポートを書いてもらう。

テキスト：Waldo Clarke, *A Short History of English Literature* (金星堂 ¥1,700)

英文学演習 I 助教授 君羅久則

英国ロマン派の詩を味読しながら，英詩法・英語修辞法の解説など英詩入門を行い，加えて英詩の分析方法を研究する。

テキスト：藪下卓郎・床尾辰男編注 *A Choice of English Romantic Poetry* (北星堂)

小川二郎・杉本龍太郎編注 *Golden Treasury: a Selection*

参考書：志子田光雄著『英詩理解の基礎知識』金星堂

大山敏子著『英語修辞法』篠崎書林

斎藤 勇著『英詩概論』研究社

斎藤 勇著『英米文学辞典』研究社

斎藤 勇著『イギリス文学史』研究社

言語学概論 非常勤講師 大島 稔 (短期大学部助教授)

言語学は，言語そのものを科学的・体系的に研究する学問である。その言

語学で用いられている方法とはどういうものであるかを，英語を含むヨーロッパの諸言語と日本語あるいは日本周辺の諸言語，北東アジア，北米インディアンの諸言語を中心に具体的な言語事実を例に示しつつ説明し，言語研究の基本的な概念と方法を習得してもらうのが「言語学概論」の目的です。

1年間の授業の中で扱われるトピックは，1) 研究の諸分野，2) 言語学史，3) 言語活動，4) 言語集団（系統的グループ，地域的グループ，言語と社会，言語と文化），5) 世界の諸言語（言語の分布と分類，言語類型論，言語接触），6) 音声学，7) 言語記号，8) 音韻論，9) 形態論，10) 統語論，11) 意味論，12) 言語の変遷（音韻変化，意味変化，比較方法，借用，方言と言語地理学），13) 文字論などである。

教室では，適宜，用意したプリントを配り，授業を進めて行く。また，参考文献は，最初の授業に基本的なものを示し，各論についての文献は，その都度，指摘することになります。

英語学演習 I 助教授 下村 五三夫

英語統語論の形式面（例えば句構造規則）と音声音素論を扱う。

テキストは下村がアレンジして配布する。第一回目の講義のときに，具体的な演習題目リストを示し，演習の進め方を決定する。

Ⅲ 研究指導要項

井上教官担当研究指導

1 研究主題

International Economic History

19世紀前半から両大戦間期にいたる国際経済史を研究主題とします。具体的には、この時期における国際貿易・移民・資本移動・国際金融などの発展・展開過程を概観することによって、19世紀的世界と20世紀時世界とを比較検討してみたい、と考えています。

2 指導要領

3年次と4年次前半までの約1年半の間、国際経済史に関する英文のテキストを輪読します。

4年次の後半からは卒業論文の作成指導に重点を移します。

3 テキスト

A. G. Kenwood and A. L. Lougheed, *The Growth of International Economy 1820-1980, An Introductory Text*, London, 1984.

参考文献については、必要に応じてそのつど指示します。

長谷川教官担当研究指導

1 研究主題

日本経済史のうち、近世後期（幕末開港前後の国際関係と国内経済）。

2 指導要領

3・4年次一下記テストの講読と史料の検討。卒業論文のテーマは上記主題に限定しなくともよいが、3年次末までに方針をたてること。

毎週かなりの量の論文や史料（文語文に近い漢文）を読むことになる。また当時の外交関係の英文も対象にする予定なので、古文・漢文・英語について、ある程度の読解力が必要になる。

3 指導テキストおよび参考書

〔入門〕オールコック著、山口光朔訳『大君の都—幕末日本滞在記—』全3冊、岩波文庫、合計1,750円

〔テキスト〕青木美智男・河内八郎編『講座日本近世史7・開国』有斐閣、1985年刊、2,500円。史料集についてはおって指示する。

4 申し込みの条件

歴史学・社会思想史・経済史概論・経済原論Ⅲなどを履修していることが望ましい。

5 選考の方法（面接・テスト等）

テスト（英文和訳を含む）と面接による。その際、大学入学後、日本史・世界史または社会科学・社会思想に関して読んだ本（1～3冊位）の著者・書名・出版社（または文庫・新書名）と内容を思い出しておくこと。

6 その他

積極的な研究意欲と行動力を期待する。またゼミナールとしての共同の行事を大事にしてほしい。

早見教官担当研究指導

1 研究主題：政府収支の実証理論

2 指導要領：1986年度はレイヤード＝ウォルターズ（荒 憲治郎監訳）『ミクロ経済学』（創文社、1982年）を読んでいる。やがて読了するので、この後で以下を読むことにしている。

Lee S. Friedman, *Microeconomic Policy Analysis* (McGraw-Hill Book Co.), 1984.

報告担当者は担当個所の要旨をプリントして配布する。

3 応募要件は募集期日が来たら知らせます。

久次教官担当研究指導

1 研究主題 統計学の数理的方法論に重点をおく。

2 指導要領

3年次 テキストの講読・討論・演習

4年次 追加文献の講読および卒業論文の作成

卒業論文のテーマは下記の分野から選ぶ。

- 統計学・計量経済学の数理的方法論
- 実証分析
- 統計に関するソフトウェア

3 指導テキスト

3年次生：(1) Phillips, P. C. B. and M. R. Wickens, Exercises in Econometrics, Vol. 1 & Vol. 2, Philip Alan, 1978.

(2) ウオナコット・ウオナコット『計量経済学序説』培風館。

4年次生：Maddala, G. S., Econometrics, McGraw-Hill, 1977.

4 申し込みの条件

統計学を履修中のこと。

経済学科以外に所属する者も受け入れる。

5 その他

(1) 解析学(積分, 偏微分など), 線形代数(逆行列, 掃き出し法, 固有値問題など)については2年次までに修得しておくこと(未履修者も受け入れるが自習してほしい)。

(2) 3年次において「数理統計学」を履修すること。

鶴沢教官担当研究指導

1 研究主題

理論経済学

2 指導要領

3年次では, 英文テキストによる学習, および, その他の論文を読む。

4年次では, 個別テーマに基づく卒業論文作成のための報告と討論を中心にする。

3 指導テキストおよび参考書

Friedman, James W., *Oligopoly Theory*, (Cambridge U. P., 1983).

西村和雄『ミクロ経済学入門』(岩波書店, 1986年)。

P. シャンソール/J. -C. ミルロン(楠本捷一朗訳)『ミクロ経済学』(東洋経済新報社, 1986年)。

遠藤教官担当研究指導

1. 研究主題

計量経済モデルの組み立てと推定

2. 指導要領

3年次生は下記テキストの講読, 4年次生は昨年度のテキストの講読を続けることと卒業論文の作成。

3. テキスト

Bridge, J. L., *Applied Econometrics*, North-Holland, 1971.

栗田教官担当研究指導

1 研究主題 経済学の古典と現代。

2 指導要領およびテキスト 経済学の古典の精読。

3年次：A. マーシャル『経済学原理』(馬場啓之助訳)全4冊, 東洋経済新報社。

4年次：J. M. ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』(塩野谷祐一訳), 東洋経済新報社。

卒業論文の作成。

3 参考文献 M. Blaug, *Economic Theory in Retrospect*, 4th ed.

Cambridge University Press, 1985.

今教官担当研究指導

1. 研究主題

金融論およびマクロ経済学

2. 指導要領

テキストの輪読。

各自の選んだテーマについて報告してもらい, 討論する。

3. テキスト

3年次：未定

4年次：Dornbusch - Fischer, *Macroeconomics*, 3rd ed.

佐竹教官担当研究指導

1. 研究主題

「保護貿易主義の研究」

保護貿易主義が近年アメリカやヨーロッパで台頭してきた政治・経済的な背景、保護貿易政策の程度、経済的効果等を検討する。

2. 指導要領

3年次生は国際経済学の基礎的な理論を修得の上、下記の文献を輪読する。4年次生は卒業論文の作成指導を行う。

3. テキスト

D. Greenaway, *International Trade Policy*, Macmillan, 1983.

船津教官担当研究指導

1. 研究主題

「国際経済に関する実証的分析」

個別テーマ

- 国際貿易と危険管理
- 比較優位説の実証的分析
- 為替レートの収支調整機能
- 先物市場の効率性について

2. 指導要領

3年次前半においては、下記テキストの輪読と討論を通じて、国際経済学における実証分析のあり方について学んでもらう。同時に、計量経済学にも親しんでもらう。

3年次後半からは、上記個別テーマに沿って、研究雑誌論文を読み、また、データの収集にあたる。

4年次には、卒業論文の作成を行う。

3. テキスト

Edward E. Leamer, *Sources of International Comparative Advantage: Theory and Evidence*, (1984) The MIT Press, Cambridge, MA.

本間教官担当研究指導

1. 研究主題

経済発展の過程で、農業は重負担を課される産業から保護される産業へと転換していく。このような経済発展と産業政策の関係を農業に焦点をあてながら、国際比較および歴史的比較を通じて実証的に研究する。その中には世界の食糧問題、南北問題、農産物貿易摩擦問題などのトピックスが含まれる。

2. 指導要領

3年次は各種文献の講読と特定のトピックスについての報告をしてもらう。討論を重視する。

4年次は卒業論文の指導。

3. 指導テキストおよび参考書

速水佑次郎『農業経済論』岩波書店。

渡辺利夫『開発経済学』日本評論社。

山本(賢)教官担当研究指導

1. 研究主題

ミクロ経済理論——とりわけ世代重複モデルを中心とする、異時点間の資源配分の理論に、現在の私の関心があるので、そのような分野へのバイアスがあることに、あらかじめ留意してください。

2. 指導要領

3年次：ミクロ経済分析の習熟に努めます。そのために、基礎的な文献に接し、分析用具を身につけると共に、卒業論文のテーマを決定していただきます。

4年次：卒業論文作成のための助言や指導を行いません。但し、参加者相互の討論を中心に、ゼミナールをすすめます。

3. 指導テキスト

開講時に、reading list を用意します。

板谷教官担当研究指導

1. 研究主題

公共経済学および産業組織論の分野における標準的かつ基礎的な文献を読破して、基礎的な理解を深めるとともに、最新のトピックスについても展望を得ることを目標とします。もちろん、原書(英語)に慣れることも、もうひとつの目標です。

2. 指導要領

3年次および4年次前半：テキストの輪読および発表。

4年次後半：卒業論文の作成に関する報告。

3. 指導テキストおよび参考書

Corens and Sandler, *The Theory of Externalities, Public Goods, and Club Goods*, Cambridge Univ. Press, 1986.

村上雅子『社会保障の経済学』, 東洋経済新報社。

その他, 産業組織論に関する邦文または英語文献をもう一冊予定(未定)。

4. その他

ゼミでは、文献の理解とともに、多くの文献を読むことを目標とするので、ある程度の速読も必要とされます。

卒論のテーマは上記分野より各自(またはグループ)が選択して、実証研究を行なうことを要求する。この場合、計量経済学的手法やコンピューターの使用(各種統計パッケージの使用)を必須要件とする。

坪沼教官担当研究指導

1. 研究主題

投資家の資産選択, 企業金融, 及び資本市場における証券価格決定メカニズムなど金融システムにかかわる諸問題を理論的に分析し, 最終的には日本の金融システムのあり方を考えていく。

2. 指導要領

3年次：日本語の基礎的なテキストを読んだ後, 英文テキスト又は論文を輪読

4年次：卒業論文の指導

3. 指導テキスト

参加者と相談のうえ決定

松井教官担当研究指導

3年次：R. Z. Aliber. *The International Money Game*, 4th edition, Basic Books, 1983 を読む。

4年次：卒業論文指導

石原教官担当研究指導

1. 研究主題

金融・資本市場の研究

2. 指導要領

(イ) 4年次生 証券市場論に関する文献を読み, 自分の興味のありかを確認し卒論のテーマを決める。卒論は個人指導とする。

(ロ) 3年次生 金融論の領域の文献を皆で読む。

文献は, 四月開講期に相談の上きめる。

久野教官担当研究指導

1. 研究主題

会計学(簿記学を含む)

2. 指導要領

3年次：わが国の『企業会計原則』の批判的研究と外書講読を中心にして基礎的知識を修得させる。

4年次：卒業論文の指導—各人の発表をもとにしてディスカッションを行う。

3. 指導テキストおよび参考書

3年次の後半において使用する外書は学生諸君と相談のうえ決定する。

4. 申し込みの条件

2年次終了時において語学その他の基礎教育科目の所要単位を取得し,

かつ簿記学の単位を優秀な成績で取得可能な者

5 その他

ゼミという組織にかんがみ、ゼミに求める以上にゼミに貢献できる人物を望みます。

篠崎教官担当研究指導

1 研究主題

84年次生 — 地域再開発に関する産業政策と地場企業経営

85年次生 — 衰退の経営学

2 指導要領

全般：社会科学のものの考え方を基礎に現実の地域が抱える問題の解明へと至る。

3年次生：社会科学および現代経営学の基礎的文献の講読。

4年次生：地場企業経営の実態分析を通して地域産業政策との接点を探り卒論形成へと導く。

3 テキスト

内田義彦『資本論の世界』岩波新書、バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社。

和田(完)教官担当研究指導

テーマ：産業精神衛生。

企業体やそれを取りまく社会環境が、労働者にいかなる精神的問題を誘発するかという点に焦点を合わせて研究する。

3年次：臨床心理学、社会病理学等、関連領域についての常識を養ってもらうために、文献、施設見学等を中心に概論的研究を行う。

4年次：3年次にえた知識をもとに、関心のあるテーマをできるだけ早く決定し、卒業論文の作成、完成を早期に目指す。

文献は、概論書は教室で用意する。また、専門論文は指定したものをコピーして使用してもらう。

青山教官担当研究指導

1. 研究主題

証券と金融の諸問題および理論に関する研究

2. 指導要領

3年次生：金融、証券に関する基本的文献を読み、基礎的理論の修得と問題意識の醸成につとめる。

4年次生：前期は金融の証券化に関する文献を読む。後期は各人の卒論テーマにそって個人報告を順次行なうなど、卒論作成に向けた個別的指導を中心とする。

3. テキスト

3年次生：金融資本に関する文献を予定。

4年次生：松井和夫『金融の証券化』東洋経済新報社。

小田教官担当研究指導

1. 研究主題

現代企業の「所有—支配—経営」の構造

2. 指導要領

3年次—テキストの輪読

4年次—各自の選択した卒業論文テーマに関する報告と討論

3. 指導テキスト

奥村宏『法人資本主義—「会社本位」の体系—』、御茶の水書房、1984年、1,800円。

その他、もう一冊読む予定（英語文献）。

中教官担当研究指導

1. 研究主題

管理会計論：われわれのゼミナールにおける学習内容を明らかにするために、ゼミ生がよく取り上げる卒論のテーマを示してみよう。それらは、たとえば、「CVP分析と線型計画法、あるいは不確実性」、「コスト・

ビヘイビアの分析」, 「予算シミュレーション」, 「価格設定」などである。管理会計論の学習内容に関して, さらに興味のある人は「溝口一雄編著, 文献学説による管理会計の研究」を参照されたい。

2. 指導要領

また, 最近経営分析をテーマとするゼミ生が増える傾向にあるが, このテーマの下では統計学の知識が必要となる。

3年次生: 「原価計算」を当初は学習し, 後半からは各自の選択したテーマについて発表してもらい, 卒論作成へ向けて指導する。

4年次生: 引き続き卒論作成の指導を行なう。

3. 指導テキストおよび参考書

未定

福島教官担当研究指導

1. 研究主題

原価計算および管理会計

2. 指導要領

3年次の前半では基本的な「原価計算」および「管理会計」のテキストによって基礎知識を身につけ, その後半から4年次にかけて「管理会計」の外国語文献(英文)の精読によって理解を深める。ひきつづき卒業までに, 各自選択したテーマで卒業論文を執筆する。

いずれの段階においても, 単なる知識の修得だけでなく, 討論を通じて研究主題特有の考え方を培うことを目標にする。

3. テキスト

3年次前半で使用するテキストは辻厚生編著『管理会計の基礎理論』(中央経済社, 1985)および津曲直躬『原価計算論講義』(中央経済社, 1985)。後半から使用する英文テキストは今のところ未定であってゼミ生と相談して決めるが, 現在のところD. T. DeCoster and E. L. Schafer, Management Accounting: A Decision Emphasis, 3rd ed. を考えている。

4. 留意事項

ゼミ生には旺盛な研究意欲とともに地道な学習努力を要求する。

松本(康)教官担当研究指導

1. 研究主題

簿記, 財務会計論, および国際会計論

2. 指導要領

3年次: 上記研究主題について, 次の予定に従って文献を数冊輪読する。

	簿記	財務会計論	国際会計論
--	----	-------	-------

春休み	基礎的知識の習得		
-----	----------	--	--

4月		入門的な概観	
----	--	--------	--

6月	上級簿記の習得		
----	---------	--	--

夏休み		基礎的知識の充実	
-----	--	----------	--

9月		夏休みの成果発表	
----	--	----------	--

10月		制度会計の全般的検討	
-----	--	------------	--

冬休み			全般的検討
-----	--	--	-------

1月			冬休みの成果発表
----	--	--	----------

春休み		特定テーマの検討	
-----	--	----------	--

4年次: 卒業論文の作成を最終目的として, 各自の選択したテーマについて発表と討論を重ねる。

3. 指導テキストおよび参考書

具体的には未定であるが, ともかく外国語文献(英語)も取り上げる予定である。

4. 申込みの条件

第1に, 目的意識のはっきりとした勉強意欲の旺盛な者であること。第2に, ゼミ全体の見地から何らかの貢献を果たそうとし, 行動できる者であること。

5. その他

2年次終了時に簿記学を履修したか否かについては問わない。問われるのは, 各自の意欲と努力である。なお, 当ゼミは「よく学び(こちらが基本), よく遊び」の方針である。したがって, 課外活動にも積極的に参加すること。

森田教官担当研究指導

1. 研究主題
国際経済関係論。とくに東西経済関係について。
2. 指導要領
3年次：文献の輪読を通じて問題意識を形成し、基本的枠組みを修得する。
4年次：自らの問題意識を基本的枠組みに照らして分析する作業の指導を行なう。
3. テキスト
Franklyn D. Holzman, *Foreign Trade under Central Planning*, Harvard University Press, 1974.

山本(真)教官担当研究指導

1. 研究主題
簿記および財務会計
2. 指導要領
3年次においては、文献講読、レポート提出により会計学の基本的思考を修得し、4年次において、各自の選択したテーマに従って卒業論文を作成する。指導計画は次のとおりである。
3年次前期：邦語テキストの輪読と報告
3年次後期：外国語テキストの輪読と報告
4年次前期：上記の継続
4年次後期：卒業論文の作成指導
3. テキスト
飯野利夫著『財務会計論(改訂版)』(同文館)
外国語テキストについて未定。

高田教官担当研究指導

1. 研究主題
多国籍企業の経営活動
2. 指導要領
3年次：テキストの輪読・討論
4年次：卒業論文の作成
3. テキスト
テキストは多数(英文も多用)。適宜指示します。

青竹教官担当研究指導

1. 研究主題
会社法の研究
2. 指導要領
会社法に関する具体的問題をテキストおよび参考書より取り上げて検討してもらい、会社法が企業活動とどのようにかかわっているかを知ってもらおう。自発的な討論を期待しています。
なお、4年次の後半は卒業論文の作成指導が中心となります。
3. 指導テキストおよび参考書
(1) 土柳・鴻・竹内編『会社法演習Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』有斐閣
(2) ジュリスト別冊『会社判例百選(第四版)』有斐閣
(3) 河本一郎編著『会社法教材』育事法務研究会

秋山教官担当研究指導

1. 研究主題
「行政判例の研究」
過去の重要な行政判例をとりあげ、具体的なケースを通して行政法の理解を深めるとともに、法律的な分析能力、思考能力を養うことをねらいとする。
2. 指導要領

3年次生はとりあえず下記の(1)を用い、行政判例の読み方と解釈論の基礎を身につける。4年次生は下記(1)および(2)を用い、直接判決文にあたりながら深く判例理論を分析する能力を養うこととし、後半は卒論作成を中心とする。

3. 指導テキスト

(1) 行政判例百選 I, II (別冊ジュリスト)

(2) 判例時報

なお、昭和62年度ゼミ履習者は、4月開講時までに各自上記(1)を入手しておくこと。

大谷教官担当研究指導

研究指導テーマ：国際社会と法秩序

研究指導方法：3年次 原書講読

4年次 卒業論文作成指導

選考対象：国際関係に関心をもち、具体的な目的意識をもつもの。

神田教官担当研究指導

設例問題もしくは最高裁の重要判例の分析・検討をとおして、民法の全体像・運用の実際を理解するとともに、民法学上の現代的課題を研究する。財産法の領域を中心とするが、必要に応じ、家族法の部分にも及ぶ。

毎回、少なくとも2名の者から研究の結果を報告してもらい、それをうけて、全体でその当否を論議し、問題点を究明するという手法をとる。

桑原教官担当研究指導

1. 研究主題

国際取引法上の諸問題

2. 指導要領

3年次および4年次前半 下記テキストの輪読

4年次後半 卒業論文指導

3. 指導テキスト

Gutteridge & Megrah, The Law of Bankers' Commercial Credits (1984)

島田教官担当研究指導

1. 研究主題 現代労働法学の重要問題の検討

2. 指導要領

3年次 ①テキストの輪読および報告

②判例の読み方の修得

4年次 ①判例研究

②卒論指導

3. テキスト

菅野和夫『労働法』弘文堂

判例については、その都度指示する。

清水教官担当研究指導

1. 研究主題

「国際経済法」

国際経済法という分野は、国際法で経済に関係する部分とそれに関連する国内法を研究対象とする。この研究指導においては、その中でも国際通商の公的な規制に関する法律問題を取り上げる。中心的な課題は、ガットという法的枠組において貿易摩擦問題がどのように扱われているかを検討することである。

2. 指導要領

3年次及び4年次前半：下記のworking paperを講読した後、ガットの紛争処理手続において扱われた具体的な事例を検討する。

4年次後半：卒業論文作成の指導を行う。

3. 指導テキスト及び参考書

(1) Lacharrière, The Settlement of Disputes Between Contract-

ing Parties to the General Agreement (1985) (GATT working paper).

- (2) 三宅正太郎『貿易摩擦とガット』(1985)〔日本関税協会〕。
- (3) 松下満雄『日米通商摩擦の法的争点』(1983)〔有斐閣〕。

中村(恵)教官担当研究指導

1. 研究主題
国際法上の基本問題
2. 指導要領
3年次 — 国際法に関する文献の輪読及び国際法判例の研究
4年次 — 卒業論文作成指導
3. 指導テキスト
文献及び判例を、その都度指示します。

丸山教官担当研究指導

1. 研究主題
刑事法領域における諸問題
2. 指導要領
3年次 判例の検索、論文の探し方等について基礎的な指導をした後、個別テーマを設定し、報告、討論を行なう(1回に2テーマ)。
4年次 前期は個別テーマの報告、討論(3年次に同じ)。後期は、卒業論文指導。
3. 指導テキスト
なし。但し、刑法総論の教科書(著者は指定しない)を必ず持参すること。

結城教官担当研究指導

1. 研究主題
近代立憲主義の基本原理

2. 指導要領
3年次 下記テキストの輪読及び討論
4年次 卒業論文の作成・報告
3. テキスト 小嶋和司編『憲法の争点(新版)』(ジュリスト増刊・法学の争点シリーズ2)有斐閣

和田(健)教官担当研究指導

1. 研究主題
流通機構と法制度
2. 指導要領
assignment に従って各自が課題について報告し、そのなかから卒業論文のテーマを選択する。
3. 参考書
教授要目の経済法の項、〈参考書・教科書〉欄参照。ゼミではこのほか多くの文献・資料を読む。

浅木教官担当研究指導

1. 研究主題
銀行取引法の研究
2. 指導要領
銀行取引に関する基本知識を修得したうえで、この分野における重要判例の研究を行なう。
レポーターによる発表と、これを受けた討論により進めることとする。
3. テキスト
加藤一郎・吉原省三編「銀行取引(第4版)」有斐閣選書
銀行取引判例百選(新版)有斐閣

戸島教官担当研究指導

1. 研究主題
エキスパート・システム
2. 指導要領
OPS5系のエキスパート・システム構築ツールを使用して数式処理言語 REDUCEのコンサルテーション・システムを構築する。
3. 指導テキストおよび参考書
OPS5系エキスパート・システム構築ツールのマニュアル, REDUCEのマニュアル。

沼田教官担当研究指導

1. 研究主題：オペレーションズ・リサーチ
オペレーションズ・リサーチには多数・多種類の分野や手法がある。それらのすべてについて勉強することは不可能であるが、オペレーションズ・リサーチという「応用科学」についての基礎的知識、理解を形成することを目的とする。
2. テキスト：Hans G. Daellenbach, John A. George & Donald C. McNickle, *Introduction to Operations Research Techniques* (Allyn and Bacon, 1983)
3. ゼミ所属の条件：
イ 管理科学概論履修済みのこと。
ロ 応用数学(代数)に合格すること。
ハ 情報処理 I 不合格の場合はゼミを辞退してもらう。

樋口教官担当研究指導

1. 研究主題
社会システム・モデルに関する理論的および実証的研究
2. 指導要領
3年次：テキスト講読とコンピュータ・プログラミング演習。

4年次：テキスト講読および社会システムのモデル構築のためのシステム分析、データ収集、プログラム開発ならびにデータ解析(卒業研究)。ゼミで扱う研究内容は管理科学Ⅱでとりあげたテーマをより詳細にしたものと考えてさしつかえない。したがってそれを必ず受講することを条件とする。

3. テキスト
3年次：Mathematical Methods of Operations Research
Thomas L. Saaty
4年次：数量化理論入門, 小林龍一, 日科技連

山田(一)教官担当研究指導

- I. 研究主題
 1. Office Automation についての基礎的理論研究(マイコン, オフコンの操作, プロジェクトへの参加により, OAをはだで感じてもらう。)
 2. 経営情報論
(OAのバック・グラウンドである企業組織について文献研究。)
 3. 組織管理を目指す情報システムの理論構築(OA, FA, MA, LA, HA等の各Automationの融合理論にまで発展させる。)
FA = Factory Automation, MA = Management Automation,
LA = Laboratory Automation, HA = Home Automation
- II. 指導要項
商学部のゼミとして, 実践的な研究を行う。将来の企業人を養成できると信ずる。卒論のテーマ及び使用するテキスト等は, 相談の上決定する。
 - 1) 3年目/①使用テキストを決め輪読形式で研究
② Computerの操作及び基礎知識の修得
③ 実践的なプロジェクトへの参加
 - 2) 4年目/①各自のテーマ設定による卒論の完成
②理論と実践のマッチングを行う
- III. 指導テキスト及び参考書
 1. アメリカ及びドイツの組織システム論についての文献
 2. アメリカのManagement Scienceについての文献

3. アメリカのComputer Science についての文献
 (1は輪読。2, 3は各自のテーマに添い選択。いずれも文献は相談の上決定する。)

IV. 申込みの条件

真の人間尊重をめざした道具(パートナー)としてのComputerの活用
 の実践に向けて、意欲を傾ける努力家を歓迎する。

清水川教官担当研究指導

1. 研究主題

統計学

2. 指導要領

統計手法の使い方を学ぶ。

3. テキスト

W. R. Dillon 他,

“Multivariate Analysis”

methods and applications 1984.

杉本教官担当研究指導

1. 研究主題

情報処理の基礎理論と応用

2. 指導要領

• 知識の表現と処理方法についての学習

• 知識処理のための言語の開発

3. テキスト

西田富士夫 「言語情報処理」コロナ社

大須賀節雄 「知識情報処理」オーム社

中村(隆)教官担当研究指導

1. 研究主題

コンピュータ・グラフィックス

2. 指導要領

3年次：テキスト講読とプログラミング演習により、コンピュータ・グラフィックスの基本原則、考え方、基本技法などについて勉強する。

4年次：卒業論文作成指導。

3. 指導テキスト

ハリントン：アルゴリズムとプログラムによるコンピュータグラフィックス(I), (II), マグロウヒルブック

若林教官担当研究指導

1. 研究主題

「管理科学の基礎的研究」

- マイクロコンピュータと数理計画法(線形計画法, 二次計画法)
- アルゴリズムとデータ構造(Modula-2)

2. 指導要領

- 管理科学の幅の広いものの見方・考え方を養う。
- 指導テキストの輪読と演習。
- 下記のテーマについての卒業論文の作成を指導。

数理計画法, 生産在庫計画, 現代ゲームの理論, ネットワーク・グラフ理論, プログラミング暗号学その他。

3. 指導テキストおよび参考書

Linus Schrage, *Linear Programming Models with LINDO*,
 The Scientific Press, 1982. の予定。

永原教官担当研究指導

1. 研究主題

英米小説及び文芸批評

2. 指導要領

3年次：毎週小説一編を読み、発表・討論を行なって文学研究の基礎を養成し、あわせて現代文芸批評について指導する。

4年次：各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）を最終目的として報告と討論を中心にする。

3. 指導テキスト及び参考書

C. Brooks & R. P. Warren, *Understanding Fiction* 3rd edition, (Holt, Rinehart and Winston, 1976)

E. M. Forster, *Aspects of the Novel*

Robert Scholes and Robert Kellogg, *The Nature of Narrative* (New York, 1966)

原田敬一訳『MLA新英語論文の手引き』（北星堂）

君羅教官担当研究指導

1. 研究主題

英文学（シェークスピア及び英詩）

2. 指導要領

3年次：毎週英詩数編を読み、発表・討論を行ない、英詩の分析法を中心に文学批判・研究の基礎を養成する。

4年次：前半は3年次と同じ内容を続け、後半からは各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）を最終目的として報告と討論を中心にする。

3. 指導テキスト及び参考書

C. Brooks & R. P. Warren, *Understanding Poetry*, 4th ed. (Holt, Rinehart and Winston, 1976)

F. T. Palgrave: *The Golden Treasury* (Oxford U. P., 1964)

原田敬一訳『MLA新英語論文の手引き』（北星堂）

志子田光雄『英詩理解の基礎知礎』（金星堂）

下村教官担当研究指導

言語音声学（Linguistic Phonetics）の研究指導をします。今年度は、①音声素論 ②生成音韻論 ③実験音声学を中心に指導します。

卒業年次生には、各自の関心に応じたテーマを設定し、研究論文にまとめあげる手助けをします。この論文には、必ず実験音声学による資料の解析結果が盛り込まれていなければなりません。

申し込みの条件

- (1) 商業教員養成課程に所属していること。
- (2) 英語教員免許のための教職に関する専門科目を24単位以上取得のこと。

山本(久)教官担当研究指導

1. 研究主題

生成文法理論

2. 指導要領

3年次：毎週生成文法理論に関する論文を読み、生成理論の基礎を養成する。

4年次：各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）作成を最終目的として報告と討論を中心とする。

3. 指導テキストおよび参考書

Emmon Bach, *Syntactic Theory*

Noam Chomsky, *Studies on Semantics in Generative Grammar*

原田敬一訳『MLA新英論論文の手引』（北星堂）

IV 一般教育ゼミ

一般教育ゼミ (日本文学)

教授 村山 出

短歌によって、自分の世界を表現したいと思う人は、参加して下さい。

短歌は、衰退と革新を繰り返しながら、日本人の抒情形式として最も長い歴史をもっています。その抒情のあり方については、問題とすべき点も少なくありませんが、伝統的な形式の中に、どのような斬新な抒情をもちこむことができるか、挑んでみませんか。

昨年度は、主として近代・現代歌人の短歌を鑑賞研究し、各自が創作した短歌を批評しあい、最後に、1年間の結果を手づくりの小歌集にまとめました。

今年度は、どのようにするか、皆さんと相談したいと思います。

未経験で結構です。短歌について考え、作ってみたいと思う人は、下記の日時・場所に集まって下さい。昨年度の参加者もぜひ集まって下さい。

日時：4月21日(火) 4講目

場所：456室(新棟4階)

一般教育ゼミ (数学)

助教授 兼 岩 龍 二

テキスト：トポロジーと幾何学入門 I. M. シンガー / J. A. ソープ
共著 培風館

トポロジーは現代数学をささえる1つの柱で近年は経済学等思いもよらぬ分野にも応用されるようになった。本ゼミは上記テキストの輪読ゼミで諸君が先生になって講義をしてもらいます。予備知識は中学程度の数学で十分です。希望者は4月27日(月) 16:40 小生の研究室に集まって下さい。

一般教育ゼミ (数学)〔確立論〕 白川 寛

確立論の基礎的学習をします。テーマは限定しませんが、統計学及び数理統計学は、はいりません。テキストは参加者と相談の上決めます。希望者は4月28日(火) 4時30分ごろ、白川の研究室(432)に来て下さい。

一般教育ゼミ (ドイツ語Ⅲ) (前期) 助教授 大塚 譲 (後期) 講師 寺田 龍 男

すでにドイツ語I・ドイツ語IIを修得し、さらにドイツ語の勉強を続けたい人を対象とします。テキストは、こちらで用意するプリントを用います。ドイツ語の現代文に触れながら、複雑な初級文法項目の復習や中級文法項目の習得、さらには応用作文練習などを通じて、正確な読解力を養成することを主眼において授業を進めます。折に触れてビデオ教材も使います。後期はもっと本格的な時事的評論文に進む予定です。やや厳しい授業になるでしょうが、辞書さえあれば標準的な現代文ならひとりで読みこなせる程度の、言葉の本来の意味での中級の実力の達成を目指してほしいと思います。

参加希望者は4月20日(月) 12時30分に大塚(旧研究棟424)の研究室にお集り下さい。授業をする曜日、時間は、その時相談の上決めたいと思います。

V 卒業論文執筆要領

卒業論文の形式について一般的な原則をのべるが、専攻分野ごとに、用語・文献の引用方式・記号の利用などに差があるので、指導教官の指示に従うこと。

I. 用紙など

和文で執筆する場合には、所定の原稿用紙を使用し、黒またはブルー・ブラックのインクを用いる。油性インクのボールペンは避けた方がよい。文字は楷書とし、誤字・脱字に注意する。多色にする必要がある場合にも一定の方針をたてて統一し、さらに、必要最低限の多色化にとどめること。なお、ワード・プロセッサで作成する場合の用紙の規格、体裁及び1ページの文字数等については、指導教官の指示に従うこと。欧文で執筆する場合には、通常サイズの白地のタイプライター用紙にタイプ印刷する（いわゆるオニオンスキンは使用しない）。

II. 提出期限など

今年度は、1月31日(土)12時30分(時間厳守)なので十分留意すること。仮り綴じのうえ、附属図書館で図書返却の確認を受けたのち、製本料を添えて教務係に提出する。仮り綴じのためには、教務係のドリルを使用してもよい。製本料は確定次第掲示で通知する。

表紙のみ、あるいは目次程度、または序章程度といった論文とは認めがたい卒業論文は受理しない。

III. 表紙および裏表紙

表紙と裏表紙は本文と同一の用紙を用いる。表紙には論文のタイトル、学生番号、氏名、ゼミナール名、および提出年度(昭和62年度提出)を記し、裏表紙に図書館の確認印を受ける。タイトル等は原簿に記入され、成績証明書、図書館の目録カード、製本後の背表紙の書きこみ等の場合に必要になるので、正確に書くこと。なお、副題をつける場合には、その左右を棒線ではさむ。

IV. 「はしがき」と「目次」

「はしがき」(「まえがき」,「序」)にはテーマを選択した動機などを書く。なお、指導や助言を受けた人達、調査等に協力した人達に対する謝辞もここに書く。ただし、「はしがき」は省略してもよい。「はしがき」と「あとがき」の両方を書くことは、卒業論文の場合、概して不適當である。

「目次」は「表紙」または「はしがき」の次の用紙に書く。必要に応じて、「表目次」,「図目次」を別につけ加えてもよい。

V. 本文

- (1) 文体は「……である」の形とし、なるべく簡潔な文章とする。
- (2) 新しい章は新しいページから始める。
- (3) 章題と文章、あるいは、章題と節題の間は1行あける。
- (4) 章(節)の番号と章(節)題の間は1マスあける。
- (5) 各節の間は2行あける。
- (6) 新しいパラグラフの始めは1マスあける。
- (7) 句読点などは1字とする。ただし、行末の句読点は「ブラサゲ」として、マスの欄外に書き、次行のはじめにはもっていかない。
- (8) 欧字と算用数字は、原則として2字で1マスとする。
- (9) 欧文イタリック文字は、単語の下または文章の下にアンダーラインを引いて示す。

VI. 図表

表とグラフは、グラフ用紙や集計用紙に書いて、原稿用紙の当該箇所にはりつける。場合によっては「別表」として論文の末尾にまとめてよい。原稿用紙と同じサイズになる場合には、はりつけずに、そのまま1ページ分として綴じこんでもよい。他の文献等の図表のコピーをそのまま利用することは、特別の場合を除いて、避けるべきである。計算機のプリントアウトは、サイズがあえば、そのまま1ページとしてよい。これらの場合に、製本のとくにヘリを数ミリメートル切り落すことがあるので、上下左右は十分にマージンをとっておくことが必要である。また、図表には出所を明記する。

Ⅶ. 「注」

指定原稿用紙では「脚注」をつけることができる。しかし、1つの注を3ページ以上に分けることは不適當であるから、長い注については工夫が必要である。注は各章の終りにまとめて書いてもよい。なお、注のなかに注をおいてはいけない。

Ⅷ. 引用文献、参考文献、および引用について

文献からの引用には必ず「」(欧文引用のときには“ ”)をつけ、その文献を注などで明示する。なお、原典自体のなかに「」(または“ ”)が含まれる場合には、原典中「」(または“ ”)を『』(または‘ ’)に代える。要約して引用するときには、原文の文意を損わないようにし、更に要約引用の範囲が分るように、出典と引用箇所を(たとえば注を用いて)明示する。「孫引き」は、できるだけ避けて、原典にあたってチェックすべきであるが、やむを得ない場合には再引用であることを明記する。

引用文献、参照文献は注番号を明示したうえで、脚注部分に記載するか、または論文末尾(または各章末尾)に一括して記載する。文献記載の原則は次の通りである。

和 書

著者名『書名』、出版社名、出版年。

または

著者名『書名』(出版社名、出版年)。

引用ページを明示する場合には、このあとに引用ページを書く。

〈例〉 藤瀬浩司『資本主義世界の成立』(ミネルヴァ書房、1980年)、56頁。

小宮隆太郎・天野明弘『国際経済学』、岩波書店、1972年、pp. 8-10。

翻訳書の場合にも

〈例〉 J. ブーヴィエ(井上隆一郎訳)『ロスチャイルド』(河出書房新社、1966年)、第3章。

R. A. Mundell, *International Economics*, New York: Macmillan, 1968, (渡辺・箱木・井川訳『国際経済学』、ダイア

モンド社、1971年)。

などが通常の形式である。(なお、以上は文献を引用するときの原則であるから、提出卒業論文の表紙のタイトル全部を『』でかこんではならない。)

和雑誌のなかの論文(および論文集の中の一つの論文)

著者名「論文名」、『雑誌名』第△△巻、第△号(発行年)。

著者名「論文名」、編者名『書名』出版社名、出版年。

(または、著者名「論文名」、『書名』(編者名)出版社名、出版年)。

などとする。

〈例〉 関口尚志「イングランド銀行パーミンガム支店」、『経済学論集』(東京大学)第47巻第2号、××頁。

岡田純一「近代経済学とスミス」、経済学史学会編『国富論の成立』、岩波書店、1976年、p. 345。(複数ページの場合、pp. 345 ~ 351.)

洋書および洋雑誌のなかの論文

著者名、書名、出版地：出版社、出版年

著者名、“論文名”、雑誌名、Vol. 巻数、No. 号数(発行年)

等とする。ただし、出版地：出版社を()に入れることもある。また“論文名”、雑誌名の代りに“論文名”、雑誌名とすることも多い。著者名は A. Smith とする場合と Smith, A. とする場合の両方があるが、著者名が2つ以上並ぶ(共著の)場合に、2人目以後の人名については、A. Smith (または Adam Smith) のようにファースト・ネームを先に書くのが一般である。雑誌の No. 号数はしばしば省略する。また、Vol. および No. の代りに vol. および no. とすることも多い。

これらについては、標準的な図書および雑誌を参照して、もっとも適當と思われるものを選択したうえで、統一して使用する。

さらに、op. cit.、loc. cit.、Ibid.、(または ibid.) 等もよく利用される辞書などで意味を調べて、誤用しないことが必要である。

参考文献

パーカー, W.R. 監修 (原田敬一訳) 『MLA 英語論文の手引— The MLA Style Sheet—』 (北星堂書店, 改訂版, 1969年)。

トゥラビアン著 (高橋作太郎訳) 『英語論文の書き方』 (研究社出版, 1982年)。

※ この要領をまとめるに当っては, 何人かの教官の御協力をいただいたが, とくに、『井上ゼミナール用卒業論文執筆要領』と佐竹教官がまとめたメモとを参照した。

注(1) 書名, 雑誌名についているアンダーラインはイタリックを使用せよという指示である。

注(2) op. cit., loc. cit., Ibid., は, 引用によってローマン体を使うかイタリック体を使うかわかる。

<例> op. cit., (前掲の意味) で前掲が, 論文名であればローマン体, 前掲が書名, 雑誌名であればイタリック体を使用する。
loc. cit., (上記引用文中), Ibid., (同上) も同様である。
なお, Ibid については, 先頭に来る時は大文字となる。